

平成 24年度
老人保健事業推進費等補助金
(老人保健健康増進等事業)

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法
に関する調査研究
報告書

平成 25 (2013) 年 3 月

MRI 株式会社 **三菱総合研究所**

目 次

要 旨	i
I 背景と目的	1
II 研究事業の実施体制	2
1. 検討委員会の設置・運営	2
2. 検討委員会における検討内容	2
III 調査研究の流れ	3
IV 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の実施	4
1. 調査の概要	4
2. 調査対象事業所	4
3. 調査対象利用者	4
4. 調査日	5
5. 調査の方法	5
6. 調査項目	7
V 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の結果	9
1. 回収等の状況	9
2. 事業所の基本情報	9
3. 利用者の基本情報	40
4. 各アウトカム評価指標の結果（1回目）	46
5. 各アウトカム評価指標の変化（3回目-1回目）	57
6. 各アウトカム評価指標の変化の傾向	75
VI 生活期リハビリテーションの効果の評価方法に関するヒアリング調査	100
1. ヒアリング項目	100
2. ヒアリング結果	101
VII 生活期リハビリテーションの効果の評価方法に関する考察	108
1. 生活期リハビリテーションの効果を評価するための指標の計測について	108
2. 生活期リハビリテーションの効果を評価するために適切な指標について	109
VIII 本研究の結論と今後の課題	110

- 参考資料1 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査 事業所調査票
参考資料2 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査 利用者調査票

【要 旨】

I 目的

本調査は、介護報酬改定検証・研究委員会における生活期のリハビリテーションの具体的内容、リハビリテーション・機能訓練のアウトカムの評価方法についての検討の基礎資料として、リハビリテーション分野において一般的に利用される指標のうち、生活期リハビリテーションのアウトカム評価に活用可能性がある指標について評価・検討し、生活期リハビリテーションのアウトカム評価の可能性について示唆を得ることを目的とした。

II 調査の方法

(1) 検討委員会の設置

実施に際し、調査研究の企画、調査方法・様式の検討、調査結果の分析・まとめを行う場として、リハビリテーションの専門家等で構成する検討委員会を設置した。

(2) 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の実施

1) 調査の対象

	調査対象事業所	調査対象利用者
通所リハビリテーション	27 事業所 (全国老人デイ・ケア連絡協議会の協力による選定)	事業所においてサービス時間区分、年齢、要介護度別に大きな偏りが生じないよう、16 名の利用者を選定。
通所介護	10 事業所 (日本在宅介護協会の協力による選定)	事業所においてサービス時間区分、年齢、要介護度別に大きな偏りが生じないよう、16 名の利用者を選定。
訪問リハビリテーション	12 事業所 (日本訪問リハビリテーション協会の協力による選定)	事業所において年齢、要介護度別に大きな偏りが生じないよう、8 名の利用者を選定。

2) 調査の方法

本調査は、郵送配布・郵送回収により実施し、同一の利用者について平成 24 年 10 月、12 月、平成 25 年 2 月の 3 回調査を行った。また、本調査の実施後に各サービス 1 事業所ずつに対してヒアリングを行い、本調査で評価を行ったアウトカム指標についての意見や感想等を収集した。

3)評価を行ったアウトカム指標

調査票の評価指標は、検討委員会における審議の結果、次の 11 指標を選定した。

1. 高齢者生活機能調査基本チェックリスト
2. Life-Space Assessment
3. 要支援者等の活動能力指標
4. 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)
5. 基本的日常生活能力 (Barthel index)
6. 機能的自立度評価表 (FIM)
7. 意欲 (Vitality Index)
8. 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)
9. 健康関連 QOL (SF-8)
10. 認知機能 (長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R))
11. Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

Ⅲ 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の回収の状況

調査票は調査対象とした全ての事業所から回答が得られた。利用者毎のアウトカム指標を調査した利用者票については、調査期間中に入院・入所等の理由により調査の継続が困難な利用者が発生しているため、1 回目に 627 人であった利用者が 3 回目には 503 人に減少している。

	調査対象事業所数	回収事業所票	利用者票		
			1 回目調査	2 回目調査	3 回目調査
通所リハビリテーション	27	27	378	361	307
通所介護	10	10	144	141	114
訪問リハビリテーション	12	12	108	106	82
計	49	49	627	608	503

IV 結果の概要

(1)調査期間における各指標の変化

通所リハビリテーションについて、本調査の調査期間における各指標の平均値を比較すると、次の通りであった。いずれの指標においても、1回目→2回目→3回目に継続的に改善又は悪化する傾向はなく、また、変化の水準も小さいことから、これらの指標によって生活期リハビリテーションの効果を評価することは困難であることが示唆されている。なお、通所介護及び訪問リハビリテーションにおいても同様の結果となっている。

図表 1 各評価指標平均値（1回目、2回目、3回目）【通所リハビリテーション】

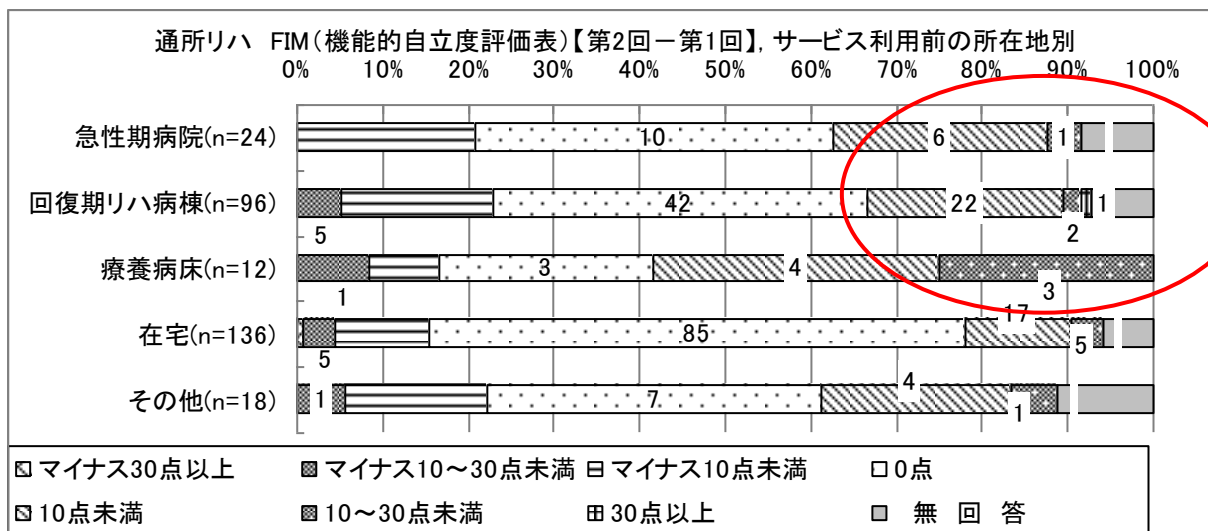
(*) は点数が低いほど良い項目

	1回目		2回目		3回目	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト(*)	378	11.8	346	11.7	307	11.3
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	378	32.7	346	32.0	307	31.8
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	378	5.8	346	5.8	307	5.7
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	378	1.1	346	1.0	307	1.1
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	378	1.6	346	1.7	307	1.7
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	378	75.4	346	75.3	307	76.5
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	378	100.7	346	99.3	307	101.3
問Ⅱ【7】意欲	378	9.3	346	9.3	307	9.2
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度(*)	378	6.1	346	5.7	307	5.7
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	378	39.7	346	40.1	307	40.1
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	378	47.4	346	49.2	307	46.8
問Ⅱ【10】認知機能	378	21.5	346	21.4	307	22.1
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度(*)	378	5.1	346	4.0	307	4.1

(2)各評価指標における変化の妥当性について

評価指標における変化の妥当性を検証するため、検討委員会の助言を受けて「適切な連携の基で急性期病院・回復期リハ病棟からの退院者については、改善する利用者が多い」といった限定的な条件での変化について検証を行った。上記の変化はごく短期間の間に生じる変化であると仮定して、第1回及び第2回調査の変化によって整理をすると、FIM等については、適切に変化を捉えられており、一定程度属性を限定した場合においては、生活期リハビリテーションの効果を捉えられる指標が存在することは示唆された。

図表 2 サービス利用前所在地別の FIM の変化 (2 回目-1 回目)【通所リハビリテーション】



(3) 各評価指標と生活期リハビリテーションの効果の関係性について

生活期リハビリテーションによる効果が各指標の評価結果によって適切に反映されているかどうかについては、ヒアリングによって、生活期リハビリテーションの「効果」そのものの定義が必要であるとの意見が多く挙げられた。また、専門家からは、加齢に伴って悪化する身体状況等を「維持」できることも十分な効果であるとの意見も挙げられた。

各指標によって把握される効果は、身体状況の変化等の定量的に評価可能な部分であり、生活期リハビリテーションの効果には、必ずしも各指標によって定量的に把握される身体状況、生活状況の改善によらない効果も含まれるとの指摘があった。

例えば、個別計画において位置づけているような「地域の中での社会活動に参加ができるようになる」「目標としていた場所に行くことが可能になる」といった目標の達成は、身体状況等の改善がなくてもできる場合がある。また、「本人・家族に自宅でも可能な機能訓練の方法や必要性を理解してもらうことでサービス利用時以外でも機能の維持に努力してもらう」などは、直接的に利用者の身体状況等に与える効果ではないが、広い意味では生活期リハビリテーションの効果の一部といえるが、それらを今回検討を行った指標のみで捉えることは困難であるといった指摘である。

V 本研究の限界

本調査においては、生活期リハビリテーションの効果の一部について、評価ができる可能性がある指標についてサービス開始から間もない利用者や、急性期病院から退院してから間もない利用者等、利用者像を限定すれば、生活期リハビリテーションの効果を抑える

ことが示唆され、一定の知見を得ることができたが、以下の点については本調査では結論を得ることは困難であった。

まず、本調査は、経営者の意識、従業者のスキル等の水準の高い限定された事業所において実施された結果を基にしており、一般的な事業所においても実務的な負担等の観点から同様の結果となるかどうか結論を得るには至っていない。

さらに、本調査は、既存の代表的な評価指標を用いて、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションの利用者について、約4ヶ月間の変化を捉えた調査である。しかしながら、得られた知見は極めて限定的なものであり、本調査で用いた既存の評価指標を使用して生活期リハビリテーションの効果を評価することは困難であると考えられた。

これらの指摘を踏まえれば、生活期リハビリテーションの効果を今回の指標だけで定量的に評価することは難しいと考えられ、評価のあり方については、生活期リハビリテーションの効果の定義、サービスのあり方も含めて引き続き検討する必要がある。

I 背景と目的

平成 24 年 4 月の介護報酬改定においては、「自立支援型サービスの強化と重点化」の観点からリハビリテーション・機能訓練の充実が図られたところである。ただし、生活期のリハビリテーションについては、「平成 24 年度介護報酬改定に関する審議報告」において、その充実を図るために「施設から在宅まで高齢者の状態に応じたリハビリテーションを包括的に提供するとともに、リハビリ専門職と介護職との連携を強化するなど、リハビリテーションの在り方について検討する。さらに、リハビリテーションの効果についての評価手法について研究を進める。」ことが必要であるとされた。

これを受けて、平成 24 年度に設置される介護報酬改定検証・研究委員会において、生活期のリハビリテーションの具体的内容、リハビリテーション・機能訓練のアウトカムの評価方法について検討がなされる予定である。

そこで、本事業は、生活期のリハビリテーションの実態やアウトカム評価を行うための適切な指標について明らかにし、今回の介護報酬改定の検証及び今後の改定のための検討に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

Ⅱ 研究事業の実施体制

1. 検討委員会の設置・運営

本研究の実施に際し、調査研究の企画、調査方法・様式の検討、調査結果の分析・まとめを行う場として、検討委員会を設置した。

<検討委員会の構成>

<委員> (五十音順) ◎は委員長

伊藤 隆夫 在宅リハビリテーションセンター成城 副センター長
日本訪問リハビリテーション協会 会長

◎栗原 正紀 日本リハビリテーション病院・施設協会 会長

小林 由憲 株式会社大起エンゼルヘルプ 代表取締役社長

斉藤 正身 医療法人真正会 霞ヶ関南病院 理事長
全国老人デイ・ケア連絡協議会 会長

椿原 彰夫 川崎医療福祉大学 学長
全国リハビリテーション学校協会 会長

水間 正澄 昭和大学医学部 教授
日本リハビリテーション医学会 理事長

<事務局>

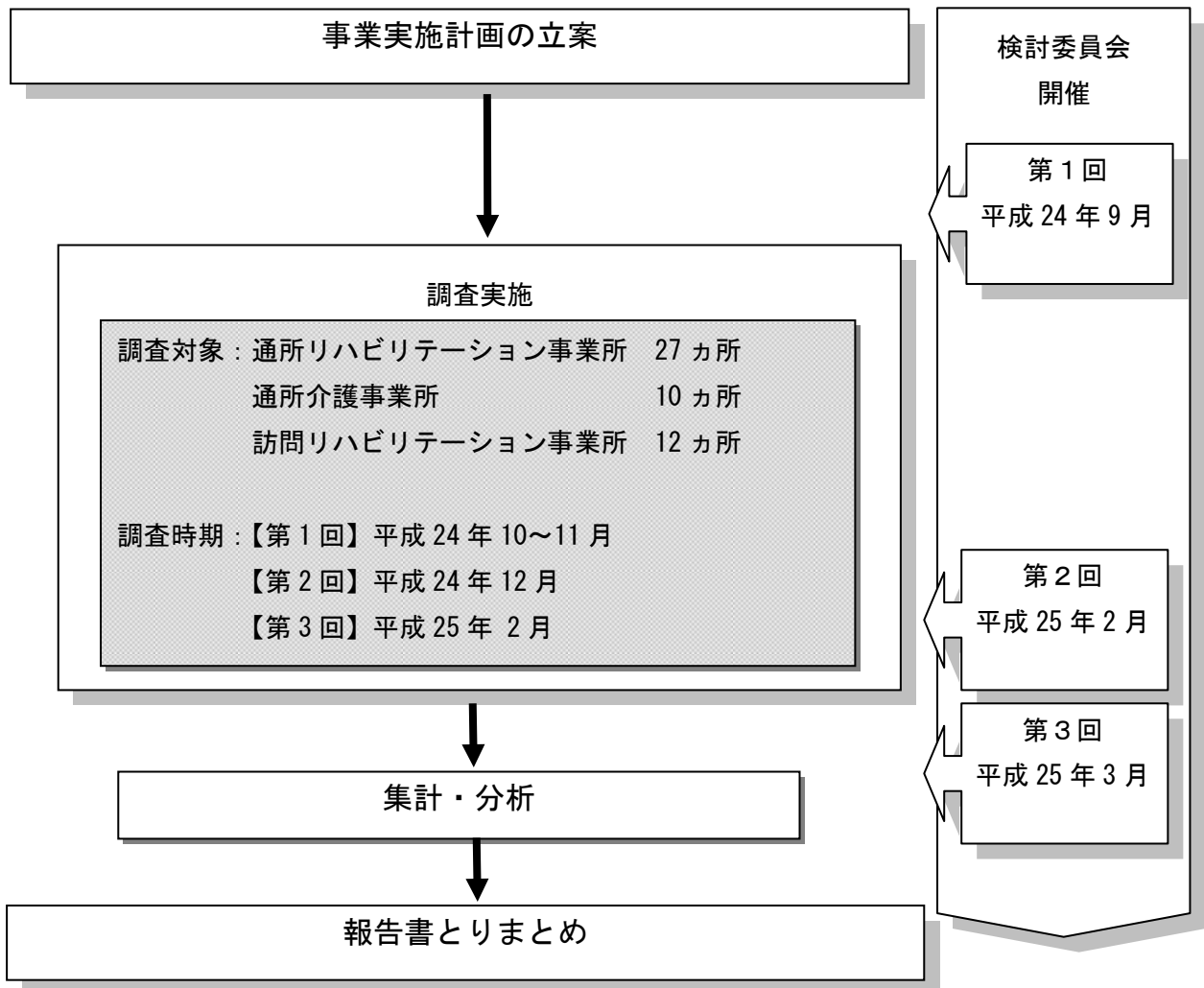
株式会社 三菱総合研究所 人間・生活研究本部

2. 検討委員会における検討内容

回	時期	議題
第1回	平成24年9月	○研究計画について ○調査票(案)について
第2回	平成25年2月	○研究実施状況について ○第1回、第2回調査集計結果(中間報告)
第3回	平成25年3月	○第1回、2回、3回調査集計結果(中間報告) ○研究結果のとりまとめについて

Ⅲ 調査研究の流れ

図表 3 調査研究のフロー



IV 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の実施

1. 調査の概要

本調査は、調査対象となる事業所における利用者の身体状況、受けているリハビリテーション等の状況について把握するものとした。調査は3時点で実施し、1回目の調査から2ヵ月後、4ヵ月後を目処に、調査を実施してその間の利用者の身体状況変化を把握した。

利用者の身体状況については、一般的に利用される複数の指標を用いて把握し、特にアウトカム指標として妥当と考えられる指標について検討を行うことを目的とした。

2. 調査対象事業所

調査対象事業所は、次の方法で協力依頼を行った。

①通所リハビリテーション事業所

個別リハビリテーションが主体である1-2hのサービス提供を実施している事業所が一定数程度含まれるように選定を行った。

全国老人デイ・ケア連絡協議会の協力を得て、調査実施およびサービスの内容に信頼がおける事業所を27事業所選定した。

②通所介護事業所

日本在宅介護協会の協力を得て、調査実施およびサービスの内容に信頼がおける事業所を10事業所選定した。

③訪問リハビリテーション事業所

日本訪問リハビリテーション協会の協力を得ながら、訪問先(利用者宅)において調査の実施に協力いただける事業所を12事業所選定した。

3. 調査対象利用者

①通所リハビリテーション

各調査対象事業所について、利用しているサービス時間区分(1-2h、6-8h)、年齢(前期、後期)、要介護度(1~2又は3~5)別に大きな偏りが生じないよう、16名の利用者を選定していただいた。

選定利用者には、利用開始3か月以内の新規利用者が含まれるように留意した。

②通所介護

各調査対象事業所について、指定したサービス時間区分(3-5h、5-7h、7-9h)から年齢(前期、後期)、要介護度(1~2又は3~5)別に大きな偏りが生じないよう、16名の利用者を選定していただいた。

選定利用者には、利用開始3か月以内の新規利用者が含まれるように留意した。

③訪問リハビリテーション

各調査対象事業所について、年齢（前期、後期）、要介護度（1～2又は3～5）別に大きな偏りが生じないように、8名の利用者を選定していただいた。

選定利用者には、利用開始3か月以内の新規利用者が含まれるように留意した。

4. 調査日

①事業所票：平成24年11月1日時点

②利用者票：平成24年10～11月、12月、平成25年2月の3回

5. 調査の方法

本調査は、郵送配布・郵送回収により実施した。調査票の構成と記入者の対応は次の通り。

図表4 調査票と記入者（通所リハビリテーション事業所）

調査票名	部数	記入者
通所リハビリテーション事業所票	1部	管理者的な立場にある事務職員 （※必要に応じて管理者、医師、看護職員、介護職員にご協力いただいて記入）
通所リハビリテーション利用者票	利用者1人あたり1部×3回分	主としてリハビリテーション専門職員、もしくは利用者の状況を把握している職員。 （※必要に応じて医師、看護職員、介護職員、PT、OT、ST等にご協力いただいて記入） また、1人の利用者に対して3回分の評価を行なうため、なるべく3回とも同一の評価者が評価を行なうようにする。

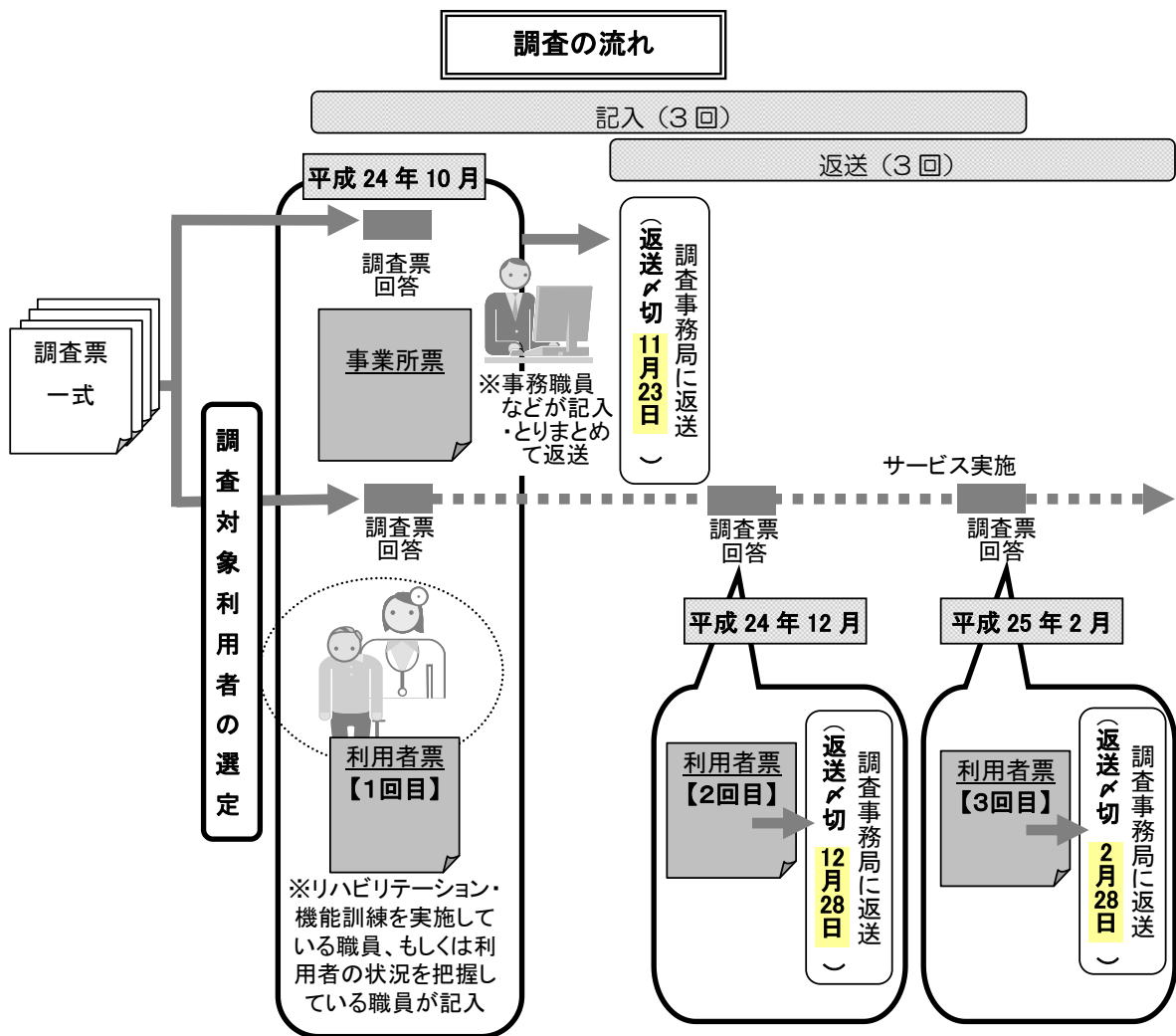
図表5 調査票と記入者（通所介護事業所）

調査票名	部数	記入者
通所介護事業所票	1部	管理者的な立場にある事務職員 （※必要に応じて管理者、医師、看護職員、介護職員にご協力いただいて記入）
通所介護利用者票	利用者1人あたり1部×3回分	主として機能訓練を実施している専門職員、もしくは利用者の状況を把握している職員。 （※必要に応じて医師、看護職員、介護職員、PT、OT、ST等にご協力いただいて記入） また、1人の利用者に対して3回分の評価を行なうため、なるべく3回とも同一の評価者が評価を行なうようにする。

図表 6 調査票と記入者（訪問リハビリテーション事業所）

調査票名	部数	記入者
訪問リハビリテーション事業所票	1部	管理者的な立場にある事務職員 （※必要に応じて管理者、医師、看護職員、介護職員にご協力いただいて記入）
訪問リハビリテーション利用者票	利用者1人あたり1部×3回分	主としてリハビリテーション専門職員、もしくは利用者の状況を把握している職員。（※必要に応じて医師、看護職員、介護職員、PT、OT、ST等にご協力いただいて記入） また、1人の利用者に対して3回分の評価を行なうため、なるべく3回とも同一の評価者が評価を行なうようにする。

図表 7 調査実施スキーム（3サービス共通）



6. 調査項目

調査内容は以下の各項目から構成し、資料編に添付した各調査票を用いて調査を行った。

(1) 事業所票

①通所リハビリテーション事業所票

- | |
|---|
| <p>I. 通所リハビリテーション事業所の基本情報
登録者数、利用者定員数、時間別開催日数、時間別利用者数、理学療法士等体制強化加算の算定の有無</p> <p>II. 介護予防通所リハビリテーション事業所の基本情報</p> <p>III. 併設施設について</p> <p>IV. 職員体制</p> <p>V. 利用者の状況
利用者の医療的ケアの状況、その他のケアの状況</p> <p>VI. 意見・感想</p> |
|---|

②通所介護事業所票

- | |
|---|
| <p>I. 通所介護事業所の基本情報
登録者数、利用者定員数、時間別開催日数、時間別利用者数、個別機能訓練加算(I)・(II)の算定の有無</p> <p>II. 介護予防通所介護事業所の基本情報</p> <p>III. 併設施設について</p> <p>IV. 職員体制</p> <p>V. 利用者の状況
利用者の医療的ケアの状況、その他のケアの状況</p> <p>VI. 意見・感想</p> |
|---|

③訪問リハビリテーション事業所票

- | |
|--|
| <p>I. 訪問リハビリテーション事業所の基本情報
登録者数、利用者数、訪問日数、短期集中リハビリテーション実施加算の算定の有無</p> <p>II. 介護予防訪問リハビリテーション事業所の基本情報</p> <p>III. 併設施設について</p> <p>IV. 職員体制</p> <p>V. 意見・感想</p> |
|--|

(2) 利用者票

①通所リハビリテーション 利用者票

②通所介護 利用者票

③訪問リハビリテーション 利用者票

II. 利用者の基本情報

要介護度、日常生活自立度、認知症高齢者の日常生活自立度、
今月における利用回数、
個別リハビリテーション実施の有無（通所リハ）、
個別機能訓練実施の有無（通所介護）、
個別リハを担当した職員の職種（通所リハ）、
個別機能訓練実施の有無（通所介護）、
担当職員の職種（訪問リハ）、有している傷病、必要とする医療的ケア、
今月算定予定の加算、
併用している居宅サービス、過去 2 ヶ月間の間に発生した新たな障害、
サービス利用前の所在地

III. 利用者のアウトカム評価指標 < 3 サービス共通 >

1. 高齢者生活機能調査基本チェックリスト
2. Life-Space Assessment
3. 要支援者等の活動能力指標
4. 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)
5. 基本的日常生活能力 (Barthel index)
6. 機能的自立度評価表 (FIM)
7. 意欲 (Vitality Index)
8. 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)
9. 健康関連 QOL (SF-8)
10. 認知機能 (長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R))
11. Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

なお、調査票の評価指標については、検討委員会における審議の結果、上記の 11 項目に選定された。

V 生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査の結果

1. 回収等の状況

(1) 回収状況

本調査の回収状況は次のとおりであった。

図表 8 調査票回収数

	調査 協力事業所 数	事業所票	利用者票		
			1 回目 調査	2 回目 調査	3 回目 調査
通所リハビリテーション	27	27	378	361	307
通所介護	10	10	144	141	114
訪問リハビリテーション	12	12	108	106	82
計	49	49	627	608	503

2. 事業所の基本情報

(1) 介護サービスに関する基本情報

1) 登録者数の状況

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所の要介護度別登録者数は、要介護 2 が最も多く平均 36.8 人、次いで要介護 1 が平均 29.0 人であった。要介護 5 が最も少なく平均 8.3 人であった。

図表 9 通所リハビリテーション 登録者数

	件数	5 人未満	5 未満 1 0 人	1 未満 5 2 0 人	2 未満 5 3 0 人	3 0 人 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 : 人 ()	平 均 値 : 人 ()	標 準 偏 差 : 人 ()	最 大 値 : 人 ()	最 小 値 : 人 ()
要介護1	27 100.0%	-	-	7 25.9%	11 40.7%	9 33.3%	-	27	782.0	28.96	13.98	59.0	10.0
要介護2	27 100.0%	-	-	5 18.5%	8 29.6%	14 51.9%	-	27	994.0	36.81	19.74	90.0	15.0
要介護3	27 100.0%	-	3 11.1%	9 33.3%	6 22.2%	9 33.3%	-	27	663.0	24.56	15.20	73.0	5.0
要介護4	27 100.0%	2 7.4%	12 44.4%	8 29.6%	4 14.8%	1 3.7%	-	27	355.0	13.15	10.67	55.0	2.0
要介護5	27 100.0%	11 40.7%	10 37.0%	4 14.8%	1 3.7%	1 3.7%	-	27	225.0	8.33	8.91	41.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の要介護度別登録者数は、要介護 1 が最も多く平均 22.7 人、次いで要介護 2 が平均 21.2 人であった。要介護 5 が最も少なく平均 3.5 人であった。

図表 10 通所介護 登録者数

	件数	3 人未満	3 未満 5 人	5 未満 10 人	10 未満 20 人	20 人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
要介護1	10 100.0%	-	-	1 10.0%	3 30.0%	6 60.0%	-	10	227.0	22.70	10.22	34.0	8.0
要介護2	10 100.0%	-	-	-	5 50.0%	5 50.0%	-	10	212.0	21.20	9.65	39.0	10.0
要介護3	10 100.0%	-	-	4 40.0%	5 50.0%	1 10.0%	-	10	117.0	11.70	4.69	22.0	6.0
要介護4	10 100.0%	3 30.0%	1 10.0%	5 50.0%	1 10.0%	-	-	10	62.0	6.20	5.41	19.0	0.0
要介護5	10 100.0%	4 40.0%	3 30.0%	3 30.0%	-	-	-	10	35.0	3.50	2.37	7.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の要介護度別登録者数は、要介護 3 が最も多く平均 33.7 人、次いで要介護 2 が平均 32.9 人であった。要介護 1 が最も少なく平均 18.5 人であった。

図表 11 訪問リハビリテーション 登録者数

	件数	20 人未満	20 未満 30 人	30 未満 40 人	40 未満 50 人	50 人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
要介護1	12 100.0%	8 66.7%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	-	-	12	222.0	18.50	14.90	43.0	3.0
要介護2	12 100.0%	5 41.7%	2 16.7%	1 8.3%	-	4 33.3%	-	12	395.0	32.92	29.60	98.0	3.0
要介護3	12 100.0%	4 33.3%	2 16.7%	3 25.0%	1 8.3%	2 16.7%	-	12	404.0	33.67	24.52	85.0	7.0
要介護4	12 100.0%	7 58.3%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	2 16.7%	-	12	288.0	24.00	18.93	58.0	2.0
要介護5	12 100.0%	8 66.7%	1 8.3%	-	1 8.3%	2 16.7%	-	12	265.0	22.08	16.70	52.0	7.0

2) 利用者数の状況

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所のサービス提供時間別の利用定員数は、4～6 時間が最も多く平均 32.8 人、次いで 6～8 時間が平均 30.7 人であった。1～2 時間は平均 13.4 人であった。

図表 12 通所リハビリテーション 利用者定員数

	件数	5人未満	5未満 10人	10未満 20人	20未満 30人	30人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
1～2時間	27	10	2	1	-	5	9	18	241.0	13.39	20.38	60.0	0.0
2～3時間	27	16	1	-	1	2	7	20	132.0	6.60	18.27	76.0	0.0
3～4時間	27	9	4	-	2	5	7	20	309.0	15.45	23.88	80.0	0.0
4～6時間	27	11	1	-	2	6	7	20	656.0	32.80	56.35	188.0	0.0
6～8時間	27	6	1	-	3	14	3	24	737.0	30.71	24.13	83.0	0.0
8時間超	27	20	-	-	-	-	7	20	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所のサービス提供時間別の利用定員数は、7～9 時間が最も多く平均 40.8 人、次いで 5～7 時間が平均 18.6 人であった。1～2 時間は平均 8.1 人であった。

図表 13 通所介護事業所 利用者定員数

	件数	0人	5人未満	5未満 10人	10未満 20人	20人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
2～3時間	10	6	-	-	-	2	2	8	65.0	8.13	15.57	40.0	0.0
3～5時間	10	4	1	-	-	3	2	8	97.0	12.13	16.70	40.0	0.0
5～7時間	10	1	1	1	2	5	-	10	186.0	18.60	13.01	40.0	0.0
7～9時間	10	1	1	-	-	7	1	9	367.0	40.78	30.97	92.0	0.0

3) サービス提供日数の状況

平成24年10月中の通所リハビリテーション事業所のサービス提供時間別の開催日数は、6～8時間が最も多く平均22.5日、次いで3～4時間が平均14.9日であった。8時間超も平均1.3日であった。

図表 14 通所リハビリテーション 時間別開催日数

	件数	0日	15日未満	15満<20日	20満<25日	25日以上	無回答	平均の分母	実(単位数合計)	平(単位数)	標(単位数)	最大(単位数)	最小(単位数)
1～2時間	27 100.0%	9 33.3%	2 7.4%	2 7.4%	2 7.4%	4 14.8%	8 29.6%	19	201.0	10.58	11.52	27.0	0.0
2～3時間	27 100.0%	13 48.1%	2 7.4%	-	3 11.1%	3 11.1%	6 22.2%	21	153.0	7.29	11.27	27.0	0.0
3～4時間	27 100.0%	7 25.9%	2 7.4%	1 3.7%	6 22.2%	6 22.2%	5 18.5%	22	327.0	14.86	11.61	27.0	0.0
4～6時間	27 100.0%	10 37.0%	2 7.4%	-	3 11.1%	6 22.2%	6 22.2%	21	235.0	11.19	12.66	27.0	0.0
6～8時間	27 100.0%	6 22.2%	-	-	9 33.3%	11 40.7%	1 3.7%	26	584.6	22.48	20.68	108.6	0.0
8時間超	27 100.0%	20 74.1%	-	-	-	1 3.7%	6 22.2%	21	27.0	1.29	5.89	27.0	0.0

平成24年10月中の通所介護事業所のサービス提供時間別の開催日数は、7～9時間が最も多く平均24.7日、次いで5～7時間が平均20.1日であった。

図表 15 通所介護 時間別開催日数

	件数	0日	15日未満	15満<20日	20満<25日	25日以上	無回答	平均の分母	実(単位数合計)	平(単位数)	標(単位数)	最大(単位数)	最小(単位数)
2～3時間	10 100.0%	5 50.0%	-	-	-	3 30.0%	2 20.0%	8	85.0	10.63	14.72	31.0	0.0
3～5時間	10 100.0%	4 40.0%	-	-	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	8	108.0	13.50	14.59	31.0	0.0
5～7時間	10 100.0%	2 20.0%	1 10.0%	-	-	7 70.0%	-	10	201.0	20.10	12.29	31.0	0.0
7～9時間	10 100.0%	1 10.0%	-	-	-	9 90.0%	-	10	247.0	24.70	8.77	31.0	0.0

平成 24 年 10 月中の訪問リハビリテーション事業所の訪問日数は、20～25 日未満の事業所が 66.7%と最も多く、次いで 25 日以上事業所が 33.3%であった。平均は 23.8 日であった。

図表 16 訪問リハビリテーション 訪問日数

	件数	0 日	1 5 日未満	1 5 日未満 5 日未満 2 0 日	2 5 日未満 5 日未満	2 5 日以上	無回答	平均の分母	実(単位:日) 数合計	平(単位:日) 均値	標(単位:日) 準偏差	最(単位:日) 大値	最(単位:日) 小値
合計	12 100.0%	-	-	-	8 66.7%	4 33.3%	-	12	285.0	23.75	2.34	27.0	21.0

4) 時間別利用者数の状況

平成 24 年 10 月中の通所リハビリテーション事業所の時間別利用者数の実人数は、6～8 時間が最も多く平均 75.2 人、次いで 4～6 時間が平均 55.4 人であった。1～2 時間は平均 12.5 人であった。

図表 17 通所リハビリテーション 時間別利用者数（実人数）

	件数	0 人	1 0 人未満	1 0 日未満 3 0 人	3 0 日未満 5 0 人	5 0 人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
1～2時間	27 100.0%	10 37.0%	6 22.2%	2 7.4%	-	2 7.4%	7 25.9%	20	249.0	12.45	25.82	97.0	0.0
2～3時間	27 100.0%	12 44.4%	9 33.3%	-	-	1 3.7%	5 18.5%	22	321.0	14.59	63.55	299.0	0.0
3～4時間	27 100.0%	5 18.5%	10 37.0%	5 18.5%	-	3 11.1%	4 14.8%	23	327.0	14.22	23.97	86.0	0.0
4～6時間	27 100.0%	8 29.6%	4 14.8%	1 3.7%	2 7.4%	7 25.9%	5 18.5%	22	1,218.0	55.36	115.48	526.0	0.0
6～8時間	27 100.0%	5 18.5%	1 3.7%	-	4 14.8%	17 63.0%	-	27	2,030.0	75.19	61.81	219.0	0.0
8時間超	27 100.0%	20 74.1%	2 7.4%	-	-	-	5 18.5%	22	2.0	0.09	0.29	1.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所リハビリテーション事業所の時間別利用者数の延べ人数は、6～8 時間が最も多く平均 630.2 人、次いで 4～6 時間が平均 256.7 人であった。1～2 時間は平均 84.9 人であった。

図表 18 通所リハビリテーション 時間別利用者数（延べ人数）

	件数	0 人	50 人未満	50 未満 100 人	100 未満 300 人	300 人以上	無回答	平均の分母	実（単位：人） 数合計	平（単位：人） 均値	標（単位：人） 準偏差	最（単位：人） 大値	最（単位：人） 小値
1～2時間	27 100.0%	10 37.0%	6 22.2%	-	2 7.4%	2 7.4%	7 25.9%	20	1,698.0	84.90	186.26	632.0	0.0
2～3時間	27 100.0%	12 44.4%	9 33.3%	1 3.7%	-	-	5 18.5%	22	157.8	7.17	17.74	74.8	0.0
3～4時間	27 100.0%	5 18.5%	12 44.4%	3 11.1%	-	3 11.1%	4 14.8%	23	1,622.5	70.54	137.86	495.0	0.0
4～6時間	27 100.0%	8 29.6%	4 14.8%	1 3.7%	3 11.1%	6 22.2%	5 18.5%	22	5,647.5	256.70	417.70	1,500.0	0.0
6～8時間	27 100.0%	5 18.5%	1 3.7%	1 3.7%	2 7.4%	18 66.7%	-	27	17,016.0	630.22	578.74	1,806.0	0.0
8時間超	27 100.0%	20 74.1%	2 7.4%	-	-	-	5 18.5%	22	9.0	0.41	1.71	8.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所介護事業所の時間別利用者数の実人数は、7～9 時間が最も多く平均 97.9 人、次いで 5～7 時間が平均 34.5 人であった。

図表 19 通所介護 時間別利用者数（実人数）

	件数	0 人	10 人未満	10 未満 20 人	20 未満 30 人	30 人以上	無回答	平均の分母	実（単位：人） 数合計	平（単位：人） 均値	標（単位：人） 準偏差	最（単位：人） 大値	最（単位：人） 小値
2～3時間	10 100.0%	8 80.0%	-	-	-	-	2 20.0%	8	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
3～5時間	10 100.0%	3 30.0%	3 30.0%	1 10.0%	-	1 10.0%	2 20.0%	8	72.0	9.00	19.01	55.0	0.0
5～7時間	10 100.0%	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	-	4 40.0%	-	10	345.0	34.50	39.30	105.0	0.0
7～9時間	10 100.0%	1 10.0%	2 20.0%	-	-	7 70.0%	-	10	979.0	97.90	181.35	606.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所介護事業所の時間別利用者数の延べ人数は、7～9 時間が最も多く平均 377.8 人、次いで 5～7 時間が平均 212.1 人であった。

図表 20 通所介護 時間別利用者数（延べ人数）

	件数	0 人	5 0 人未 満	5 0 未 満 1 0 0 人	1 0 未 満 1 0 0 人	3 0 0 人 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 人 ）	平 均 値 （単 位 ： 人 ）	標 準 偏 差 （単 位 ： 人 ）	最 大 値 （単 位 ： 人 ）	最 小 値 （単 位 ： 人 ）
2～3時間	10 100.0%	8 80.0%	-	-	-	-	2 20.0%	8	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
3～5時間	10 100.0%	3 30.0%	4 40.0%	-	1 10.0%	-	2 20.0%	8	362.0	45.25	102.70	298.0	0.0
5～7時間	10 100.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	3 30.0%	-	10	2,121.0	212.10	236.59	584.0	0.0
7～9時間	10 100.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	6 60.0%	-	10	3,778.0	377.80	287.60	938.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の利用者数の実人数は、50～100 人未満および 200 人以上の事業所が最も多く、それぞれ 33.3%であった。平均利用者数は 133.3 人であった。

図表 21 訪問リハビリテーション 利用者数（実人数）

	件数	5 0 人未 満	5 0 未 満 1 0 0 人	1 0 未 満 1 0 0 人	1 5 未 満 1 0 0 人	2 0 0 人 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 人 ）	平 均 値 （単 位 ： 人 ）	標 準 偏 差 （単 位 ： 人 ）	最 大 値 （単 位 ： 人 ）	最 小 値 （単 位 ： 人 ）
合計	12 100.0%	3 25.0%	4 33.3%	1 8.3%	-	4 33.3%	-	12	1,599.0	133.25	97.66	318.0	29.0

平成 24 年 10 月中の訪問リハビリテーション事業所の利用者数の延べ人数は、100～300 人未満の事業所が 41.7%と最も多く、次いで 500～1000 人未満の事業所が 33.3%であった。平均利用者数は 765.1 人であった。

図表 22 訪問リハビリテーション 利用者数（延べ人数）

	件数	100人未満	100～300人未満	300～500人未満	500～1000人未満	1000人以上	無回答	平均の分母	実数合計（単位：人）	平均値（単位：人）	標準偏差（単位：人）	最大値（単位：人）	最小値（単位：人）
合計	12 100.0%	-	5 41.7%	1 8.3%	4 33.3%	2 16.7%	-	12	9,181.0	765.08	928.99	3,509.0	137.0

5) 加算の算定状況

平成 24 年 10 月分の通所リハビリテーション事業所における理学療法士等体制強化加算の算定状況は、算定している事業所が 50.0%、算定していない事業所が 50.0%であった。

図表 23 通所リハビリテーション 理学療法士等体制強化加算

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	10 100.0%	5 50.0%	5 50.0%	-

平成 24 年 10 月分の通所介護事業所における個別機能訓練加算（Ⅰ）の算定状況は、算定している事業所が 20.0%であった。

図表 24 通所介護 個別機能訓練加算（Ⅰ）の算定の有無

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	10 100.0%	2 20.0%	7 70.0%	1 10.0%

平成 24 年 10 月分の通所介護事業所における個別機能訓練加算(Ⅱ)の算定状況も、算定している事業所が 20.0%であった。

図表 25 通所介護 個別機能訓練加算(Ⅱ)の算定の有無

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	10 100.0%	2 20.0%	7 70.0%	1 10.0%

平成 24 年 10 月分の訪問リハビリテーション事業所における短期集中リハビリテーション実施加算の算定状況は、算定している事業所が 91.7%であった。

図表 26 訪問リハビリテーション 短期集中リハビリテーション実施加算の算定の有無

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	12 100.0%	11 91.7%	1 8.3%	-

(2) 介護予防サービスに関する基本情報

1) 介護予防実施・指定の有無の状況

平成 24 年 11 月 1 日時点で通所リハビリテーション事業所のうち、介護予防通所リハビリテーションを実施している事業所は 85.2%、実施していない事業所は 3.7%であった。

図表 27 通所リハビリテーション 介護予防通所リハビリテーション実施の有無

	件数	実施している	実施していない	無回答
合計	27 100.0%	23 85.2%	1 3.7%	3 11.1%

平成 24 年 11 月 1 日時点で通所介護事業所のうち、介護予防通所介護の指定を受けている事業所は 90.0%であった。

図表 28 通所介護 介護予防通所介護の指定の有無

	件数	指定を受けている	指定を受けていない	無回答
合計	10 100.0%	9 90.0%	-	1 10.0%

平成 24 年 11 月 1 日時点で訪問リハビリテーション事業所のうち、全ての事業所が介護予防訪問リハビリテーションを実施していた。

図表 29 訪問リハビリテーション 介護予防訪問リハビリテーション実施の有無

	件数	実施している	実施していない	無回答
合計	12 100.0%	12 100.0%	-	-

2) 要支援の登録者数の状況

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防通所リハビリテーションの登録者数は、要支援 1 では 5 人未満の事業所が最も多く 60.9%、平均登録者数は 8.5 人であった。要支援 2 では 5 人未満、5～10 人未満、10～20 人未満、30 人以上の事業所がそれぞれ 21.7%であり、平均登録者数は 17.3 人であった。

図表 30 通所リハビリテーション 介護予防通所リハビリテーションの登録者数

	件数	5 人未満	5 未満 10 人	10 未満 12 0 人	20 未満 30 人	30 人以上	無回答	平均の分母	実数(単位:人) 合計	平均(単位:人)	標準(単位:人) 偏差	最大(単位:人)	最小(単位:人)
要支援1	23 100.0%	14 60.9%	2 8.7%	4 17.4%	2 8.7%	1 4.3%	-	23	196.0	8.52	10.64	44.0	0.0
要支援2	23 100.0%	5 21.7%	5 21.7%	5 21.7%	3 13.0%	5 21.7%	-	23	397.0	17.26	15.53	54.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の要支援度別の介護予防通所介護の登録者数は、要支援 1 では 3 人未満の事業所および 5～10 人未満が 33.3%と最も多く、平均登録者数は 6.6 人であった。要支援 2 では 5～10 人未満の事業所が最も多く 44.4%であり、平均登録者数は 8.4 人であった。

図表 31 通所介護 介護予防通所介護の登録者数

	件数	3 人未満	3 未満 5 人	5 未満 10 人	10 未満 12 0 人	20 人以上	無回答	平均の分母	実数(単位:人) 合計	平均(単位:人)	標準(単位:人) 偏差	最大(単位:人)	最小(単位:人)
要支援1	9 100.0%	3 33.3%	2 22.2%	3 33.3%	-	1 11.1%	-	9	59.0	6.56	9.66	32.0	1.0
要支援2	9 100.0%	2 22.2%	1 11.1%	4 44.4%	1 11.1%	1 11.1%	-	9	76.0	8.44	8.29	28.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防訪問リハビリテーションの登録者数は、要支援 1 では 5 人未満の事業所が最も多く 75.0%であり、平均登録者数は 3.7 人であった。要支援 2 では 5 人未満および 5～10 人未満の事業所がともに 33.3%であり、平均登録者数は 10.0 人であった。

図表 32 訪問リハビリテーション 介護予防訪問リハビリテーションの登録者数

	件数	5人未満	5未満 10人	10未満 20人	20未満 30人	30人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
要支援1	12 100.0%	9 75.0%	1 8.3%	2 16.7%	-	-	-	12	44.0	3.67	3.82	12.0	0.0
要支援2	12 100.0%	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	-	12	120.0	10.00	12.16	44.0	0.0

3) 要支援の利用者数の状況

平成 24 年 10 月中の通所リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防通所リハビリテーションの利用者数（実人数）は、要支援 1 では 5 人未満の事業所が最も多く 52.2%であり、平均利用者数は 12.2 人であった。要支援 2 では 30 人以上の事業所が最も多く 30.4%であり、平均利用者数は 21.8 人であった。

図表 33 通所リハビリテーション 介護予防通所リハビリテーションの利用者数(実人数)

	件数	5人未満	5未満 10人	10未満 20人	20未満 30人	30人以上	無回答	平均の分母	実(単位:人) 数合計	平(単位:人) 均値	標(単位:人) 準偏差	最(単位:人) 大値	最(単位:人) 小値
要支援1	23 100.0%	12 52.2%	2 8.7%	5 21.7%	2 8.7%	2 8.7%	-	23	280.0	12.17	17.51	76.0	0.0
要支援2	23 100.0%	5 21.7%	6 26.1%	3 13.0%	2 8.7%	7 30.4%	-	23	502.0	21.83	22.11	79.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防通所リハビリテーションの利用者数(延べ人数)は、要支援 1 では 20 人未満の事業所が最も多く 52.2% であり、平均利用者数は 46.0 人であった。要支援 2 では 50~100 人未満の事業所が最も多く 39.1% であり、平均利用者数は 142.7 人であった。

図表 34 通所リハビリテーション 介護予防通所リハビリテーションの利用者数(延べ人数)

	件数	20人未満	20~50人未満	50~100人未満	100~200人未満	200人以上	無回答	平均の分母	実(単位数合計)	平(単位数)	標(単位数)	最(単位数)	最(単位数)
要支援1	23 100.0%	12 52.2%	3 13.0%	5 21.7%	-	3 13.0%	-	23	1,057.0	45.96	57.66	255.0	0.0
要支援2	23 100.0%	3 13.0%	3 13.0%	9 39.1%	-	8 34.8%	-	23	3,282.0	142.70	151.30	605.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所介護事業所の要支援度別の介護予防通所介護の利用者数(実人数)は、要支援 1 では 3~5 人未満の事業所が最も多く 33.3% であり、平均利用者数は 8.7 人であった。要支援 2 では 5~10 人未満の事業所が最も多く 55.6% であり、平均は 15.7 人であった。

図表 35 通所介護 介護予防通所介護の利用者数(実人数)

	件数	3人未満	3~5人未満	5~10人未満	10~20人未満	20人以上	無回答	平均の分母	実(単位数合計)	平(単位数)	標(単位数)	最(単位数)	最(単位数)
要支援1	9 100.0%	2 22.2%	3 33.3%	2 22.2%	-	2 22.2%	-	9	78.0	8.67	10.67	31.0	1.0
要支援2	9 100.0%	1 11.1%	1 11.1%	5 55.6%	-	2 22.2%	-	9	141.0	15.67	25.12	80.0	0.0

平成 24 年 10 月中の通所介護事業所の要支援度別の介護予防通所介護の利用者数（延べ人数）は、要支援 1 では 10～30 人未満の事業所が最も多く 55.6%であり、平均利用者数は 28.3 人であった。要支援 2 では 50 人以上の事業所が最も多く 44.4%であり、平均利用者数は 54.1 人であった。

図表 36 通所介護 介護予防通所介護の利用者数（延べ人数）

	件数	5 人未満	5 未満 10 人	10 未満 30 人	30 未満 50 人	50 人以上	無回答	平均の分母	実（単位：人） 数合計	平（単位：人） 均値	標（単位：人） 準偏差	最（単位：人） 大値	最（単位：人） 小値
要支援1	9 100.0%	1 11.1%	1 11.1%	5 55.6%	1 11.1%	1 11.1%	-	9	255.0	28.33	36.67	123.0	2.0
要支援2	9 100.0%	1 11.1%	-	1 11.1%	3 33.3%	4 44.4%	-	9	487.0	54.11	42.81	153.0	0.0

平成 24 年 10 月中の訪問リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防訪問リハビリテーションの利用者数（実人数）は、要支援 1 では 5 人未満の事業所が最も多く 75.0%であり、平均利用者数は 4.0 人であった。要支援 2 では 5 人未満、5～10 人未満の事業所がそれぞれ 33.3%であり、平均利用者数は 10.1 人であった。

図表 37 訪問リハビリテーション 介護予防訪問リハビリテーションの利用者数（実人数）

	件数	5 人未満	5 未満 10 人	10 未満 20 人	20 未満 30 人	30 人以上	無回答	平均の分母	実（単位：人） 数合計	平（単位：人） 均値	標（単位：人） 準偏差	最（単位：人） 大値	最（単位：人） 小値
要支援1	12 100.0%	9 75.0%	1 8.3%	2 16.7%	-	-	-	12	48.0	4.00	4.53	14.0	0.0
要支援2	12 100.0%	4 33.3%	4 33.3%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	-	12	121.0	10.08	12.59	46.0	0.0

平成 24 年 10 月中の訪問リハビリテーション事業所の要支援度別の介護予防訪問リハビリテーションの利用者数(延べ人数)は、要支援 1 では 20 人未満の事業所が最も多く 75.0% であり、平均利用者数は 21.7 人であった。要支援 2 では 20 人未満、20～50 人未満の事業所がそれぞれ 41.7%であり、平均利用者数は 67.3 人であった。

図表 38 訪問リハビリテーション 介護予防訪問リハビリテーションの利用者数(延べ人数)

	件数	20人未満	20～50人未満	50～100人未満	100～200人未満	200人以上	無回答	平均の分母	実数合計 (単位：人)	平均値 (単位：人)	標準偏差 (単位：人)	最大値 (単位：人)	最小値 (単位：人)
要支援1	12 100.0%	9 75.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	-	-	12	260.0	21.67	35.66	122.0	0.0
要支援2	12 100.0%	5 41.7%	5 41.7%	1 8.3%	-	1 8.3%	-	12	808.0	67.33	144.35	519.0	0.0

4) 加算の算定状況

平成 24 年 10 月分の通所リハビリテーション事業所における事業所評価加算の算定状況は、算定している事業所が 30.4%、算定していない事業所が 69.6%であった。

図表 39 通所リハビリテーション 事業所評価加算の算定状況

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	23 100.0%	7 30.4%	16 69.6%	-

平成 24 年 10 月分の通所介護事業所における事業所評価加算の算定状況は、算定している事業所が 11.1%、算定していない事業所が 88.9%であった。

図表 40 通所介護 事業所評価加算の算定状況

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	9 100.0%	1 11.1%	8 88.9%	-

平成 24 年 10 月分の訪問リハビリテーション事業所における短期集中リハビリテーション実施加算の算定状況は、算定している事業所が 41.7%、算定していない事業所が 58.3%であった。

図表 41 訪問リハビリテーション 短期集中リハビリテーション実施加算の算定の有無

	件数	算定あり	算定なし	無回答
合計	12 100.0%	5 41.7%	7 58.3%	-

(3) 併設施設について

1) 併設施設の種類の種類

平成24年11月1日時点で通所リハビリテーション事業所において併設している施設は、病院が63.0%と最も多く、次いで、介護保険サービス事業所が48.1%であった。

図表 42 通所リハビリテーション 併設施設の種類の種類

	件数	病院併設	有床診療所併設	無床診療所併設	介護事業所併設 介護保険サービス	その他	併設機関なし	無回答
合計	27 100.0%	17 63.0%	3 11.1%	2 7.4%	13 48.1%	1 3.7%	-	1 3.7%

通所リハビリテーション事業所において併設している介護保険サービス事業所の種類では、居宅介護支援事業所が84.6%と最も多く、次いで介護老人保健施設が69.2%であった。

図表 43 通所リハビリテーション 併設している介護保険サービス事業所の種類

	件数	介護老人保健施設	訪問リハビリテーション事業所	居宅介護支援事業所	通所介護事業所	上記サービス以外の介護所 介護保険	無回答
合計	13 100.0%	9 69.2%	7 53.8%	11 84.6%	4 30.8%	8 61.5%	-

平成 24 年 11 月 1 日時点で通所介護事業所において併設している施設は、介護保険サービス事業所が 50.0%と最も多く、次いで、病院が 10.0%であった。併設機関がない事業所も 50.0%あった。

図表 44 通所介護 併設施設の種類の種類

	件数	病院併設	有床診療所併設	無床診療所併設	介護保険サービス併設	その他	併設機関なし	無回答
合計	10 100.0%	1 10.0%	-	-	5 50.0%	1 10.0%	5 50.0%	-

通所介護事業所において併設している介護保険サービス事業所の種類では、居宅介護支援事業所とその他の介護保険サービス事業所がともに 80.0%であった。

図表 45 通所介護 併設している介護保険サービス事業所の種類

	件数	介護老人保健施設	訪問リハビリテーション事業所	居宅介護支援事業所	通所リハビリテーション事業所	その他の介護保険サービス事業所	無回答
合計	5 100.0%	-	-	4 80.0%	-	4 80.0%	-

平成 24 年 11 月 1 日時点で訪問リハビリテーション事業所において他機関を併設している施設は、介護保険サービス事業所が 83.3%と最も多く、次いで病院が 75.0%であった。

図表 46 訪問リハビリテーション 他機関の併設施設の種類の種類

	件数	病院併設	有床診療所併設	無床診療所併設	介護保険サービス併設	その他	併設機関なし	無回答
合計	12 100.0%	9 75.0%	1 8.3%	3 25.0%	10 83.3%	2 16.7%	-	-

訪問リハビリテーション事業所において併設している介護保険サービス事業所の種類では、訪問リハビリテーション事業所および居宅介護支援事業所がともに 80.0%、その他介護保険サービス事業所が 60.0%であった。

図表 47 訪問リハビリテーション 併設している介護保険サービス事業所の種類

	件数	介護老人保健施設	訪問リハビリテーション事業所	居宅介護支援事業所	通所介護事業所	上記サービス事業所以外の介護保険	無回答
合計	10 100.0%	4 40.0%	8 80.0%	8 80.0%	3 30.0%	6 60.0%	-

(4) 職員体制について

1) 常勤職員数

平成24年11月1日時点の通所リハビリテーション事業所の職種別の常勤職員数（実人数）は、介護職員が最も多く平均8.5人、次いで理学療法士が平均4.1人であった。作業療法士は平均2.4人、言語聴覚士は0.9人であった。医師は平均1.9人、看護職員は平均1.7人であった。また、理学療法士のうち通所リハビリテーションに専従の者は平均2.5人、作業療法士のうち通所リハビリテーションに専従の者は平均1.3人、言語聴覚士のうち通所リハビリテーションに専従の者は平均0.9人であった。

図表 48 通所リハビリテーション 常勤職員数（実人数）

	件数	0人	2人未満	2.5 3人未満	3.5 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(実数合計) (単位：人)	(平均：人) (単位：人)	(標準偏差：人) (単位：人)
□											
医師	27 100.0%	1 3.7%	10 37.0%	8 29.6%	7 25.9%	-	1 3.7%	26	50	1.92	1.09
看護職員	27 100.0%	6 22.2%	9 33.3%	7 25.9%	2 7.4%	3 11.1%	-	27	47	1.74	1.75
理学療法士	27 100.0%	1 3.7%	4 14.8%	5 18.5%	8 29.6%	9 33.3%	-	27	110	4.07	2.76
うち通所リハに専従の者	26 100.0%	3 11.5%	10 38.5%	4 15.4%	5 19.2%	3 11.5%	1 3.8%	25	62	2.48	2.65
作業療法士	27 100.0%	2 7.4%	11 40.7%	5 18.5%	3 11.1%	6 22.2%	-	27	66	2.44	2.06
うち通所リハに専従の者	25 100.0%	8 32.0%	10 40.0%	3 12.0%	1 4.0%	2 8.0%	1 4.0%	24	31	1.29	1.68
言語聴覚士	27 100.0%	15 55.6%	5 18.5%	1 3.7%	3 11.1%	1 3.7%	2 7.4%	25	23	0.92	1.55
うち通所リハに専従の者	10 100.0%	6 60.0%	3 30.0%	-	-	1 10.0%	-	10	9	0.90	1.85
介護職員	27 100.0%	-	-	2 7.4%	7 25.9%	18 66.7%	-	27	230	8.52	5.14
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	27 100.0%	23 85.2%	2 7.4%	-	-	-	2 7.4%	25	2	0.08	0.28
ソーシャル・ワーカー	27 100.0%	10 37.0%	13 48.1%	2 7.4%	-	1 3.7%	1 3.7%	26	21.6	0.83	1.05
管理栄養士	27 100.0%	10 37.0%	12 44.4%	1 3.7%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%	26	25	0.96	1.18
歯科衛生士	27 100.0%	16 59.3%	7 25.9%	1 3.7%	-	-	3 11.1%	24	8.1	0.34	0.56

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所の職種別の常勤職員数（常勤換算）は、介護職員が最も多く平均 6.6 人、次いで理学療法士が平均 2.5 人であった。作業療法士は平均 1.6 人、言語聴覚士は 0.6 人であった。医師は平均 0.9 人、看護職員は平均 1.2 人であった。

図表 49 通所リハビリテーション 常勤職員数（常勤換算）

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3 人 未 満	3 ～ 5 人 未 満	5 人 以上	無 回 答	平均の 分母	(単位 合計人)	(単位 均：人 値)	(単位 偏差： 人)
□											
医師	27 100.0%	1 3.7%	20 74.1%	3 11.1%	1 3.7%	-	2 7.4%	25	22.14	0.89	0.79
看護職員	27 100.0%	7 25.9%	11 40.7%	3 11.1%	1 3.7%	2 7.4%	3 11.1%	24	29.07	1.21	1.42
理学療法士	27 100.0%	2 7.4%	12 44.4%	3 11.1%	6 22.2%	3 11.1%	1 3.7%	26	65.17	2.51	2.52
作業療法士	27 100.0%	2 7.4%	15 55.6%	2 7.4%	3 11.1%	3 11.1%	2 7.4%	25	40.28	1.61	1.96
言語聴覚士	27 100.0%	12 44.4%	9 33.3%	1 3.7%	-	1 3.7%	4 14.8%	23	12.8	0.56	1.30
介護職員	27 100.0%	1 3.7%	4 14.8%	2 7.4%	5 18.5%	13 48.1%	2 7.4%	25	163.64	6.55	5.28
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧	27 100.0%	21 77.8%	1 3.7%	-	-	-	5 18.5%	22	1	0.05	0.21

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の職種別の常勤職員数（実人数）は、介護職員が最も多く平均 4.3 人、次いで生活相談員が平均 2.0 人、看護職員が平均 0.8 人であった。機能訓練指導員は平均 0.2 人であった。

図表 50 通所介護 常勤職員数（実人数）

	件数	0人	2人未満	2<3人未満	3<5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	（実数合計） （単位：人）	（平均：人） （単位：人）	（標準偏差：人） （単位：人）
□											
看護職員	10 100.0%	4 40.0%	3 30.0%	2 20.0%	-	-	1 10.0%	9	7	0.78	0.83
介護職員	10 100.0%	1 10.0%	-	2 20.0%	2 20.0%	4 40.0%	1 10.0%	9	39	4.33	3.04
生活相談員	10 100.0%	-	3 30.0%	5 50.0%	2 20.0%	-	-	10	20	2.00	0.94
機能訓練指導員	10 100.0%	5 50.0%	1 10.0%	-	-	-	4 40.0%	6	1	0.17	0.41
うち理学療法士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち作業療法士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち言語聴覚士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち柔道整復師・あん摩マッサージ指	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-	-	-	1	1	1.00	0.00
うち通所介護に専従の者	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-	-	-	1	1	1.00	0.00
ソーシャル・ワーカー	10 100.0%	6 60.0%	1 10.0%	-	-	-	3 30.0%	7	1	0.14	0.38
健康運動指導士	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0.00	0.00
管理栄養士	10 100.0%	6 60.0%	1 10.0%	-	-	-	3 30.0%	7	1	0.14	0.38
歯科衛生士	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0.00	0.00

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の職種別の常勤職員数（常勤換算）は、介護職員が最も多く平均 4.2 人、次いで生活相談員が平均 1.5 人、看護職員が平均 0.6 人であった。機能訓練指導員は平均 0.3 人であった。

図表 51 通所介護 常勤職員数（常勤換算）

□	件数	0人	2人未満	2 ～ 3人未満	3 ～ 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(単位数合計)	(単位数)	(標準偏差)
看護職員	10 100.0%	4 40.0%	4 40.0%	-	-	-	2 20.0%	8	4	0.55	0.60
介護職員	10 100.0%	1 10.0%	-	2 20.0%	1 10.0%	4 40.0%	2 20.0%	8	33	4.15	2.62
生活相談員	10 100.0%	1 10.0%	3 30.0%	5 50.0%	-	-	1 10.0%	9	14	1.50	0.79
機能訓練指導員	10 100.0%	3 30.0%	1 10.0%	-	-	-	6 60.0%	4	1	0.25	0.50
うち理学療法士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち作業療法士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち言語聴覚士	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00
うち柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-	-	-	1	1	1.00	0.00

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の職種別の常勤職員数（実人数）は、理学療法士が最も多く平均 8.8 人、次いで作業療法士が平均 3.6 人、言語聴覚士が平均 1.3 人であった。理学療法士のうち訪問リハビリテーションに専従の者は平均 5.6 人、作業療法士のうち訪問リハビリテーションに専従の者は平均 2.6 人、言語聴覚士のうち訪問リハビリテーションに専従の者は平均 1.0 人であった。

図表 52 訪問リハビリテーション 常勤職員数（実人数）

□	件数	0人	2人未満	2 ～ 3人未満	3 ～ 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(単位数合計)	(単位数)	(標準偏差)
理学療法士	12 100.0%	1 8.3%	-	2 16.7%	-	9 75.0%	-	12	106	8.83	8.60
うち訪問リハに専従の者	11 100.0%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	5 45.5%	-	11	61	5.55	6.19
作業療法士	12 100.0%	1 8.3%	2 16.7%	2 16.7%	4 33.3%	3 25.0%	-	12	43	3.58	3.32
うち訪問リハに専従の者	11 100.0%	3 27.3%	1 9.1%	2 18.2%	3 27.3%	2 18.2%	-	11	29	2.64	2.77
言語聴覚士	12 100.0%	5 41.7%	4 33.3%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	-	12	15	1.25	1.66
うち訪問リハに専従の者	7 100.0%	3 42.9%	3 42.9%	-	1 14.3%	-	-	7	7	1.00	1.41

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の職種別の常勤職員数（常勤換算）は、理学療法士が最も多く平均 6.1 人、次いで作業療法士が平均 2.5 人、言語聴覚士が平均 0.8 人であった。

図表 53 訪問リハビリテーション 常勤職員数（常勤換算）

□	件数	0人	2人未満	2～3人未満	3～5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(単位数：計人)	(単位均：人値)	(単位標準偏：差人)
理学療法士	12 100.0%	1 8.3%	1 8.3%	1 8.3%	3 25.0%	5 41.7%	1 8.3%	11	67.3	6.12	5.64
作業療法士	12 100.0%	2 16.7%	2 16.7%	4 33.3%	2 16.7%	2 16.7%	-	12	30.4	2.53	2.38
言語聴覚士	12 100.0%	4 33.3%	6 50.0%	-	1 8.3%	-	1 8.3%	11	9.2	0.84	1.23

2) 非常勤職員数

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所の職種別の非常勤職員数（実人数）は、介護職員が最も多く平均 3.2 人、次いで看護職員が平均 1.0 人であった。作業療法士は平均 0.3 人、理学療法士は平均 0.2 人、言語聴覚士は 0.1 人であった。医師は平均 0.2 人であった。

図表 54 通所リハビリテーション 非常勤職員数（実人数）

□	件数	0人	2人未満	2～3人未満	3～5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(単位数：計人)	(単位均：人値)	(単位標準偏：差人)
医師	27 100.0%	20 74.1%	2 7.4%	1 3.7%	-	-	4 14.8%	23	4	0.17	0.49
看護職員	27 100.0%	12 44.4%	3 11.1%	5 18.5%	1 3.7%	1 3.7%	5 18.5%	22	21	0.95	1.33
理学療法士	27 100.0%	19 70.4%	2 7.4%	1 3.7%	-	-	5 18.5%	22	4	0.18	0.50
うち通所リハに専従の者	3 100.0%	-	1 33.3%	-	-	-	2 66.7%	1	1	1.00	0.00
作業療法士	27 100.0%	18 66.7%	3 11.1%	-	1 3.7%	-	5 18.5%	22	7	0.32	0.89
うち通所リハに専従の者	4 100.0%	-	4 100.0%	-	-	-	-	4	4	1.00	0.00
言語聴覚士	27 100.0%	21 77.8%	1 3.7%	-	-	-	5 18.5%	22	1	0.05	0.21
うち通所リハに専従の者	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-	-	-	1	1	1.00	0.00
介護職員	27 100.0%	9 33.3%	2 7.4%	3 11.1%	1 3.7%	7 25.9%	5 18.5%	22	71	3.23	4.15
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	27 100.0%	22 81.5%	-	-	-	-	5 18.5%	22	0	0.00	0.00
ソーシャル・ワーカー	27 100.0%	22 81.5%	-	-	-	-	5 18.5%	22	0	0.00	0.00
管理栄養士	27 100.0%	22 81.5%	-	1 3.7%	-	-	4 14.8%	23	2	0.09	0.42
歯科衛生士	27 100.0%	20 74.1%	2 7.4%	-	-	-	5 18.5%	22	2	0.09	0.29

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所の職種別の非常勤職員数（常勤換算）は、介護職員が最も多く平均 1.5 人、次いで看護職員が平均 0.5 人であった。

図表 55 通所リハビリテーション 非常勤職員数（常勤換算）

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3 人 未 満	3 ～ 5 人 未 満	5 人 以上	無 回 答	平均 の 分 母	(単 位 合 計 人)	平 均 : 人 値	(単 位 偏 差 人)
□											
医師	27 100.0%	19 70.4%	2 7.4%	-	-	-	6 22.2%	21	0.7	0.03	0.13
看護職員	27 100.0%	13 48.1%	6 22.2%	1 3.7%	1 3.7%	-	6 22.2%	21	10.6	0.50	0.91
理学療法士	27 100.0%	19 70.4%	2 7.4%	-	-	-	6 22.2%	21	0.9	0.04	0.14
作業療法士	27 100.0%	18 66.7%	3 11.1%	-	-	-	6 22.2%	21	1.1	0.05	0.16
言語聴覚士	27 100.0%	18 66.7%	1 3.7%	-	-	-	8 29.6%	19	0.4	0.02	0.09
介護職員	27 100.0%	9 33.3%	8 29.6%	-	2 7.4%	2 7.4%	6 22.2%	21	31.3	1.49	2.30
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	27 100.0%	21 77.8%	-	-	-	-	6 22.2%	21	0	0.00	0.00

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の職種別の非常勤職員数（実人数）は、介護職員が最も多く平均 6.4 人、次いで看護職員が平均 2.3 人であった。機能訓練指導員は 0 人の事業所が 60.0%であった。

図表 56 通所介護 非常勤職員数（実人数）

	件数	0人	2人未満	2～3人未満	3～5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(実数合計：人)	(平均：人値)	(標準偏差：人)
看護職員	10 100.0%	-	3 30.0%	5 50.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	10	23	2.30	1.77
介護職員	10 100.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	1 10.0%	6 60.0%	1 10.0%	9	58	6.44	4.53
生活相談員	10 100.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	1 10.0%	9	9	1	1
機能訓練指導員	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0	0
うち理学療法士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち作業療法士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち言語聴覚士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち通所介護に専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ソーシャル・ワーカー	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0	0
健康運動指導士	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0	0
管理栄養士	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0	0
歯科衛生士	10 100.0%	6 60.0%	-	-	-	-	4 40.0%	6	0	0	0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所の職種別の非常勤職員数（常勤換算）は、介護職員が最も多く平均 4.0 人、次いで看護職員が平均 1.1 人であった。

図表 57 通所介護 非常勤職員数（常勤換算）

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3人未満	3 ～ 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	（実数合計：人）	（平均：人値）	（標準偏差：人）
看護職員	10 100.0%	1 10.0%	7 70.0%	-	1 10.0%	-	1 10.0%	9	9.8	1.09	1.25
介護職員	10 100.0%	1 10.0%	2 20.0%	-	1 10.0%	3 30.0%	3 30.0%	7	27.8	3.97	3.49
生活相談員	10 100.0%	2 20.0%	4 40.0%	1 10.0%	-	-	3 30.0%	7	4.6	0.66	0.90
機能訓練指導員	10 100.0%	4 40.0%	-	-	-	-	6 60.0%	4	0	0.00	0.00
うち理学療法士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち作業療法士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち言語聴覚士	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の職種別の非常勤職員数（実人数）は、作業療法士が平均 0.3 人、言語聴覚士が平均 0.1 人であった。理学療法士は全ての事業所で 0 人であった。

図表 58 訪問リハビリテーション 非常勤職員数（実人数）

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3人未満	3 ～ 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	（実数合計：人）	（平均：人値）	（標準偏差：人）
□ 理学療法士	12 100.0%	12 100.0%	-	-	-	-	-	12	0	0.00	0.00
うち訪問リハに専従の者	0 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
作業療法士	12 100.0%	9 75.0%	3 25.0%	-	-	-	-	12	3	0.25	0.45
うち訪問リハに専従の者	3 100.0%	1 33.3%	2 66.7%	-	-	-	-	3	2	0.67	0.58
言語聴覚士	12 100.0%	11 91.7%	1 8.3%	-	-	-	-	12	1	0.08	0.29
うち訪問リハに専従の者	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	1	0	0.00	0.00

平成 24 年 11 月 1 日時点の訪問リハビリテーション事業所の職種別の非常勤職員数（常勤換算）は、全ての職種で 0 人の事業所が最も多かった。

作業療法士が平均 0.2 人、言語聴覚士が平均 0.03 人であった。理学療法士は 0 人の事業所が 83.3%であった。

図表 59 訪問リハビリテーション 非常勤職員数（常勤換算）

	件数	0人	2人未満	2～3人未満	3～5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	(実数合計) (単位：人)	(平均値) (単位：人)	(標準偏差) (単位：人)
□ 理学療法士	12 100.0%	10 83.3%	-	-	-	-	2 16.7%	10	0	0.00	0.00
作業療法士	12 100.0%	8 66.7%	3 25.0%	-	-	-	1 8.3%	11	2.05	0.19	0.32
言語聴覚士	12 100.0%	9 75.0%	1 8.3%	-	-	-	2 16.7%	10	0.3	0.03	0.09

(5) 利用者について

1) 医療的ケアの状況

平成24年11月1日時点の通所リハビリテーション事業所における登録者のうち、医療的ケアが必要な者は、服薬管理が必要な者が最も多く平均44.2人、次いで胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理が必要な者が平均1.8人、インスリン注射が必要な者が1.4人であった。

図表 60 通所リハビリテーション 必要とする医療的ケア

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3人未満	3 ～ 5人未満	5人以上	無回答	平均の分母	実数合計 (単位：人)	平均値 (単位：人)	標準偏差 (単位：人)	最大値 (単位：人)	最小値 (単位：人)
胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理	27 100.0%	14 51.9%	2 7.4%	5 18.5%	3 11.1%	3 11.1%	-	27	48.0	1.78	2.74	10.0	0.0
膀胱(留置)カテーテルの管理	27 100.0%	12 44.4%	7 25.9%	4 14.8%	3 11.1%	1 3.7%	-	27	36.0	1.33	2.37	12.0	0.0
人工肛門(ストーマ)のケア	27 100.0%	15 55.6%	9 33.3%	1 3.7%	1 3.7%	-	1 3.7%	26	14.0	0.54	0.76	3.0	0.0
たんの吸引	27 100.0%	16 59.3%	7 25.9%	2 7.4%	1 3.7%	1 3.7%	-	27	22.0	0.81	1.55	7.0	0.0
ネブライザー	27 100.0%	24 88.9%	1 3.7%	1 3.7%	-	-	1 3.7%	26	3.0	0.12	0.43	2.0	0.0
酸素療法(酸素吸入)	27 100.0%	16 59.3%	5 18.5%	4 14.8%	-	1 3.7%	1 3.7%	26	18.0	0.69	1.16	5.0	0.0
気管切開のケア	27 100.0%	18 66.7%	7 25.9%	2 7.4%	-	-	-	27	11.0	0.41	0.64	2.0	0.0
人工呼吸器の管理	27 100.0%	26 96.3%	-	-	-	-	1 3.7%	26	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
褥瘡の処置	27 100.0%	17 63.0%	5 18.5%	1 3.7%	4 14.8%	-	-	27	20.0	0.74	1.20	4.0	0.0
インスリン注射	27 100.0%	10 37.0%	7 25.9%	4 14.8%	5 18.5%	1 3.7%	-	27	37.0	1.37	1.52	6.0	0.0
導尿	27 100.0%	18 66.7%	6 22.2%	1 3.7%	1 3.7%	-	1 3.7%	26	11.0	0.42	0.76	3.0	0.0
浣腸	27 100.0%	19 70.4%	6 22.2%	-	-	-	2 7.4%	25	6.0	0.24	0.44	1.0	0.0
排便	27 100.0%	20 74.1%	2 7.4%	3 11.1%	-	-	2 7.4%	25	8.0	0.32	0.69	2.0	0.0
服薬管理	27 100.0%	3 11.1%	-	-	-	22 81.5%	2 7.4%	25	1,106.0	44.24	35.99	163.0	0.0
その他	27 100.0%	14 51.9%	-	-	2 7.4%	2 7.4%	9 33.3%	18	37.0	2.06	5.07	20.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所における登録者のうち、医療的ケアが必要な者は、服薬管理が必要な者が最も多く平均 17.6 人、次いで酸素療法（酸素吸入）が必要な者および褥瘡の措置が必要な者がそれぞれ平均 1.0 人であった。

図表 61 通所介護 必要とする医療的ケア

	件数	0人	2人未満	2 ～ 3 人未満	3 ～ 5 人未満	5人以上	無回答	平均の分母	実数合計 (単位：人)	平均値 (単位：人)	標準偏差 (単位：人)	最大値 (単位：人)	最小値 (単位：人)
胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理	10 100.0%	4 40.0%	5 50.0%	-	-	-	1 10.0%	9	5.0	0.56	0.53	1.0	0.0
膀胱(留置)カテーテルの管理	10 100.0%	5 50.0%	1 10.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	2 20.0%	8	6.0	0.75	1.16	3.0	0.0
人工肛門(ストーマ)のケア	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
たんの吸引	10 100.0%	6 60.0%	1 10.0%	-	-	-	3 30.0%	7	1.0	0.14	0.38	1.0	0.0
ネブライザー	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
酸素療法(酸素吸入)	10 100.0%	3 30.0%	1 10.0%	3 30.0%	-	-	3 30.0%	7	7.0	1.00	1.00	2.0	0.0
気管切開のケア	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
人工呼吸器の管理	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
褥瘡の処置	10 100.0%	4 40.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	-	2 20.0%	8	8.0	1.00	1.20	3.0	0.0
インスリン注射	10 100.0%	5 50.0%	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	-	1 10.0%	9	8.0	0.89	1.17	3.0	0.0
導尿	10 100.0%	6 60.0%	2 20.0%	-	-	-	2 20.0%	8	2.0	0.25	0.46	1.0	0.0
浣腸	10 100.0%	7 70.0%	1 10.0%	-	-	-	2 20.0%	8	1.0	0.13	0.35	1.0	0.0
排便	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0
服薬管理	10 100.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	6 60.0%	-	10	176.0	17.60	17.78	44.0	0.0
その他	10 100.0%	7 70.0%	-	-	-	-	3 30.0%	7	0.0	0.00	0.00	0.0	0.0

2) その他のケアの状況

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所リハビリテーション事業所における登録者のうち、その他のケアが必要な者は、一連の入浴行為を 1 対 1 介助で入浴している人数が最も多く平均 41.8 人、次いでおむつをしている人数が平均 39.0 人であった。経口摂取の際に食事介助が必要な人数が最も少なく平均 5.7 人であった。

図表 62 通所リハビリテーション その他のケアの状況

	件数	3 人未満	3 ～ 5 人未満	5 ～ 未 10 人	10 未 20 人	20 人 以上	無回答	平均の 分母	実数 (単位: 人)	平均 (単位: 人)	標準 (単位: 人)	最大 (単位: 人)	最小 (単位: 人)
おむつをしている人数(リハビリパンツ含む)	27 100.0%	-	1 3.7%	3 11.1%	3 11.1%	20 74.1%	-	27	1,053.0	39.00	26.70	108.0	3.0
一連の入浴行為を1対1介助で入浴している人数	27 100.0%	5 18.5%	3 11.1%	-	5 18.5%	14 51.9%	-	27	1,128.0	41.78	46.53	162.0	0.0
機械浴で入浴している人数	27 100.0%	11 40.7%	-	1 3.7%	7 25.9%	8 29.6%	-	27	526.0	19.48	24.90	85.0	0.0
経口摂取の際に食事介助が必要な人数	27 100.0%	8 29.6%	5 18.5%	8 29.6%	5 18.5%	1 3.7%	-	27	153.0	5.67	5.78	27.0	0.0
認知症などで常時見守りが必要な人数	27 100.0%	7 25.9%	5 18.5%	7 25.9%	5 18.5%	3 11.1%	-	27	315.0	11.67	22.44	112.0	0.0

平成 24 年 11 月 1 日時点の通所介護事業所における登録者のうち、その他のケアが必要な者は、おむつをしている人数が最も多く平均 32.8 人、次いで一連の入浴行為を 1 対 1 介助で入浴している人数が平均 26.0 人であった。経口摂取の際に食事介助が必要な人数が最も少なく平均 2.5 人であった。

図表 63 通所介護 その他のケアの状況

	件数	3 人未満	3 ～ 5 人未満	5 ～ 未 10 人	10 未 20 人	20 人 以上	無回答	平均の 分母	実数 (単位: 人)	平均 (単位: 人)	標準 (単位: 人)	最大 (単位: 人)	最小 (単位: 人)
おむつをしている人数(リハビリパンツ含む)	10 100.0%	-	-	1 10.0%	1 10.0%	8 80.0%	-	10	328.0	32.80	18.45	62.0	7.0
一連の入浴行為を1対1介助で入浴している人数	10 100.0%	2 20.0%	2 20.0%	-	1 10.0%	5 50.0%	-	10	260.0	26.00	27.73	70.0	0.0
機械浴で入浴している人数	10 100.0%	5 50.0%	-	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	-	10	61.0	6.10	8.02	24.0	0.0
経口摂取の際に食事介助が必要な人数	10 100.0%	5 50.0%	3 30.0%	2 20.0%	-	-	-	10	25.0	2.50	2.51	7.0	0.0
認知症などで常時見守りが必要な人数	10 100.0%	7 70.0%	-	1 10.0%	2 20.0%	-	-	10	48.0	4.80	6.63	18.0	0.0

3. 利用者の基本情報

(1) 性別

利用者の性別は、通所リハビリテーションでは男性が 49.7%、女性が 50.3%であった。通所介護では男性が 27.8%、女性が 72.2%、訪問リハビリテーションでは男性が 35.2%、女性が 63.9%であった。

図表 64 性別

	件数	男性	女性	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	188 49.7%	190 50.3%	-
通所介護	144 100.0%	40 27.8%	104 72.2%	-
訪問リハビリテーション	108 100.0%	38 35.2%	69 63.9%	1 0.9%

(2) 年齢

利用者の年齢は、通所リハビリテーションでは 70～80 歳未満が最も多く 38.1%、次いで 80～90 歳未満が 30.7%であり、平均 75.2 歳であった。通所介護では 80～90 歳未満が最も多く 43.8%、次いで 70～80 歳未満が 30.6%であり、平均 81.8 歳であった。訪問リハビリテーションでは 70～80 歳未満と 80～90 歳未満がともに 32.4%であり、平均 76.6 歳であった。

図表 65 年齢

	件数	50歳未満	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳～89歳	90歳以上	無回答	平均の分母	実数合計(歳)	平均(単位:歳)	標準偏差(単位:歳)	最大値(単位:歳)	最小値(単位:歳)
通所リハビリテーション	378 100.0%	6 1.6%	20 5.3%	69 18.3%	144 38.1%	116 30.7%	21 5.6%	2 0.5%	376	28,272.0	75.19	9.95	96.0	41.0
通所介護	144 100.0%	-	1 0.7%	8 5.6%	44 30.6%	63 43.8%	25 17.4%	3 2.1%	141	11,536.0	81.82	8.39	100.0	55.0
訪問リハビリテーション	108 100.0%	2 1.9%	7 6.5%	17 15.7%	35 32.4%	35 32.4%	12 11.1%	-	108	8,214.0	76.06	11.20	98.0	44.0

(3) 事業所の利用開始年月

事業所の利用開始年月は、通所リハビリテーションでは2012年4月～2012年9月が最も多く34.7%、次いで2010年4月～2012年3月が26.2%であった。通所介護では2010年4月～2012年3月が最も多く41.0%、次いで～2010年3月が37.5%であった。訪問リハビリテーションでは2012年4月～2012年9月が最も多く50.0%、次いで2012年10月～が31.5%であった。

図表 66 利用開始年月

	件数	2010年3月	2011年4月	2012年4月	2012年9月	2012年10月	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	94 24.9%	99 26.2%	131 34.7%	46 12.2%	8 2.1%	
通所介護	144 100.0%	54 37.5%	59 41.0%	14 9.7%	13 9.0%	4 2.8%	
訪問リハビリテーション	108 100.0%	7 6.5%	12 11.1%	54 50.0%	34 31.5%	1 0.9%	

(4) 評価者の職種

評価者の職種は、通所リハビリテーションでは理学療法士が最も多く44.4%、次いで作業療法士が26.2%であった。通所介護では介護職が最も多く66.0%であり、その他も25.0%であった。訪問リハビリテーションでは理学療法士が最も多く64.8%、次いで作業療法士が33.3%であった。

図表 67 評価者の職種

	件数	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	看護職	介護職	その他	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	168 44.4%	99 26.2%	8 2.1%	38 10.1%	55 14.6%	4 1.1%	6 1.6%
通所介護	144 100.0%	-	-	-	12 8.3%	95 66.0%	36 25.0%	1 0.7%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	70 64.8%	36 33.3%	1 0.9%	-	-	-	1 0.9%

(5) 要介護度

利用者の調査日時点の要介護度は、通所リハビリテーションでは要介護 2 が最も多く 32.3%、次いで要介護 1 が 29.4%であった。通所介護では要介護 1 が最も多く 37.5%であり、次いで要介護 2 が 25.7%であった。訪問リハビリテーションでは要介護 3 が最も多く 29.6%、次いで要介護 2 が 20.4%であった。

図表 68 調査日時点の要介護度

	件数	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	111 29.4%	122 32.3%	86 22.8%	33 8.7%	17 4.5%	9 2.4%
通所介護	144 100.0%	54 37.5%	37 25.7%	28 19.4%	12 8.3%	9 6.3%	4 2.8%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	18 16.7%	22 20.4%	32 29.6%	14 13.0%	9 8.3%	13 12.0%

(6) 日常生活自立度

利用者の調査日時点の日常生活自立度は、通所リハビリテーション事業所では A1 が 24.9%と最も多く、次いで A2 が 14.8%であった。通所介護事業所では J1 が 14.6%と最も多く、次いで J2 が 12.5%であった。訪問リハビリテーション事業所では A1 が 25.0%と最も多く、次いで B1 が 18.5%であった。

図表 69 調査日時点の日常生活自立度

	件数	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	22 5.8%	26 6.9%	52 13.8%	94 24.9%	56 14.8%	52 13.8%	28 7.4%	4 1.1%	4 1.1%	40 10.6%
通所介護	144 100.0%	8 5.6%	21 14.6%	18 12.5%	17 11.8%	13 9.0%	6 4.2%	5 3.5%	4 2.8%	-	52 36.1%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	3 2.8%	1 0.9%	3 2.8%	27 25.0%	19 17.6%	20 18.5%	13 12.0%	5 4.6%	2 1.9%	15 13.9%

(7) 認知症高齢者の日常生活自立度

調査日時点の認知症高齢者の日常生活自立度は、通所リハビリテーション事業所では自立が 39.4%と最も多く、次いで I が 21.7%であった。通所介護事業所では自立が 15.3%と最も多く、次いで I および IIa がそれぞれ 14.6%であった。訪問リハビリテーション事業所では自立が 41.7%と最も多く、次いで I が 16.7%であった。

図表 70 調査日時点の認知症高齢者の日常生活自立度

	件数	自立	I	II a	II b	III a	IV	V	無回答
通所リハビリテーション	378	149	82	63	25	15	2	-	42
	100.0%	39.4%	21.7%	16.7%	6.6%	4.0%	0.5%	-	11.1%
通所介護	144	22	21	21	11	12	-	-	57
	100.0%	15.3%	14.6%	14.6%	7.6%	8.3%	-	-	39.6%
訪問リハビリテーション	108	45	18	7	11	6	5	-	16
	100.0%	41.7%	16.7%	6.5%	10.2%	5.6%	4.6%	-	14.8%

(8) 調査日時点で有している傷病

調査日時点の有している傷病は、通所リハビリテーション事業所では脳血管疾患が最も多く 54.5%、次いで骨折が 15.3%、心疾患が 13.8%であり、その他も 27.8%であった。通所介護事業所では認知症が最も多く 29.9%、次いで脳血管疾患が 20.8%、糖尿病が 13.2%であり、その他も 36.8%であった。訪問リハビリテーション事業所では脳血管疾患が最も多く 54.6%、次いで骨折が 16.7%、糖尿病が 15.7%であり、その他も 31.5%であった。

図表 71 有している傷病

	件数	脳血管疾患	心疾患	糖尿病	がん	腎不全	慢性呼吸不全	骨折	認知症	パーキンソン病	その他	なし	無回答
通所リハビリテーション	378	206	52	46	9	10	5	58	26	44	105	7	13
	100.0%	54.5%	13.8%	12.2%	2.4%	2.6%	1.3%	15.3%	6.9%	11.6%	27.8%	1.9%	3.4%
通所介護	144	30	14	19	8	5	2	4	43	7	53	13	12
	100.0%	20.8%	9.7%	13.2%	5.6%	3.5%	1.4%	2.8%	29.9%	4.9%	36.8%	9.0%	8.3%
訪問リハビリテーション	108	59	11	17	3	6	8	18	11	7	34	1	6
	100.0%	54.6%	10.2%	15.7%	2.8%	5.6%	7.4%	16.7%	10.2%	6.5%	31.5%	0.9%	5.6%

(9) 必要とする医療的ケア

必要とする医療的ケアは、通所リハビリテーション事業所では服薬管理が最も多く 32.0%、次いでインスリン注射が 2.9%であった。通所介護事業所では服薬管理が最も多く 46.5%、次いでインスリン注射が 2.1%であった。訪問リハビリテーション事業所では服薬管理が最も多く 34.3%、次いで酸素療法（酸素吸入）が 5.6%、インスリン注射が 3.7%であった。

図表 72 必要とする医療的ケア

	件数	胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理	膀胱（留置）カテーテルの管理	人工肛門（ストーマ）のケア	たんの吸引	ネブライザー	酸素療法（酸素吸入）	気管切開のケア	人工呼吸器の管理	褥瘡の処置	インスリン注射	導尿	洗腸	排便	服薬管理	その他	無回答
□																	
通所リハビリテーション	378	3	4	3	1	-	3	1	-	4	11	3	3	3	121	23	222
	100.0%	0.8%	1.1%	0.8%	0.3%	-	0.8%	0.3%	-	1.1%	2.9%	0.8%	0.8%	0.8%	32.0%	6.1%	58.7%
通所介護	144	-	1	-	-	-	2	-	-	-	3	-	1	-	67	24	52
	100.0%	-	0.7%	-	-	-	1.4%	-	-	-	2.1%	-	0.7%	-	46.5%	16.7%	36.1%
訪問リハビリテーション	108	2	1	2	1	2	6	-	-	1	4	-	1	1	37	7	58
	100.0%	1.9%	0.9%	1.9%	0.9%	1.9%	5.6%	-	-	0.9%	3.7%	-	0.9%	0.9%	34.3%	6.5%	53.7%

(10) 併用している居宅サービス

併用している居宅サービスは、通所リハビリテーション事業所では通所介護が最も多く 22.5%、次いで訪問介護が 17.5%であり、その他の介護保険サービスも 22.0%が併用していた。通所介護事業所では訪問介護が最も多く 29.9%、次いで通所リハビリテーションが 7.6%であり、その他の介護保険サービスも 22.2%が併用していた。訪問リハビリテーション事業所では通所介護が最も多く 44.4%、次いで訪問介護が 33.3%であり、その他の介護保険サービスも 27.8%が併用していた。

図表 73 併用している居宅サービス

	件数	通所リハビリテーション	通所介護	訪問介護	訪問リハ	訪問看護	その他の介護保険サービス	不明	無回答
通所リハビリテーション	378	-	85	66	42	30	83	13	134
	100.0%	-	22.5%	17.5%	11.1%	7.9%	22.0%	3.4%	35.4%
通所介護	144	11	-	43	3	8	32	16	49
	100.0%	7.6%	-	29.9%	2.1%	5.6%	22.2%	11.1%	34.0%
訪問リハビリテーション	108	17	48	36	-	9	30	-	20
	100.0%	15.7%	44.4%	33.3%	-	8.3%	27.8%	-	18.5%

(11) 過去 2 ヶ月間の間に発生した新たな障害

過去 2 ヶ月間の間に発生した新たな障害は、通所リハビリテーション事業所では精神的に影響の大きい事象、併存疾患の発症・外傷等がそれぞれ 3.2%であり、特になしが 84.9%であった。通所介護事業所では併存疾患の発症・外傷等、生活環境等の急激な変化がそれぞれ 0.7%であり、その他が 3.5%、特になしが 62.5%であった。訪問リハビリテーション事業所では生活環境等の急激な変化が 13.0%、併存疾患の発症・外傷等が 7.4%、新たな疾患への罹患が 3.7%であり、特になしが 68.5%であった。

図表 74 過去 2 ヶ月間の間に発生した新たな障害

	件数	新たな疾患への罹患	併存疾患の発症・外傷等	変化（入院・転居等） 生活環境の急激な	精神的に影響の大きい事象	その他	特になし	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	10 2.6%	12 3.2%	2 0.5%	12 3.2%	3 0.8%	321 84.9%	20 5.3%
通所介護	144 100.0%	-	1 0.7%	1 0.7%	-	5 3.5%	90 62.5%	47 32.6%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	4 3.7%	8 7.4%	14 13.0%	3 2.8%	2 1.9%	74 68.5%	10 9.3%

(12) サービス利用前の所在地

サービス利用前の所在地は、通所リハビリテーション事業所では在宅が最も多く 43.1%、次いで回復期リハ病棟が 36.0%であった。通所介護事業所では在宅が最も多く 86.1%、回復期リハ病棟が 2.1%であった。訪問リハビリテーション事業所では在宅が最も多く 38.9%、次いで回復期リハ病棟が 29.6%であった。

図表 75 サービス利用前の所在地

	件数	急性期病院	回復期リハ病棟	療養病床	介護老人保健施設	介護老人福祉施設	在宅	その他	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	36 9.5%	136 36.0%	19 5.0%	7 1.9%	1 0.3%	163 43.1%	4 1.1%	12 3.2%
通所介護	144 100.0%	-	3 2.1%	-	-	-	124 86.1%	-	17 11.8%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	13 12.0%	32 29.6%	2 1.9%	1 0.9%	-	42 38.9%	7 6.5%	11 10.2%

4. 各アウトカム評価指標の結果（1回目）

（1）高齢者生活機能調査基本チェックリスト

通所リハビリテーション事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第1回目の合計点は、日常生活関連動作が平均3.71点と最も高く、次いで運動器の機能が平均3.27点、低栄養が平均0.33点と最も低く、次いで閉じこもりが平均0.67点であった。

図表 76 通所リハビリテーション 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

	件数	平均（単位：点）	標準偏差（単位：点）	最大値（単位：点）	最小値（単位：点）
日常生活関連動作	378	3.71	1.24	5.0	0.0
運動器の機能	378	3.27	1.25	5.0	0.0
低栄養	378	0.33	0.54	2.0	0.0
口腔機能	378	0.93	0.92	3.0	0.0
閉じこもり	378	0.67	0.69	2.0	0.0
認知症	378	1.12	0.90	3.0	0.0
うつ	378	1.94	1.60	5.0	0.0

通所介護事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第1回目の合計点は、日常生活関連動作が平均3.53点と最も高く、次いで運動器の機能が平均2.96点であった。低栄養、閉じこもりがそれぞれ平均0.46点と最も低かった。

図表 77 通所介護 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

	件数	平均（単位：点）	標準偏差（単位：点）	最大値（単位：点）	最小値（単位：点）
日常生活関連動作	144	3.53	1.56	5.0	0.0
運動器の機能	144	2.96	1.52	5.0	0.0
低栄養	144	0.46	0.59	2.0	0.0
口腔機能	144	0.72	1.00	3.0	0.0
閉じこもり	144	0.46	0.66	2.0	0.0
認知症	144	1.55	0.93	3.0	0.0
うつ	144	1.63	1.64	5.0	0.0

訪問リハビリテーション事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第1回目の合計点は、日常生活関連動作が平均4.24点と最も高く、次いで運動器の機能が平均4.02点、低栄養が平均0.55点と最も低く、次いで口腔機能が平均1.00点であった。

図表 78 訪問リハビリテーション 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

	件数	平均(単位:点)	標準偏差(単位:点)	最大値(単位:点)	最小値(単位:点)
日常生活関連動作	108	4.24	0.97	5.0	0.0
運動器の機能	108	4.02	0.97	5.0	1.0
低栄養	108	0.55	0.62	2.0	0.0
口腔機能	108	1.00	0.96	3.0	0.0
閉じこもり	108	1.02	0.74	2.0	0.0
認知症	108	1.29	0.97	3.0	0.0
うつ	108	2.36	1.63	5.0	0.0

(2) Life-Space Assessment

Life-Space Assessmentの第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは25～50点未満が最も多く43.1%、次いで～25点未満が30.7%であった。通所介護では25～50点未満が最も多く45.1%、次いで50～75点未満が22.9%であった。訪問リハビリテーションでは～25点未満が最も多く54.6%、次いで25～50点未満が32.4%であった。平均点は、通所介護が最も高く43.0点、次いで通所リハビリテーションが34.9点、訪問リハビリテーションが24.9点であった。

図表 79 Life-Space Assessment

	件数	0点	1～25点未満	25～50点未満	50～75点未満	75～100点未満	100～125点未満	125～150点未満	150～200点未満	200点以上	平均の分母	実数合計(単位:点)	平均(単位:点)	標準偏差(単位:点)	最大値(単位:点)	最小値(単位:点)
□																
通所リハビリテーション	378	7	116	163	49	14	3	2	24	354	12,351.5	34.89	22.07	120.0	0.0	
通所介護	144	2	24	65	33	10	-	3	7	137	5895	43.03	23.49	120.0	0.0	
訪問リハビリテーション	108	3	59	35	6	1	-	1	3	105	2614	24.90	17.55	120.0	0.0	

(3) 要支援者等の活動能力指標

要支援者等の活動能力指標の第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは5～6点が最も多く24.1%、次いで3～4点が18.3%であった。通所介護では3～4点が最も多く20.1%、次いで7～8点が18.8%であった。訪問リハビリテーションでは5～6点が最も多く25.9%、次いで1～2点が24.1%であった。平均点は、通所介護が最も高く6.2点、次いで通所リハビリテーションが6.1点、訪問リハビリテーションが4.2点であった。

図表 80 要支援者等の活動能力指標

	件数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点	13点	無回答	平均の分母	(実数合計：点)	(平均：点)	(標準偏差)	(最大：点)	(最小：点)
□																						
通所リハビリテーション	378	13	39	69	91	62	49	29	10	16	362	2,194.0	6.06	3.23	13.0	0.0						
	100.0%	3.4%	10.3%	18.3%	24.1%	16.4%	13.0%	7.7%	2.6%	4.2%												
通所介護	144	4	24	29	16	27	21	20	3	-	144	896	6.22	3.67	13.0	0.0						
	100.0%	2.8%	16.7%	20.1%	11.1%	18.8%	14.6%	13.9%	2.1%													
訪問リハビリテーション	108	7	26	25	28	12	4	1	1	4	104	434	4.17	2.68	13.0	0.0						
	100.0%	6.5%	24.1%	23.1%	25.9%	11.1%	3.7%	0.9%	0.9%	3.7%												

(4) 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)

通所リハビリテーション事業所の手段的日常生活動作能力検査の第1回目の合計点は、男性は3点が最も多く26.6%、次いで2点が19.1%であり、0点も18.1%いた。女性は、3点が最も多く15.8%、次いで5点が15.3%であり、8点も2.1%いた。平均点は、男性2.2点、女性3.4点であった。

図表 81 通所リハビリテーション 手段的日常生活動作能力検査

	件数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	無回答	平均の分母	(実数合計：点)	(平均：点)	(標準偏差)	(最大：点)	(最小：点)
□																	
男性	188	34	24	36	50	31	7	-	-	-	6	182	405.0	2.23	1.46	5.0	0.0
	100.0%	18.1%	12.8%	19.1%	26.6%	16.5%	3.7%				3.2%						
女性	190	18	24	22	30	24	29	25	6	4	8	182	623.0	3.42	2.11	8.0	0.0
	100.0%	9.5%	12.6%	11.6%	15.8%	12.6%	15.3%	13.2%	3.2%	2.1%	4.2%						

通所介護事業所の手段的日常生活動作能力検査の第1回目の合計点は、男性は2点が最も多く25.0%、次いで3点が22.5%であり、0点も12.5%いた。女性は、5点が最も多く16.3%、次いで4点が13.5%であり、8点も2.9%いた。平均点は、男性2.3点、女性3.6点であった。

図表 82 通所介護 手段的日常生活動作能力検査

	件数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	無回答	平均の分母	実数合計 (単位:点)	平均: (単位:点)	標準偏差: (単位:点)	最大: (単位:点)	最小: (単位:点)
□																	
男性	40	5	5	10	9	8	1	-	-	-	2	38	89.0	2.34	1.38	5.0	0.0
	100.0%	12.5%	12.5%	25.0%	22.5%	20.0%	2.5%				5.0%						
女性	104	13	8	11	10	14	17	13	6	3	9	95	345.0	3.63	2.29	8.0	0.0
	100.0%	12.5%	7.7%	10.6%	9.6%	13.5%	16.3%	12.5%	5.8%	2.9%	8.7%						

訪問リハビリテーション事業所の手段的日常生活動作能力検査の第1回目の合計点は、男性は2点が最も多く34.2%、次いで1点が26.3%、4点以上は0%であり、0点も21.1%いた。女性は、3点が最も多く21.7%、次いで2点が18.8%であり、7点も2.9%いた。平均点は、男性1.5点、女性2.4点であった。

図表 83 訪問リハビリテーション 手段的日常生活動作能力検査

	件数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	無回答	平均の分母	実数合計 (単位:点)	平均: (単位:点)	標準偏差: (単位:点)	最大: (単位:点)	最小: (単位:点)
□																	
男性	38	8	10	13	7	-	-	-	-	-	-	38	57.0	1.50	1.03	3.0	0.0
	100.0%	21.1%	26.3%	34.2%	18.4%												
女性	69	10	12	13	15	9	3	2	2	-	3	66	160.0	2.42	1.75	7.0	0.0
	100.0%	14.5%	17.4%	18.8%	21.7%	13.0%	4.3%	2.9%	2.9%	-	4.3%						

(5) 基本的日常生活能力 (Barthel index)

基本的日常生活能力の第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは75～100点未満が最も多く50.8%、次いで50～75点未満が19.6%であった。通所介護では50～75点未満が最も多く30.6%、次いで100点が22.2%であった。訪問リハビリテーションでは75～100点未満が最も多く47.2%、次いで50～75点未満が32.4%であった。平均点は、通所リハビリテーションが最も高く78.7点、次いで通所介護が78.6点、訪問リハビリテーションが65.9点であった。

図表 84 基本的日常生活能力

	件数	0点	25点未満	25満50点	50満75点	75満100点	100点	無回答	平均の分母	実数合計(単位:点)	平均値(単位:点)	標準偏差(単位:点)	最大値(単位:点)	最小値(単位:点)
通所リハビリテーション	378	2	4	26	74	192	64	16	362	28,485.0	78.69	20.65	100.0	0.0
通所介護	144	1	4	23	44	14	32	26	118	9270	78.56	24.29	100.0	0.0
訪問リハビリテーション	108	4	6	7	35	51	4	1	107	7055	65.93	24.76	100.0	0.0

(6) 機能的自立度評価表 (FIM)

機能的自立度評価表の第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは100～125点未満が最も多く62.2%、次いで75～100点未満が21.7%であり、125点以上も5.0%いた。通所介護では100～125点未満が最も多く56.9%、次いで75～100点未満が16.0%であり、125点以上も9.0%いた。訪問リハビリテーションでは100～125点未満が最も多く46.3%、次いで75～100点未満が33.3%であった。平均点は、通所介護が最も高く105.4点、次いで通所リハビリテーションが103.1点、訪問リハビリテーションが91.4点であった。

図表 85 機能的自立度評価表

	件数	0点	25点未満	25～50点	50～75点	75～100点	100～125点	125～150点	150点以上	無回答	平均の分母	(実数合計) (単位:点)	(平均値) (単位:点)	(標準偏差) (単位:点)	(最大値) (単位:点)	(最小値) (単位:点)
□																
通所リハビリテーション	378 100.0%	-	1 0.3%	12 3.2%	20 5.3%	82 21.7%	235 62.2%	19 5.0%	9 2.4%	369	38,047.0	103.11	20.53	126.0	20.0	
通所介護	144 100.0%	-	-	6 4.2%	7 4.9%	23 16.0%	82 56.9%	13 9.0%	13 9.0%	131	13809	105.4	22.5	126.0	28.0	
訪問リハビリテーション	108 100.0%	-	3 2.8%	7 6.5%	9 8.3%	36 33.3%	50 46.3%	2 1.9%	1 0.9%	107	9776	91.4	24.5	126.0	18.0	

(7) 意欲 (Vitality Index)

意欲の第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは9~10点が最も多く82.8%、次いで7~8点が14.0%であった。通所介護では9~10点が最も多く74.3%、次いで7~8点が18.8%であった。訪問リハビリテーションでは9~10点が最も多く78.7%、次いで7~8点が12.0%であった。平均点は、通所リハビリテーションが最も高く9.4点、次いで通所介護が9.0点、訪問リハビリテーションが8.9点であった。

図表 86 意欲

	件数	0点	1 ~ 2点	3 ~ 4点	5 ~ 6点	7 ~ 8点	9 ~ 10点	無回答	平均の分母	実(単 数合 計:点)	平(単 均値: 点)	標(単 準偏 差:点)	最(単 大値: 点)	最(単 小値: 点)
通所リハビリテーション	378 100.0%	-	1 0.3%	-	9 2.4%	53 14.0%	313 82.8%	2 0.5%	376	3,529.0	9.39	1.05	10.0	2.0
通所介護	144 100.0%	-	-	1 0.7%	8 5.6%	27 18.8%	107 74.3%	1 0.7%	143	1280	8.95	1.37	10.0	3.0
訪問リハビリテーション	108 100.0%	-	3 2.8%	1 0.9%	6 5.6%	13 12.0%	85 78.7%	-	108	966	8.94	1.74	10.0	2.0

(8) 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)

情緒・気分・高齢者抑うつ尺度の第1回目の合計点は、通所リハビリテーションでは5~9点が最も多く39.7%、次いで0~4点が36.8%であった。通所介護では0~4点が最も多く59.7%、次いで10~15点が34.7%であった。訪問リハビリテーションでは0~4点が最も多く38.9%、次いで5~9点が36.1%であった。平均点は、通所リハビリテーションが最も高く6.2点、次いで訪問リハビリテーションが6.1点、通所介護が4.4点であった。

図表 87 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度

	件数	0 ~ 4点	5 ~ 9点	10 ~ 15点	無回答	平均の分母	実(単 数合 計:点)	平(単 均値: 点)	標(単 準偏 差:点)	最(単 大値: 点)	最(単 小値: 点)
通所リハビリテーション	378 100.0%	139 36.8%	150 39.7%	84 22.2%	5 1.3%	373	2,324.0	6.23	3.92	15.0	0.0
通所介護	144 100.0%	86 59.7%	6 4.2%	50 34.7%	2 1.4%	142	623	4.39	3.77	15.0	0.0
訪問リハビリテーション	108 100.0%	42 38.9%	39 36.1%	24 22.2%	3 2.8%	105	640	6.10	4.00	15.0	0.0

(9) 健康関連 QOL (SF-8)

通所リハビリテーション事業所の健康関連 QOL の第 1 回目の合計点は、PCS (身体的健康) は 35 点未満が最も多く 24.3%、次いで 40~45 点未満が 19.8%であった。MCS (精神的健康) は、50~55 点未満が最も多く 25.7%、次いで 55 点以上が 23.3%であった。平均点は、PCS (身体的健康) が 41.4 点、MCS (精神的健康) が 49.3 点であった。

図表 88 通所リハビリテーション 健康関連 QOL

	件数	35点未満	35点未満 40点	40点未満 45点	45点未満 50点	50点未満 55点	55点以上	無回答	平均の分母	実(単位:点) 数合計	平(単位:点) 均値	標(単位:点) 準偏差	最(単位:点) 大値	最(単位:点) 小値
PCS(身体的健康)	378 100.0%	92 24.3%	51 13.5%	75 19.8%	72 19.0%	60 15.9%	13 3.4%	15 4.0%	363	15,017.3	41.37	9.37	59.0	18.2
MCS(精神的健康)	378 100.0%	17 4.5%	25 6.6%	65 17.2%	71 18.8%	97 25.7%	88 23.3%	15 4.0%	363	17,899.6	49.31	8.01	67.9	16.4

通所介護事業所の健康関連 QOL の第 1 回目の合計点は、PCS (身体的健康) は 50~55 点未満が最も多く 31.9%、次いで 45~50 点未満が 23.6%であった。MCS (精神的健康) は、50~55 点未満が最も多く 41.0%、次いで 55 点以上が 19.4%であった。平均点は、PCS (身体的健康) が 46.1 点、MCS (精神的健康) が 50.2 点であった。

図表 89 通所介護 健康関連 QOL

	件数	35点未満	35点未満 40点	40点未満 45点	45点未満 50点	50点未満 55点	55点以上	無回答	平均の分母	実(単位:点) 数合計	平(単位:点) 均値	標(単位:点) 準偏差	最(単位:点) 大値	最(単位:点) 小値
PCS(身体的健康)	144 100.0%	17 11.8%	13 9.0%	22 15.3%	34 23.6%	46 31.9%	9 6.3%	3 2.1%	141	6497	46.08	7.66	59.4	25.2
MCS(精神的健康)	144 100.0%	4 2.8%	6 4.2%	20 13.9%	24 16.7%	59 41.0%	28 19.4%	3 2.1%	141	7074	50.17	6.77	60.3	19.3

訪問リハビリテーション事業所の健康関連 QOL の第 1 回目の合計点は、PCS（身体的健康）は 35 点未満が最も多く 50.9%、次いで 45～50 点未満が 12.0%であった。MCS（精神的健康）は、50～55 点未満が最も多く 23.1%、次いで 55 点以上が 20.4%であった。平均点は、PCS（身体的健康）が 36.4 点、MCS（精神的健康）が 47.5 点であった。

図表 90 訪問リハビリテーション 健康関連 QOL

	件数	35点未満	35満<40点	40満<45点	45満<50点	50満<55点	55点以上	無回答	平均の分母	実数合計(単位:点)	平均値(単位:点)	標準偏差(単位:点)	最大値(単位:点)	最小値(単位:点)
PCS(身体的健康)	108 100.0%	55 50.9%	9 8.3%	19 17.6%	13 12.0%	5 4.6%	3 2.8%	4 3.7%	104	3786	36.41	9.46	59.6	18.9
MCS(精神的健康)	108 100.0%	11 10.2%	11 10.2%	19 17.6%	16 14.8%	25 23.1%	22 20.4%	4 3.7%	104	4940	47.50	9.23	67.2	22.1

(10) 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）

認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）の第 1 回目の合計点は、通所リハビリテーションでは 25～30 点未満が最も多く 37.8%、次いで 20～25 点未満が 23.3%であった。通所介護では 5～10 点未満が最も多く 20.1%、次いで 20～25 点未満が 18.8%であった。訪問リハビリテーションでは 25～30 点未満が最も多く 38.9%、次いで 20～25 点未満が 18.5%であった。平均点は、通所リハビリテーションが最も高く 22.9 点、次いで訪問リハビリテーションが 22.5 点、通所介護が 16.7 点であった。

図表 91 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）

	件数	0点	5点未満	5<10点未満	10満<15点	15満<20点	20満<25点	25満<30点	30点	無回答	平均の分母	実数合計(単位:点)	平均値(単位:点)	標準偏差(単位:点)	最大値(単位:点)	最小値(単位:点)
□																
通所リハビリテーション	378 100.0%	-	3 0.8%	8 2.1%	27 7.1%	53 14.0%	88 23.3%	143 37.8%	33 8.7%	23 6.1%	355	8,118	22.87	6.08	30.0	4.0
通所介護	144 100.0%	-	8 5.6%	29 20.1%	21 14.6%	26 18.1%	27 18.8%	26 18.1%	5 3.5%	2 1.4%	142	2365	16.65	8.26	30.0	2.0
訪問リハビリテーション	108 100.0%	2 1.9%	1 0.9%	4 3.7%	8 7.4%	14 13.0%	20 18.5%	42 38.9%	13 12.0%	4 3.7%	104	2344	22.54	7.20	30.0	0.0

(11) Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

Zarit 介護負担尺度日本語版について、本項目の回答方法は、通所リハビリテーションでは「評価者の判断で回答」が最も多く 40.5%、次いで「介護者・家族自身が回答」が 24.3%であった。通所介護では「評価者の判断で回答」が最も多く 36.1%、次いで「評価者が、介護者・家族に聞き取って回答」が 27.1%であった。訪問リハビリテーションでは「介護者・家族自身が回答」が最も多く 48.1%、次いで「介護者・家族が不在のため回答できない」が 21.3%であった。

図表 92 本項目の回答方法

	件数	介護者・家族自身が回答	評価者が聞き取って回答・家族	評価者の判断で回答	介護者・家族が不在のため回答できない	無回答
通所リハビリテーション	378 100.0%	92 24.3%	51 13.5%	153 40.5%	48 12.7%	34 9.0%
通所介護	144 100.0%	6 4.2%	39 27.1%	52 36.1%	36 25.0%	11 7.6%
訪問リハビリテーション	108 100.0%	52 48.1%	18 16.7%	9 8.3%	23 21.3%	6 5.6%

Zarit 介護負担尺度日本語版の第 1 回目の合計点は、通所リハビリテーションでは 5 点未満が最も多く 28.7%、次いで 0 点が 25.3%であり、30～32 点も 1.0%いた。通所介護では 5 点未満と 0 点がそれぞれ 25.8%であった。訪問リハビリテーションでは 5 点未満が最も多く 38.0%、次いで 5～10 点未満が 29.1%であり、0 点は 7.6%であった。平均点は、通所介護が最も高く 6.8 点、次いで訪問リハビリテーションが 6.7 点、通所リハビリテーションが 6.0 点であった。

図表 93 Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

	件数	0 点	5 点未満	5 ～ 10 点未満	10 ～ 15 点	15 ～ 20 点	20 ～ 25 点	25 ～ 30 点	30 ～ 35 点	無回答	平均の分母	(単位：点) 実数合計	(単位：点) 平均値	(単位：点) 標準偏差	(単位：点) 最大値	(単位：点) 最小値
□																
通所リハビリテーション	296	75	85	65	34	14	12	5	3	3	293	1,754	5.99	6.91	32.0	0.0
	100.0%	25.3%	28.7%	22.0%	11.5%	4.7%	4.1%	1.7%	1.0%	1.0%						
通所介護	97	25	25	22	5	9	6	2	1	2	95	649	6.83	7.71	32.0	0.0
	100.0%	25.8%	25.8%	22.7%	5.2%	9.3%	6.2%	2.1%	1.0%	2.1%						
訪問リハビリテーション	79	6	30	23	9	7	3	1			79	530	6.71	5.82	25.0	0.0
	100.0%	7.6%	38.0%	29.1%	11.4%	8.9%	3.8%	1.3%	-	-						

5. 各アウトカム評価指標の変化（3回目-1回目）

(1) 通所リハビリテーション事業所

1) 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

通所リハビリテーション事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第3回合計点と第1回合計点の差は、全ての項目で0点（変化なし）が最も多く半分程度の割合であった。運動器の機能では、プラス1点が20.2%、マイナス1点が17.3%であった。うつでは、プラス1点が11.1%、マイナス1点が17.6%であり、一方で3点以上も5.9%、マイナス3点以上も4.9%であった。

図表 94 通所リハビリテーション 高齢者生活機能調査基本チェックリスト
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ点 ナ以上	マ2 イ点 ナス	マ1 イ点 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
日常生活関連動作	307 100.0%	6 2.0%	14 4.6%	42 13.7%	172 56.0%	44 14.3%	16 5.2%	6 2.0%	7 2.3%	300	7.0	0.02	1.08	4.0	-5.0
運動器の機能	307 100.0%	4 1.3%	12 3.9%	53 17.3%	153 49.8%	62 20.2%	14 4.6%	1 0.3%	8 2.6%	299	4.0	0.01	0.94	3.0	-3.0
低栄養	307 100.0%	-	1 0.3%	33 10.7%	153 49.8%	9 2.9%	-	-	111 36.2%	196	-26.0	-0.13	0.47	1.0	-2.0
口腔機能	307 100.0%	3 1.0%	13 4.2%	54 17.6%	190 61.9%	34 11.1%	6 2.0%	2 0.7%	5 1.6%	302	-37.0	-0.12	0.82	3.0	-3.0
閉じこもり	307 100.0%	-	4 1.3%	56 18.2%	190 61.9%	47 15.3%	4 1.3%	-	6 2.0%	301	-9.0	-0.03	0.67	2.0	-2.0
認知症	307 100.0%	-	8 2.6%	47 15.3%	183 59.6%	56 18.2%	6 2.0%	1 0.3%	6 2.0%	301	8.0	0.03	0.75	3.0	-2.0
うつ	307 100.0%	15 4.9%	22 7.2%	54 17.6%	139 45.3%	34 11.1%	21 6.8%	18 5.9%	4 1.3%	303	-16.0	-0.05	1.45	4.0	-4.0

2) Life-Space Assessment

通所リハビリテーション事業所の Life-Space Assessment の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、0 点（変化なし）が最も多く 19.9%、次いでマイナス 10 点未満、マイナス 10 点～30 点未満がそれぞれ 18.2%であった。一方でプラス 10 点未満は 15.0%、プラス 10～30 点未満は 12.1%であった。

図表 95 通所リハビリテーション Life-Space Assessment (第 3 回合計点-第 1 回合計点)

	件数	マ 3 イ 0 ナ ス 以 上	マ 1 イ 0 ナ ス 3 0 点 未 満	マ 1 イ 0 ナ ス 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ～ 3 0 点 未 満	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 : (単 位 : 点)	平 均 値 : (単 位 : 点)	標 準 偏 差 : (単 位 : 点)	最 大 値 : (単 位 : 点)	最 小 値 : (単 位 : 点)
合 計	307	10	56	56	61	46	37	6	35	272	-672.0	-2.47	15.57	66.0	-68.0
	100.0%	3.3%	18.2%	18.2%	19.9%	15.0%	12.1%	2.0%	11.4%						

3) 要支援者等の活動能力指標

通所リハビリテーション事業所の要支援者等の活動能力指標の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、0 点（変化なし）が最も多く 36.2%、次いでマイナス 3 点以上が 11.4%、マイナス 1 点が 10.7%であった。一方でプラス 1 点は 10.7%、2 点は 9.1%であった。

図表 96 通所リハビリテーション 要支援者等の活動能力指標
(第 3 回合計点-第 1 回合計点)

	件数	マ 3 イ 点 以 上	マ 2 イ 点 以 上	マ 1 イ 点 以 上	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 : (単 位 : 点)	平 均 値 : (単 位 : 点)	標 準 偏 差 : (単 位 : 点)	最 大 値 : (単 位 : 点)	最 小 値 : (単 位 : 点)
合 計	307	35	21	33	111	33	28	21	25	282	-38.0	-0.13	2.04	5.0	-8.0
	100.0%	11.4%	6.8%	10.7%	36.2%	10.7%	9.1%	6.8%	8.1%						

4) 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)

通所リハビリテーション事業所の手段的日常生活動作能力検査の第3回合計点と第1回合計点の差は、男性では0点（変化なし）が最も多く51.0%、次いでマイナス1点以上およびプラス1点がそれぞれ16.3%であった。女性では0点（変化なし）が最も多く44.2%、次いでプラス1点が20.8%であり、マイナス1点は9.7%であった。

図表 97 通所リハビリテーション 手段的日常生活動作能力検査
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ ナ ス 以上	マ2 イ ナ ス	マ1 イ ナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
男性	153	2	5	25	78	25	4	2	12	141	-3.0	-0.02	0.96	3.0	-4.0
女性	154	6	8	15	68	32	6	3	16	138	6.0	0.04	1.29	5.0	-4.0
	100.0%	1.3%	3.3%	16.3%	51.0%	16.3%	2.6%	1.3%	7.8%						
	100.0%	3.9%	5.2%	9.7%	44.2%	20.8%	3.9%	1.9%	10.4%						

5) 基本的日常生活能力 (Barthel index)

通所リハビリテーション事業所の基本的日常生活能力の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が最も多く54.7%、次いでプラス10点未満が10.4%、マイナス10点未満が9.8%であった。プラス10~30点未満およびマイナス10~30点未満もそれぞれ8.5%ずつであった。

図表 98 通所リハビリテーション 基本的日常生活能力 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ ナ ス 以上	マ1 0 点 未 満	マ1 0 点 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 点 未 満	3 0 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	307	-	26	30	168	32	26	2	23	284	40.0	0.14	7.23	35.0	-25.0
	100.0%		8.5%	9.8%	54.7%	10.4%	8.5%	0.7%	7.5%						

6) 機能的自立度評価表 (FIM)

通所リハビリテーション事業所の機能的自立度評価表の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く40.7%、次いでプラス10点未満が23.8%、マイナス10点未満が18.2%であった。

図表 99 通所リハビリテーション 機能的自立度評価表 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナス 以上	マ1 イ0 ナス 30 点未 満	マ1 イ0 ナス 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ~ 3 0 点 未 満	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	307 100.0%	-	9 2.9%	56 18.2%	125 40.7%	73 23.8%	24 7.8%	2 0.7%	18 5.9%	289	443.0	1.53	6.85	36.0	-21.0

7) 意欲 (Vitality Index)

通所リハビリテーション事業所の意欲の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が72.0%であった。次いでマイナス1点が9.1%、プラス1点が8.1%であった。

図表 100 通所リハビリテーション 意欲 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イナ ス上	マ2 イナ ス	マ1 イナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	307 100.0%	2 0.7%	6 2.0%	28 9.1%	221 72.0%	25 8.1%	14 4.6%	1 0.3%	10 3.3%	297	10.0	0.03	0.73	3.0	-3.0

8) 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)

通所リハビリテーション事業所の情緒・気分・高齢者抑うつ尺度の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が最も多く29.3%、次いでマイナス3点以上が16.9%、マイナス1点以上が12.7%であった。プラスは1～2点より3点以上の方が多く、プラス3点以上が12.7%であった。

図表 101 通所リハビリテーション 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イナ ス以上	マ2 イナ ス	マ1 イナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	307	52	29	39	90	27	20	39	11	296	-105.0	-0.35	3.00	10.0	-11.0
	100.0%	16.9%	9.4%	12.7%	29.3%	8.8%	6.5%	12.7%	3.6%						

9) 健康関連 QOL (SF-8)

通所リハビリテーション事業所の健康関連 QOL の第3回合計点と第1回合計点の差は、PCS（身体的健康）では、プラス5点未満が最も多く18.6%、次いでマイナス5点未満が18.2%であった。0点（変化なし）は15.6%であり、プラス10点以上も12.1%、マイナス5～10点未満も11.1%と同程度いた。MCS（精神的健康）では、マイナス5点未満が最も多く23.1%、次いでプラス5点未満が19.9%であった。0点（変化なし）は15.6%であり、プラス5～10点未満も10.1%、マイナス5～10点未満も10.1%と同程度であった。

図表 102 通所リハビリテーション 健康関連 QOL (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ1 イナ ス以上	マ5 イナ ス0 点未 満	マ5 イナ ス未 満	0 点	5 点未 満	5 ～ 10 点未 満	10 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
PCS(身体的健康)	307	17	34	56	48	57	33	37	25	282	309.6	1.10	7.48	20.2	-21.1
	100.0%	5.5%	11.1%	18.2%	15.6%	18.6%	10.7%	12.1%	8.1%						
MCS(精神的健康)	307	16	31	71	48	61	31	24	25	282	156.4	0.55	7.48	27.9	-20.2
	100.0%	5.2%	10.1%	23.1%	15.6%	19.9%	10.1%	7.8%	8.1%						

10) 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）

通所リハビリテーション事業所の認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が最も多く24.1%、次いでプラス3点未満が19.5%、マイナス3点未満が14.3%であった。プラス5点以上も10.4%であった。

図表 103 通所リハビリテーション 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）
（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ5 イ点 ナ上	マ3 イ ナ5 点未 満	マ3 イ点 ナ未 満	0 点	3 点未 満	3 ～ 5 点未 満	5 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 点）	平 均 値 （単 位 ： 点）	標 準 偏 差 （単 位 ： 点）	最 大 値 （単 位 ： 点）	最 小 値 （単 位 ： 点）
合計	307	16	22	44	74	60	30	32	29	278	143.0	0.51	3.64	14.0	-21.0
	100.0%	5.2%	7.2%	14.3%	24.1%	19.5%	9.8%	10.4%	9.4%						

11) Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

通所リハビリテーション事業所のZarit介護負担尺度日本語版の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が最も多く47.2%、次いでマイナス5点以上が14.5%、マイナス3点未満が14.0%であった。

図表 104 通所リハビリテーション Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版
（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ5 イ点 ナ上	マ3 イ ナ5 点未 満	マ3 イ点 ナ未 満	0 点	3 点未 満	3 ～ 5 点未 満	5 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 点）	平 均 値 （単 位 ： 点）	標 準 偏 差 （単 位 ： 点）	最 大 値 （単 位 ： 点）	最 小 値 （単 位 ： 点）
合計	193	28	11	27	91	17	7	10	2	191	-208.0	-1.09	5.06	14.0	-27.0
	100.0%	14.5%	5.7%	14.0%	47.2%	8.8%	3.6%	5.2%	1.0%						

(2) 通所介護事業所

1) 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

通所介護事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第3回合計点と第1回合計点の差は、全ての項目で0点（変化なし）が大半であった。運動器の機能では、プラス1点が13.2%、マイナス1点が10.5%であり、認知症ではプラス1点、マイナス1点がそれぞれ14.9%であった。

図表 105 通所介護 高齢者生活機能調査基本チェックリスト
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ点 ナ以上	マ2 イ点 ナス	マ1 イ点 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単位: 点)	平 均 値 (単位: 点)	標 準 偏 差 (単位: 点)	最 大 値 (単位: 点)	最 小 値 (単位: 点)
日常生活関連動作	114 100.0%	4 3.5%	3 2.6%	14 12.3%	76 66.7%	9 7.9%	6 5.3%	1 0.9%	1 0.9%	113	-9.0	-0.08	0.99	3.0	-4.0
運動器の機能	114 100.0%	3 2.6%	4 3.5%	12 10.5%	74 64.9%	15 13.2%	3 2.6%	-	3 2.6%	111	-10.0	-0.09	0.93	2.0	-4.0
低栄養	114 100.0%	-	-	4 3.5%	36 31.6%	3 2.6%	-	-	71 62.3%	43	-1.0	-0.02	0.41	1.0	-1.0
口腔機能	114 100.0%	1 0.9%	3 2.6%	9 7.9%	84 73.7%	14 12.3%	2 2.6%	-	-	114	2.0	0.02	0.70	2.0	-3.0
閉じこもり	114 100.0%	-	3 2.6%	10 8.8%	91 79.8%	9 7.9%	1 0.9%	-	-	114	-5.0	-0.04	0.55	2.0	-2.0
認知症	114 100.0%	-	2 1.8%	17 14.9%	75 65.8%	17 14.9%	1 0.9%	-	2 1.8%	112	-2.0	-0.02	0.64	2.0	-2.0
うつ	114 100.0%	1 0.9%	4 3.5%	20 17.5%	64 56.1%	14 12.3%	7 6.1%	1 0.9%	3 2.6%	111	0.0	0.00	0.93	3.0	-3.0

2) Life-Space Assessment

通所介護事業所の Life-Space Assessment の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、利用者 114 人のうち、0 点（変化なし）が最も多く 24.6%、次いでマイナス 10 点未満、マイナス 10～30 点未満がそれぞれ 17.5%であった。一方でプラス 10 点未満は 13.2%、プラス 10～30 点未満は 10.5%であった。

図表 106 通所介護 Life-Space Assessment（第 3 回合計点-第 1 回合計点）

	件数	マ 3 イ 0 ナ ス 以 上	マ 1 イ 0 ナ ス 3 0 点 未 満	マ 1 イ 0 ナ ス 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ～ 3 0 点 未 満	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （ 単 位 ： 点 ）	平 均 値 （ 単 位 ： 点 ）	標 準 偏 差 （ 単 位 ： 点 ）	最 大 値 （ 単 位 ： 点 ）	最 小 値 （ 単 位 ： 点 ）
合 計	114 100.0%	2 1.8%	20 17.5%	20 17.5%	28 24.6%	15 13.2%	12 10.5%	6 5.3%	11 9.6%	103	-40.0	-0.39	16.93	52.0	-56.0

3) 要支援者等の活動能力指標

通所介護事業所の要支援者等の活動能力指標の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、0 点（変化なし）が最も多く 38.6%、次いでプラス 1 点が 14.9%、マイナス 2 点が 10.5%であった。

図表 107 通所介護 要支援者等の活動能力指標（第 3 回合計点-第 1 回合計点）

	件数	マ 3 イ 点 以 上	マ 2 イ 点 ナ ス	マ 1 イ 点 ナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （ 単 位 ： 点 ）	平 均 値 （ 単 位 ： 点 ）	標 準 偏 差 （ 単 位 ： 点 ）	最 大 値 （ 単 位 ： 点 ）	最 小 値 （ 単 位 ： 点 ）
合 計	114 100.0%	11 9.6%	12 10.5%	11 9.6%	44 38.6%	17 14.9%	8 7.0%	10 8.8%	1 0.9%	113	-1.0	-0.01	2.35	9.0	-8.0

4) 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)

通所介護事業所の手段的日常生活動作能力検査の第3回合計点と第1回合計点の差は、男性では0点(変化なし)が最も多く50.0%であった。次いでマイナス1点が14.7%、プラス1点が11.8%であった。女性では0点(変化なし)が最も多く47.5%、次いでプラス1点が12.5%であった。一方でマイナス1点は8.8%、マイナス2点は6.3%であった。

図表 108 通所介護 手段的日常生活動作能力検査 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナ5 以上	マ2 イ1 ナ3 以上	マ1 イ0 ナ3 未満	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 : 点 (単 位 : 点)	平 均 値 : 点 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 : 点 (単 位 : 点)	最 大 値 : 点 (単 位 : 点)	最 小 値 : 点 (単 位 : 点)
男性	34 100.0%	1 2.9%	2 5.9%	5 14.7%	17 50.0%	4 11.8%	-	-	5 14.7%	29	-8.0	-0.28	0.92	1.0	-3.0
女性	80 100.0%	4 5.0%	5 6.3%	7 8.8%	38 47.5%	10 12.5%	5 6.3%	1 1.3%	10 12.5%	70	-7.0	-0.10	1.25	3.0	-4.0

5) 基本的日常生活能力 (Barthel index)

通所介護事業所の基本的日常生活能力の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く39.5%、次いでマイナス10~30点未満が10.5%、プラス10点未満が9.6%であった。プラス10~30点未満も6.1%であった。

図表 109 通所介護 基本的日常生活能力 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナ5 以上	マ1 イ0 ナ3 未満	マ1 イ0 ナ3 未満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 5 3 0 点 未 満	3 0 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 : 点 (単 位 : 点)	平 均 値 : 点 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 : 点 (単 位 : 点)	最 大 値 : 点 (単 位 : 点)	最 小 値 : 点 (単 位 : 点)
合計	114 100.0%	1 0.9%	12 10.5%	6 5.3%	45 39.5%	11 9.6%	7 6.1%	1 0.9%	31 27.2%	83	-65.0	-0.78	9.42	30.0	-35.0

6) 機能的自立度評価表 (FIM)

通所介護事業所の機能的自立度評価表の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く29.8%であったが、マイナス10点未満も20.2%、プラス10点未満も15.8%であった。

図表 110 通所介護 機能的自立度評価表 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナス 以上	マ1 イ0 ナス 30 点未 満	マ1 イ0 ナス 未 満	0 点	1 0 点未 満	1 0 5 30 点未 満	3 0 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	114 100.0%	2 1.8%	8 7.0%	23 20.2%	34 29.8%	18 15.8%	9 7.9%	1 0.9%	19 16.7%	95	-43.0	-0.45	10.09	32.0	-44.0

7) 意欲 (Vitality Index)

通所介護事業所の意欲の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く58.8%であった。次いでプラス1点が19.3%、マイナス1点が10.5%であった。

図表 111 通所介護 意欲 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ点 ナス 以上	マ2 イ点 ナス	マ1 イ点 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	114 100.0%	1 0.9%	1 0.9%	12 10.5%	67 58.8%	22 19.3%	8 7.0%	1 0.9%	2 1.8%	112	23.0	0.21	0.90	3.0	-4.0

8) 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)

通所介護事業所の情緒・気分・高齢者抑うつ尺度の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く38.6%、次いでプラス3点以上が15.8%であった。一方、マイナス3点以上は12.3%、マイナス1点は10.5%であった。

図表 112 通所介護 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ ナ 以 上	マ2 イ ナ ス	マ1 イ ナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	114	14	6	12	44	10	6	18	4	110	20.0	0.18	2.43	8.0	-6.0
	100.0%	12.3%	5.3%	10.5%	38.6%	8.8%	5.3%	15.8%	3.5%						

9) 健康関連 QOL (SF-8)

通所介護事業所の健康関連 QOL の第3回合計点と第1回合計点の差は、PCS (身体的健康) では、プラス5点未満が最も多く26.3%、次いで0点(変化なし)が16.7%であった。一方でマイナス5点未満は15.8%であり、プラス5~10点未満も12.3%いた。MCS (精神的健康) では、5点未満が最も多く25.4%、次いでマイナス5点未満が21.1%であった。プラス5~10点未満も14.0%であり、0点(変化なし)は16.7%であった。

図表 113 通所介護 健康関連 QOL (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ1 イ ナ 0 点 以 上	マ5 イ ナ 1 点 未 満	マ5 イ ナ 未 満	0 点	5 点 未 満	5 ~ 1 0 点 未 満	1 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
PCS(身体的健康)	114	10	10	18	19	30	14	8	5	109	33.4	0.31	7.26	19.2	-19.7
	100.0%	8.8%	8.8%	15.8%	16.7%	26.3%	12.3%	7.0%	4.4%						
MCS(精神的健康)	114	6	10	24	19	29	16	5	5	109	24.3	0.22	7.04	23.9	-30.8
	100.0%	5.3%	8.8%	21.1%	16.7%	25.4%	14.0%	4.4%	4.4%						

10) 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）

通所介護事業所の認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）の第3回合計点と第1回合計点の差は、プラス3点未満が最も多く16.7%、次いでマイナス3点未満が15.8%であった。プラス5点以上も11.4%であり、0点（変化なし）は13.2%であった。

図表 114 通所介護 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）
（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ5 イ点 ナ以 ス上	マ3 イ ナ5 点未 満	マ3 イ ナ未 満	0 点	3 点未 満	3 ～ 5 点未 満	5 点以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 点）	平 均 値 （単 位 ： 点）	標 準 偏 差 （単 位 ： 点）	最 大 値 （単 位 ： 点）	最 小 値 （単 位 ： 点）
合計	114	9	11	18	15	19	10	13	19	95	15.0	0.16	3.61	8.0	-11.0
	100.0%	7.9%	9.6%	15.8%	13.2%	16.7%	8.8%	11.4%	16.7%						

11) Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

通所介護事業所のZarit介護負担尺度日本語版の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が最も多く45.0%であった。マイナス3点未満が18.3%、マイナス3～5点未満が10.0%であり、一方でプラス5点以上も11.7%であった。

図表 115 通所介護 Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ5 イ点 ナ以 ス上	マ3 イ ナ5 点未 満	マ3 イ ナ未 満	0 点	3 点未 満	3 ～ 5 点未 満	5 点以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （単 位 ： 点）	平 均 値 （単 位 ： 点）	標 準 偏 差 （単 位 ： 点）	最 大 値 （単 位 ： 点）	最 小 値 （単 位 ： 点）
合計	60	1	6	11	27	2	4	7	2	58	26.0	0.45	3.49	13.0	-9.0
	100.0%	1.7%	10.0%	18.3%	45.0%	3.3%	6.7%	11.7%	3.3%						

(3) 訪問リハビリテーション事業所

1) 高齢者生活機能調査基本チェックリスト

訪問リハビリテーション事業所の高齢者生活機能調査基本チェックリストの第3回合計点と第1回合計点の差は、全ての項目で0点(変化なし)が最も多かった。運動器の機能では、マイナス1点が20.7%、プラス1点が19.5%であり、認知症では、マイナス1点が23.2%、プラス1点が11.0%であった。うつでは、マイナス1点が20.7%と0点(変化なし)と同程度であり、プラス2点が15.9%、マイナス2点が12.2%いた。マイナス3点以上も8.5%であった。

図表 116 訪問リハビリテーション 高齢者生活機能調査基本チェックリスト
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ点 ナ以上	マ2 イ点 ナス	マ1 イ点 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
日常生活関連動作	82 100.0%	-	2 2.4%	11 13.4%	55 67.1%	11 13.4%	1 1.2%	1 1.2%	1 1.2%	81	2.0	0.02	0.79	4.0	-2.0
運動器の機能	82 100.0%	-	1 1.2%	17 20.7%	44 53.7%	16 19.5%	4 4.9%	-	-	82	5.0	0.06	0.81	2.0	-2.0
低栄養	82 100.0%	-	-	9 11.0%	43 52.4%	13 15.9%	-	-	17 20.7%	65	4.0	0.06	0.58	1.0	-1.0
口腔機能	82 100.0%	-	2 2.4%	13 15.9%	52 63.4%	13 15.9%	2 2.4%	-	-	82	0.0	0.00	0.72	2.0	-2.0
閉じこもり	82 100.0%	-	2 2.4%	16 19.5%	55 67.1%	7 8.5%	1 1.2%	-	1 1.2%	81	-11.0	-0.14	0.65	2.0	-2.0
認知症	82 100.0%	-	2 2.4%	19 23.2%	46 56.1%	9 11.0%	4 4.9%	-	2 2.4%	80	-6.0	-0.08	0.81	2.0	-2.0
うつ	82 100.0%	7 8.5%	10 12.2%	17 20.7%	21 25.6%	8 9.8%	13 15.9%	3 3.7%	3 3.7%	79	-14.0	-0.18	1.65	4.0	-3.0

2) Life-Space Assessment

訪問リハビリテーション事業所の Life-Space Assessment の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、マイナス 10 点未満が最も多く 28.0%であり、次いでプラス 10 点未満が 17.1%であった。マイナス 10～30 点未満は 13.4%、プラス 10～30 点未満は 11.0%であり、0 点（変化なし）は 19.5%であった。

図表 117 訪問リハビリテーション Life-Space Assessment
(第 3 回合計点-第 1 回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナス 以上	マ1 イ0 ナス 30 点未 満	マ1 イ0 ナス 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ～ 3 0 点 未 満	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合 計	82	1	11	23	16	14	9	-	8	74	-138.5	-1.87	10.13	20.0	-39.5
	100.0%	1.2%	13.4%	28.0%	19.5%	17.1%	11.0%		9.8%						

3) 要支援者等の活動能力指標

訪問リハビリテーション事業所の要支援者等の活動能力指標の第 3 回合計点と第 1 回合計点の差は、0 点（変化なし）が最も多く 37.8%、次いでプラス 1 点が 14.6%、プラス 2 点が 13.4%であった。一方、マイナス 1 点も 13.4%であった。

図表 118 訪問リハビリテーション 要支援者等の活動能力指標
(第 3 回合計点-第 1 回合計点)

	件数	マ3 イ点 ナス 以上	マ2 イ点 ナス	マ1 イ点 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合 計	82	5	3	11	31	12	11	4	5	77	13.0	0.17	1.53	4.0	-4.0
	100.0%	6.1%	3.7%	13.4%	37.8%	14.6%	13.4%	4.9%	6.1%						

4) 手段的日常生活動作能力検査 (Lawton IADL)

訪問リハビリテーション事業所の手段的日常生活動作能力検査の第3回合計点と第1回合計点の差は、男性では0点(変化なし)が56.0%と大半であった。次いでプラス1点およびマイナス1点が16.0%であった。女性では、同様に0点(変化なし)が54.4%と大半であった。次いでプラス1点が17.5%、マイナス1点が12.3%であった。

図表 119 訪問リハビリテーション 手段的日常生活動作能力検査
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ ナ ス 以上	マ2 イ ナ ス	マ1 イ ナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
男性	25 100.0%	1 4.0%	-	4 16.0%	14 56.0%	4 16.0%	-	-	2 8.0%	23	-3.0	-0.13	0.87	1.0	-3.0
女性	57 100.0%	-	4 7.0%	7 12.3%	31 54.4%	10 17.5%	-	-	5 8.8%	52	-5.0	-0.10	0.80	1.0	-2.0

5) 基本的日常生活能力 (Barthel index)

訪問リハビリテーション事業所の基本的日常生活能力の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く47.6%であった。次いでマイナス10~30点未満が15.9%、プラス10点未満が14.6%、プラス10~30点未満が11.0%であった。

図表 120 訪問リハビリテーション 基本的日常生活能力 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ ナ ス 以上	マ1 イ ナ ス 5 点 未 満	マ1 イ ナ ス 3 0 点 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ~ 3 0 点 未 満	3 0 点 以上	無 回 答	平均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	82 100.0%	1 1.2%	13 15.9%	7 8.5%	39 47.6%	12 14.6%	9 11.0%	-	1 1.2%	81	-45.0	-0.56	9.29	20.0	-35.0

6) 機能的自立度評価表 (FIM)

訪問リハビリテーション事業所の機能的自立度評価表の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が最も多く30.5%であったが、マイナス10点未満も29.3%、プラス10点未満も25.6%であった。

図表 121 訪問リハビリテーション 機能的自立度評価表 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナス 以上	マ1 イ0 ナス 30 点未 満	マ1 イ0 ナス 未 満	0 点	1 0 点 未 満	1 0 ～ 3 0 点 未 満	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合 計	82 100.0%	-	2 2.4%	24 29.3%	25 30.5%	21 25.6%	6 7.3%	-	4 4.9%	78	35.0	0.45	6.16	20.0	-23.0

7) 意欲 (Vitality Index)

訪問リハビリテーション事業所の意欲の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が68.3%と大半であった。次いでプラス1点が12.2%、マイナス1点が9.8%であった。

図表 122 訪問リハビリテーション 意欲 (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イ0 ナス 以上	マ2 イ0 ナス	マ1 イ0 ナス	0 点	1 点	2 点	3 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合 計	82 100.0%	1 1.2%	2 2.4%	8 9.8%	56 68.3%	10 12.2%	5 6.1%	-	-	82	5.0	0.06	0.82	2.0	-3.0

8) 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度 (GDS-15)

訪問リハビリテーション事業所の情緒・気分・高齢者抑うつ尺度の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点(変化なし)が25.6%と最も多く、次いでマイナス3点以上が18.3%、マイナス1点が15.9%であった。一方でプラス3点以上は13.4%、プラス1点は11.0%であった。

図表 123 訪問リハビリテーション 情緒・気分・高齢者抑うつ尺度
(第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ3 イナ ス以上	マ2 イナ ス	マ1 イナ ス	0 点	1 点	2 点	3 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
合計	82	15	3	13	21	9	6	11	4	78	-21.0	-0.27	2.73	5.0	-10.0
	100.0%	18.3%	3.7%	15.9%	25.6%	11.0%	7.3%	13.4%	4.9%						

9) 健康関連 QOL (SF-8)

訪問リハビリテーション事業所の健康関連 QOL の第3回合計点と第1回合計点の差は、PCS(身体的健康)では、マイナス5点未満が最も多く23.2%、次いでマイナス10点以上が15.9%であり、マイナス5~10点未満も12.2%であった。一方でプラス5~10点未満は14.6%、プラス5点未満は13.4%と同程度であった。0点(変化なし)は1.2%であった。MCS(精神的健康)では、プラス5点未満が最も多く34.1%、次いでマイナス5点未満が15.9%であった。マイナス5~10点未満、プラス5~10点未満、プラス10点以上もそれぞれ11.0%ずついた。0点(変化なし)は1.2%であった。

図表 124 訪問リハビリテーション 健康関連 QOL (第3回合計点-第1回合計点)

	件数	マ1 イナ ス0 点 以上	マ5 イナ ス0 点 未 満	マ5 イナ ス未 満	0 点	5 点 未 満	5 ~ 1 0 点 未 満	1 0 点 以上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 (単 位 : 点)	平 均 値 (単 位 : 点)	標 準 偏 差 (単 位 : 点)	最 大 値 (単 位 : 点)	最 小 値 (単 位 : 点)
PCS(身体的健康)	82	13	10	19	1	11	12	9	7	75	-55.3	-0.74	9.30	21.1	-23.3
	100.0%	15.9%	12.2%	23.2%	1.2%	13.4%	14.6%	11.0%	8.5%						
MCS(精神的健康)	82	6	9	13	1	28	9	9	7	75	99.1	1.32	7.93	25.1	-16.8
	100.0%	7.3%	11.0%	15.9%	1.2%	34.1%	11.0%	11.0%	8.5%						

10) 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）

訪問リハビリテーション事業所の認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）の第3回合計点と第1回合計点の差は、プラス3点未満が32.9%と最も多く、次いで0点（変化なし）が18.3%であった。一方でマイナス3点未満も17.1%であった。

図表 125 訪問リハビリテーション 認知機能（長谷川式簡易知能評価スケール）
（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ イ 5 点 以 上	マ イ 3 点 未 満	マ イ 3 点 未 満	0 点	3 点 未 満	3 点 未 満	5 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （ 単 位 ： 点 ）	平 均 値 （ 単 位 ： 点 ）	標 準 偏 差 （ 単 位 ： 点 ）	最 大 値 （ 単 位 ： 点 ）	最 小 値 （ 単 位 ： 点 ）
合計	82	4	7	14	15	27	7	4	4	78	7.0	0.09	3.19	10.0	-13.0
	100.0%	4.9%	8.5%	17.1%	18.3%	32.9%	8.5%	4.9%	4.9%						

11) Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版

訪問リハビリテーション事業所のZarit介護負担尺度日本語版の第3回合計点と第1回合計点の差は、0点（変化なし）が28.8%と最も多く、次いでプラス3点未満が18.6%、マイナス3点未満が15.3%であった。またプラス5点以上が10.2%であった。

図表 126 訪問リハビリテーション Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版
（第3回合計点-第1回合計点）

	件数	マ イ 5 点 以 上	マ イ 3 点 未 満	マ イ 3 点 未 満	0 点	3 点 未 満	3 点 未 満	5 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	実 数 合 計 （ 単 位 ： 点 ）	平 均 値 （ 単 位 ： 点 ）	標 準 偏 差 （ 単 位 ： 点 ）	最 大 値 （ 単 位 ： 点 ）	最 小 値 （ 単 位 ： 点 ）
合計	59	5	7	9	17	11	4	6	-	59	-7.0	-0.12	4.07	9.0	-13.0
	100.0%	8.5%	11.9%	15.3%	28.8%	18.6%	6.8%	10.2%							

6. 各アウトカム評価指標の変化の傾向

(1) サービス別 各評価指標平均値の変化（1回目、2回目、3回目）

サービス別に各指標の1回目、2回目、3回目の平均値の推移を示したのが以下の図表である。3サービスとも、各指標について、1回目～3回目で比較的变化が少なく、安定的な推移となっている傾向が見られる。

図表 127 サービス別 各評価指標平均値（1回目、2回目、3回目）

(*) は点数が低いほど良い項目

【通所リハビリテーション】

	1回目		2回目		3回目	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト(*)	378	11.8	346	11.7	307	11.3
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	378	32.7	346	32.0	307	31.8
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	378	5.8	346	5.8	307	5.7
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	378	1.1	346	1.0	307	1.1
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	378	1.6	346	1.7	307	1.7
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	378	75.4	346	75.3	307	76.5
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	378	100.7	346	99.3	307	101.3
問Ⅱ【7】意欲	378	9.3	346	9.3	307	9.2
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度(*)	378	6.1	346	5.7	307	5.7
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	378	39.7	346	40.1	307	40.1
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	378	47.4	346	49.2	307	46.8
問Ⅱ【10】認知機能	378	21.5	346	21.4	307	22.1
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度(*)	378	5.1	346	4.0	307	4.1

【通所介護】

	1回目		2回目		3回目	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト(*)	144	11.1	134	10.8	113	10.6
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	143	40.7	133	41.9	113	43.0
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	143	6.2	133	6.0	113	6.3
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	143	0.6	133	0.5	113	0.6
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	143	2.4	133	2.3	113	2.2
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	144	64.4	134	66.9	114	66.4
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	144	95.9	134	103.1	114	97.8
問Ⅱ【7】意欲	144	8.9	134	9.1	114	9.0
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度(*)	144	4.3	134	3.8	114	4.3
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	144	45.1	134	44.5	114	45.5
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	144	49.1	134	48.9	114	49.8
問Ⅱ【10】認知機能	144	16.4	134	16.2	114	14.8
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度(*)	144	5.0	134	4.8	114	5.3

【訪問リハビリテーション】

	1回目		2回目		3回目	
	n	平均値	n	平均値	n	平均値
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト ^(*)	108	14.3	104	14.0	81	14.2
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	107	24.4	103	23.0	81	21.1
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	107	4.0	103	4.2	81	4.1
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	107	0.5	103	0.5	81	0.4
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	107	1.5	103	1.5	81	1.6
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	108	65.3	104	65.4	82	62.4
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	108	90.5	104	90.1	82	87.3
問Ⅱ【7】意欲	108	8.9	104	8.9	82	9.0
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度 ^(*)	108	5.9	104	5.7	82	5.7
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	108	35.1	104	34.4	82	33.6
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	108	45.7	104	44.6	82	44.7
問Ⅱ【10】認知機能	108	21.7	104	20.6	82	22.0
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度 ^(*)	108	5.4	104	5.7	82	5.1

(注)3. 要支援者等の活動能力指標の結果は、老研式活動能力指標のスコアを掲載している。

(2) サービス別 各評価指標における3回目-1回目の変化(平均値)

サービス別に、3回目と1回目の値の変化を示したものが以下の図表である。

なお、「変化の割合」とは、項目の最大得点に占める平均変化値の割合であり、項目の最大得点を100%としたとき、変化値がどの程度の割合を占めるかを示している。

項目別には、【1】高齢者生活機能基本チェックリストの項目について、最大得点が2点~5点という点数幅であるため、割合が高くなっているが、各項目において変化の割合は±数%未満とかなり小さい振れ幅であることがわかる。

○通所リハビリテーション

図表 128 通所リハビリテーション 各評価指標の変化値における平均値(3回目-1回目)

	件数	(無回答を除いた件数)	(実数合計)	(平均値)	(標準偏差)	(最大値)	(最小値)	(項目最大得点)	(変化の割合)
問Ⅱ【1】 高齢者生活機能調査基本チェックリスト(※)									
日常生活関連動作	307	300	7.0	0.0	1.1	4.0	-5.0	5.0	0.47%
運動器の機能	307	299	4.0	0.0	0.9	3.0	-3.0	5.0	0.27%
低栄養	307	196	-26.0	-0.1	0.5	1.0	-2.0	2.0	-6.63%
口腔機能	307	302	-37.0	-0.1	0.8	3.0	-3.0	3.0	-4.08%
閉じこもり	307	301	-9.0	0.0	0.7	2.0	-2.0	2.0	-1.50%
認知症	307	301	8.0	0.0	0.7	3.0	-2.0	3.0	0.89%
うつ	307	303	-16.0	-0.1	1.4	4.0	-4.0	5.0	-1.06%
問Ⅱ【2】 Life-Space Assessment	307	272	-672.0	-2.5	15.6	66.0	-68.0	120.0	-2.06%
問Ⅱ【3】 要支援者等の活動能力指標	307	282	-38.0	-0.1	2.0	5.0	-8.0	13.0	-1.04%
問Ⅱ【4】 手段的日常生活動作能力検査									
男性	153	141	-3.0	0.0	1.0	3.0	-4.0	5.0	-0.43%
女性	154	138	6.0	0.0	1.3	5.0	-4.0	8.0	0.54%
問Ⅱ【5】 基本的日常生活能力	307	284	40.0	0.1	7.2	35.0	-25.0	100.0	0.14%
問Ⅱ【6】 機能的自立度評価表	307	289	443.0	1.5	6.9	36.0	-21.0	126.0	1.22%
問Ⅱ【7】 意欲	307	297	10.0	0.0	0.7	3.0	-3.0	10.0	0.34%
問Ⅱ【8】 高齢者抑うつ尺度(※)	307	296	-105.0	-0.4	3.0	10.0	-11.0	15.0	-2.36%
問Ⅱ【9】 健康関連QOL									
PCS(身体的健康)	307	282	309.6	1.1	7.5	20.2	-21.1	56.3	1.95%
MCS(精神的健康)	307	282	156.4	0.6	7.5	27.9	-20.2	54.9	1.01%
問Ⅱ【10】 認知機能	307	278	143.0	0.5	3.6	14.0	-21.0	30.0	1.71%
問Ⅱ【11】 Zarit介護負担尺度(※)	193	191	-208.0	-1.1	5.1	14.0	-27.0	32.0	-3.40%

(※)問Ⅱ【1】、問Ⅱ【8】、問Ⅱ【11】は点数が低いほど良い項目
網掛けは、平均として維持または改善している項目

○通所介護

図表 129 通所介護 各評価指標の変化値における平均値（3回目-1回目）

		件数	(無回答を除いた件数) 平均の分母	(単位：点) 実数合計	(単位：点) 平均値	(単位：点) 標準偏差	(単位：点) 最大値	(単位：点) 最小値	(単位：点) 項目最大得点	(単位：%) 変化の割合
問Ⅱ【1】 高齢者生活機能調査基本チェックリスト(※)	日常生活関連動作	114	113	-9.0	-0.1	1.0	3.0	-4.0	5.0	-1.59%
	運動器の機能	114	111	-10.0	-0.1	0.9	2.0	-4.0	5.0	-1.80%
	低栄養	114	43	-1.0	0.0	0.4	1.0	-1.0	2.0	-1.16%
	口腔機能	114	114	2.0	0.0	0.7	2.0	-3.0	3.0	0.58%
	閉じこもり	114	114	-5.0	0.0	0.6	2.0	-2.0	2.0	-2.19%
	認知症	114	112	-2.0	0.0	0.6	2.0	-2.0	3.0	-0.60%
	うつ	114	111	0.0	0.0	0.9	3.0	-3.0	5.0	0.00%
問Ⅱ【2】 Life-Space Assessment		114	103	-40.0	-0.4	16.9	52.0	-56.0	120.0	-0.32%
問Ⅱ【3】 要支援者等の活動能力指標		114	113	-1.0	0.0	2.3	9.0	-8.0	13.0	-0.07%
問Ⅱ【4】 手段的日常生活動作能力検査	男性	34	29	-8.0	-0.3	0.9	1.0	-3.0	5.0	-5.52%
	女性	80	70	-7.0	-0.1	1.3	3.0	-4.0	8.0	-1.25%
問Ⅱ【5】 基本的日常生活能力		114	83	-65.0	-0.8	9.4	30.0	-35.0	100.0	-0.78%
問Ⅱ【6】 機能的自立度評価表		114	95	-43.0	-0.5	10.1	32.0	-44.0	126.0	-0.36%
問Ⅱ【7】 意欲		114	112	23.0	0.2	0.9	3.0	-4.0	10.0	2.05%
問Ⅱ【8】 高齢者抑うつ尺度(※)		114	110	20.0	0.2	2.4	8.0	-6.0	15.0	1.21%
問Ⅱ【9】 健康関連QOL	PCS(身体的健康)	114	109	33.4	0.3	7.3	19.2	-19.7	56.3	0.54%
	MCS(精神的健康)	114	109	24.3	0.2	7.0	23.9	-30.8	54.9	0.41%
問Ⅱ【10】 認知機能		114	95	15.0	0.2	3.6	8.0	-11.0	30.0	0.53%
問Ⅱ【11】 Zarit介護負担尺度(※)		60	58	26.0	0.4	3.5	13.0	-9.0	32.0	1.40%

(※)問Ⅱ【1】、問Ⅱ【8】、問Ⅱ【11】は点数が低いほど良い項目
網掛けは、平均として維持または改善している項目

○訪問リハビリテーション

図表 130 訪問リハビリテーション 各評価指標の変化値における平均値 (3回目-1回目)

		件数	(無回答を除いた件数) 平均の分母	(単位:点) 実数合計	(単位:点) 平均値	(単位:点) 標準偏差	(単位:点) 最大値	(単位:点) 最小値	(単位:点) 項目最大得点	(単位:割合) 変化の割合
問Ⅱ【1】 高齢者生活機能調査基本チェックリスト(※)	日常生活関連動作	82	81	2.0	0.0	0.8	4.0	-2.0	5.0	0.49%
	運動器の機能	82	82	5.0	0.1	0.8	2.0	-2.0	5.0	1.22%
	低栄養	82	65	4.0	0.1	0.6	1.0	-1.0	2.0	3.08%
	口腔機能	82	82	0.0	0.0	0.7	2.0	-2.0	3.0	0.00%
	閉じこもり	82	81	-11.0	-0.1	0.6	2.0	-2.0	2.0	-6.79%
	認知症	82	80	-6.0	-0.1	0.8	2.0	-2.0	3.0	-2.50%
	うつ	82	79	-14.0	-0.2	1.6	4.0	-3.0	5.0	-3.54%
問Ⅱ【2】 Life-Space Assessment		82	74	-138.5	-1.9	10.1	20.0	-39.5	120.0	-1.56%
問Ⅱ【3】 要支援者等の活動能力指標		82	77	13.0	0.2	1.5	4.0	-4.0	13.0	1.30%
問Ⅱ【4】 手段的日常生活動作能力検査	男性	25	23	-3.0	-0.1	0.9	1.0	-3.0	5.0	-2.61%
	女性	57	52	-5.0	-0.1	0.8	1.0	-2.0	8.0	-1.20%
問Ⅱ【5】 基本的日常生活能力		82	81	-45.0	-0.6	9.3	20.0	-35.0	100.0	-0.56%
問Ⅱ【6】 機能的自立度評価表		82	78	35.0	0.4	6.2	20.0	-23.0	126.0	0.36%
問Ⅱ【7】 意欲		82	82	5.0	0.1	0.8	2.0	-3.0	10.0	0.61%
問Ⅱ【8】 高齢者抑うつ尺度(※)		82	78	-21.0	-0.3	2.7	5.0	-10.0	15.0	-1.79%
問Ⅱ【9】 健康関連QOL	PCS(身体的健康)	82	75	-55.3	-0.7	9.3	21.1	-23.3	56.3	-1.31%
	MCS(精神的健康)	82	75	99.1	1.3	7.9	25.1	-16.8	54.9	2.41%
問Ⅱ【10】 認知機能		82	78	7.0	0.1	3.2	10.0	-13.0	30.0	0.30%
問Ⅱ【11】 Zarit介護負担尺度(※)		59	59	-7.0	-0.1	4.1	9.0	-13.0	32.0	-0.37%

(※)問Ⅱ【1】、問Ⅱ【8】、問Ⅱ【11】は点数が低いほど良い項目
網掛けは、平均として維持または改善している項目

(3) サービス別 各評価指標における1回目-3回目の変化(検定)

以下は、各指標における各人のデータの1回目と3回目の値の変化が有意な変化であるかどうかを検定したものである。有意確率<5%の項目も一部見られたが、各サービス共通して有意な変化として検出できた指標はなく、大半の項目が有意差があるとはいえない結果となっていた。

図表 131 各評価指標の第1回目と3回目のWilcoxonの符号付き順位検定
○通所リハビリテーション

合計点<第1回>-<第3回>	Z	漸近有意確率 (両側)
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト	-2.625 ^a	.009
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	-2.013 ^a	.044
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	-1.573 ^a	.116
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	-.906 ^a	.365
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	-.150 ^a	.881
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	-.542 ^b	.588
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	-2.716 ^b	.007
問Ⅱ【7】意欲	-.291 ^a	.771
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-2.331 ^a	.020
問Ⅱ【9】健康関連QOL:PCS(身体的健康)	-1.110 ^b	.267
問Ⅱ【9】健康関連QOL:MCS(精神的健康)	-.171 ^a	.864
問Ⅱ【10】認知機能	-1.918 ^b	.055
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度	-3.380 ^a	.001

a) 正の順位に基づく

b) 負の順位に基づく

図表 132 各評価指標の第1回目と3回目のWilcoxonの符号付き順位検定

○通所介護

合計点<第1回>-<第3回>	Z	漸近有意確率(両側)
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト	-1.373 ^a	.170
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	-.327 ^a	.744
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	-.644 ^a	.520
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	-2.334 ^a	.020
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	-1.193 ^a	.233
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	-.454 ^a	.650
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	-.252 ^a	.801
問Ⅱ【7】意欲	-2.478 ^b	.013
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-.181 ^b	.856
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	-.869 ^b	.385
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	-.696 ^b	.487
問Ⅱ【10】認知機能	-1.881 ^a	.060
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度	-.174 ^b	.862

a) 正の順位に基づく b) 負の順位に基づく

図表 133 各評価指標の第1回目と3回目のWilcoxonの符号付き順位検定

○訪問リハビリテーション

合計点<第1回>-<第3回>	Z	漸近有意確率(両側)
問Ⅱ【1】高齢者生活機能調査基本チェックリスト	-.295 ^a	.768
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	-1.629 ^a	.103
問Ⅱ【3】-Ⅰ. 要支援者等の活動能力指標	-1.965 ^b	.049
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-1. 手段的日常生活動作能力検査:男性	-1.231 ^a	.218
問Ⅱ【4】(Ⅰ)-2. 手段的日常生活動作能力検査:女性	-.227 ^b	.820
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	-.912 ^a	.362
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	-.225 ^a	.822
問Ⅱ【7】意欲	-.782 ^b	.434
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-.689 ^a	.491
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	-1.257 ^a	.209
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	-1.216 ^b	.224
問Ⅱ【10】認知機能	-.673 ^b	.501
問Ⅱ【11】Zarit 介護負担尺度	-.519 ^a	.604

a) 正の順位に基づく b) 負の順位に基づく

1) 各アウトカム評価指標の第1回-第3回の比較について（詳細は前掲の集計結果を参照）

- ・ 第1回と第3回とを比較すると、各指標において利用者全体の平均値の変化は少なく、ばらつきも大きい。
- ・ サービス別にみると、通所介護においては変化が少なく、通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおいては多少の改善等がみられる指標もある。
- ・ 利用者属性別には、特定の属性（脳血管疾患の利用者、急性期病院からの退院者など）や特定の指標において改善等の傾向がみられる。（下表参考）
- ・ 通所リハビリテーションの利用者では、サービス利用開始からの期間が短い利用者において基本的日常生活能力や機能的自立度が改善している傾向がみられる。
- ・ 訪問リハビリテーションの利用者では、脳血管疾患や心疾患を有する利用者及び急性期病院からの退院者について、機能的自立度が改善している傾向にある。

図表 134 通所リハビリテーション

問Ⅱ【5】基本的日常生活能力【第3回合計点-第1回合計点】サービス利用開始年月別

	件数	マ 以 上 3 0 点	マ 3 イ 0 ナ ス 未 1 満 0 点	マ 未 イ 満 ナ ス 1 0 点	0 点	1 0 点 未 満	1 未 満 3 0 点	3 0 点 以 上	無 回 答	平均 の 分 母	（単 位 ： 点 ） 実 数 合 計	（単 位 ： 点 ） 平 均	（単 位 ： 点 ） 標 準 偏 差	（単 位 ： 点 ） 最 大	（単 位 ： 点 ） 最 小
□ 合 計	307	-	26 8.5%	30 9.8%	168 54.7%	32 10.4%	26 8.5%	2 0.7%	23 7.5%	284	40.0	0.14	7.23	35.0	-25.0
2012年9月～	66	-	5 7.6%	6 9.1%	33 50.0%	7 10.6%	8 12.1%	1 1.5%	6 9.1%	60	55.0	0.92	8.05	35.0	-25.0
2012年4月～2012年8月	75	-	5 6.7%	10 13.3%	30 40.0%	14 18.7%	11 14.7%	-	5 6.7%	70	110.0	1.57	7.10	25.0	-15.0
2011年10月～2012年3月	32	-	6 18.8%	1 3.1%	18 56.3%	5 15.6%	-	-	2 6.3%	30	-50.0	-1.67	5.62	5.0	-15.0
2009年10月～2011年9月	55	-	6 10.9%	7 12.7%	30 54.5%	3 5.5%	3 5.5%	1 1.8%	5 9.1%	50	-40.0	-0.80	9.06	35.0	-25.0
～2009年9月	72	-	4 5.6%	5 6.9%	52 72.2%	3 4.2%	4 5.6%	-	4 5.6%	68	-30.0	-0.44	5.71	15.0	-25.0
無回答	7	-	-	1 14.3%	5 71.4%	-	-	-	1 14.3%	6	-5.0	-0.83	2.04	0.0	-5.0

図表 135 通所リハビリテーション

問Ⅱ【6】機能的自立度評価表：【第3回合計点-第1回合計点】サービス利用前の所在地別

□	件数	マイ ナス 3 0 点	マ イ ナ ス 1 満 0 点	マ イ ナ ス 1 0 点	0 点	1 0 点 未 満	1 満 0 点	3 0 点 未 満	無 回 答	平均 の 分 母	(単 位 ： 点) 実 数 合 計	(単 位 ： 点) 平 均	(単 位 ： 点) 標 準 偏 差	(単 位 ： 点) 最 大	(単 位 ： 点) 最 小
合計	307	-	2.9%	18.2%	40.7%	23.8%	7.8%	0.7%	18	289	443.0	1.53	6.85	36.0	-21.0
2012年9月～	66	-	1.5%	21.2%	40.9%	25.8%	7.6%	1.5%	1	65	103.0	1.58	6.58	34.0	-11.0
2012年4月～2012年8月	75	-	4.0%	17.3%	33.3%	32.0%	6.7%	-	5	70	95.0	1.36	6.67	23.0	-18.0
2011年10月～2012年3月	32	-	6.3%	15.6%	31.3%	34.4%	9.4%	-	1	31	39.0	1.26	7.16	26.0	-15.0
2009年10月～2011年9月	55	-	3.6%	27.3%	38.2%	16.4%	7.3%	-	4	51	45.0	0.88	7.57	25.0	-21.0
～2009年9月	72	-	1.4%	11.1%	54.2%	15.3%	6.9%	1.4%	7	65	134.0	2.06	6.64	36.0	-13.0
無回答	7	-	-	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%	-	-	7	27.0	3.86	7.82	19.0	-3.0

図表 136 通所リハビリテーション

問Ⅱ【6】機能的自立度評価表：【第3回合計点-第1回合計点】現在、有している傷病別

□	件数	マイ ナス 3 0 点	マ イ ナ ス 1 満 0 点	マ イ ナ ス 1 0 点	0 点	1 0 点 未 満	1 満 0 点	3 0 点 未 満	無 回 答	平均 の 分 母	(単 位 ： 点) 実 数 合 計	(単 位 ： 点) 平 均	(単 位 ： 点) 標 準 偏 差	(単 位 ： 点) 最 大	(単 位 ： 点) 最 小
合計	307	-	2.9%	18.2%	40.7%	23.8%	7.8%	0.7%	18	289	443.0	1.53	6.85	36.0	-21.0
脳血管疾患	172	-	1.7%	19.8%	40.1%	23.3%	8.1%	1.2%	2	162	305.0	1.88	7.34	36.0	-18.0
心疾患	42	-	2.4%	11.9%	45.2%	23.8%	7.1%	2.4%	3	39	105.0	2.69	8.09	34.0	-18.0
糖尿病	39	-	5.1%	15.4%	43.6%	23.1%	5.1%	-	3	36	27.0	0.75	6.50	19.0	-18.0
骨折	50	-	4.0%	28.0%	36.0%	26.0%	4.0%	-	1	49	14.0	0.29	5.02	17.0	-15.0
認知症	23	-	4.3%	17.4%	52.2%	17.4%	-	4.3%	1	22	11.0	0.50	9.15	34.0	-21.0
上記いずれも有しない、その他	142	-	3.5%	14.1%	45.1%	25.4%	4.9%	0.7%	9	133	153.0	1.15	6.42	34.0	-21.0

図表 137 訪問リハビリテーション

問Ⅱ【6】機能的自立度評価表：【第2回合計点-第1回合計点】現在、有している傷病別

□	件数	マイ ナス 3 0 点	マ イ ナ ス 1 満 0 点	マ イ ナ ス 1 0 点	0 点	1 0 点 未 満	1 満 0 点	3 0 点 未 満	無 回 答	平均 の 分 母	(単 位 ： 点) 実 数 合 計	(単 位 ： 点) 平 均	(単 位 ： 点) 標 準 偏 差	(単 位 ： 点) 最 大	(単 位 ： 点) 最 小
合計	82	-	2.4%	29.3%	30.5%	25.6%	7.3%	-	4	78	35.0	0.45	6.16	20.0	-23.0
脳血管疾患	49	-	-	24.5%	36.7%	20.4%	12.2%	-	3	46	69.0	1.50	6.03	20.0	-9.0
心疾患	9	-	-	22.2%	11.1%	44.4%	22.2%	-	-	9	27.0	3.00	7.42	15.0	-9.0
糖尿病	13	-	-	46.2%	15.4%	30.8%	7.7%	-	-	13	3.0	0.23	5.18	11.0	-9.0
骨折	16	-	6.3%	43.8%	18.8%	18.8%	-	-	2	14	-45.0	-3.21	6.82	4.0	-23.0
認知症	9	-	-	55.6%	33.3%	11.1%	-	-	-	9	-25.0	-2.78	3.27	2.0	-7.0
上記いずれも有しない、その他	35	-	5.7%	20.0%	34.3%	31.4%	5.7%	-	1	34	25.0	0.74	6.67	17.0	-23.0

図表 138 訪問リハビリテーション

問Ⅱ【6】機能的自立度評価表：【第3回合計点-第1回合計点】サービス利用前の所在地別

	件数	マイナ ス30 点	マイ ナ ス3 0 点 未 満	未 満 1 0 点	0 点	1 0 点 未 満	未 満 3 0 点	3 0 点 以 上	無 回 答	平 均 の 分 母	(単 位 ： 点) 実 数 合 計	(単 位 ： 点) 平 均 値	(単 位 ： 点) 標 準 偏 差	(単 位 ： 点) 最 大 値	(単 位 ： 点) 最 小 値
□ 合 計	82	-	2	24	25	21	6	-	4	78	35.0	0.45	6.16	20.0	-23.0
急性期病院	10	-	-	3	1	2	3	-	1	9	36.0	4.00	8.69	17.0	-9.0
回復期リハ病棟	28	-	-	6	10	8	2	-	2	26	22.0	0.85	5.33	20.0	-9.0
療養病床	2	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-28.0	-14.00	12.73	-5.0	-23.0
在宅	29	-	1	12	10	6	-	-	-	29	-26.0	-0.90	4.11	9.0	-10.0
その他	13	-	-	2	4	5	1	-	1	12	31.0	2.58	5.47	15.0	-4.0

○各指標間の相関

各指標間の相関を見ると、基本的日常生活能力と機能的自立度評価表の相関が高く、ADL、IADLの項目間は比較的相関が見られることが分かる。

【通所リハビリテーション】 第1回目の値における 各指標間の相関係数

相関係数>0.5の項目に斜線の網掛け、相関係数<-0.5の項目に格子の網掛け

	問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	問Ⅱ【4】(1)-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	問Ⅱ【4】(1)-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	問Ⅱ【7】意欲	問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	問Ⅱ【10】認知機能
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	1.00										
問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	0.46	1.00									
問Ⅱ【4】(1)-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	0.41	0.69	1.00								
問Ⅱ【4】(1)-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	0.45	0.68	—	1.00							
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	0.37	0.42	0.55	0.62	1.00						
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	0.34	0.41	0.56	0.59	0.89	1.00					
問Ⅱ【7】意欲	0.19	0.40	0.48	0.42	0.54	0.51	1.00				
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-0.10	-0.18	-0.16	-0.13	-0.20	-0.13	-0.21	1.00			
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:PCS(身体的健康)	0.18	0.07	0.33	0.04	0.32	0.29	0.15	-0.26	1.00		
問Ⅱ【9】健康関連 QOL:MCS(精神的健康)	-0.03	0.04	0.08	0.05	0.03	0.01	0.07	-0.39	-0.06	1.00	
問Ⅱ【10】認知機能	0.16	0.33	0.47	0.42	0.32	0.38	0.49	-0.07	-0.06	-0.01	1.00

※問Ⅱ【8】は値が小さいほど改善。そのため、負の値=正の相関となる。

【通所介護】 第1回目の値における 各指標間の相関係数

相関係数>0.5の項目に斜線の網掛け、相関係数<-0.5の項目に格子の網掛け

	問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	問Ⅱ【4】①-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	問Ⅱ【4】①-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	問Ⅱ【7】意欲	問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	問Ⅱ【9】健康関連 QOL: PCS(身体的健康)	問Ⅱ【9】健康関連 QOL: MCS(精神的健康)	問Ⅱ【10】認知機能
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	1.00										
問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	0.52	1.00									
問Ⅱ【4】①-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	0.55	0.77	1.00								
問Ⅱ【4】①-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	0.37	0.76	-	1.00							
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	0.51	0.43	0.57	0.55	1.00						
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	0.51	0.54	0.54	0.67	0.92	1.00					
問Ⅱ【7】意欲	0.30	0.44	0.62	0.51	0.52	0.60	1.00				
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-0.10	-0.24	-0.40	-0.15	-0.40	-0.37	-0.35	1.00			
問Ⅱ【9】健康関連 QOL: PCS(身体的健康)	0.24	0.10	0.52	-0.06	0.42	0.33	0.09	-0.43	1.00		
問Ⅱ【9】健康関連 QOL: MCS(精神的健康)	-0.04	0.06	0.19	0.01	0.15	0.11	0.20	-0.54	0.12	1.00	
問Ⅱ【10】認知機能	0.13	0.43	0.65	0.55	0.33	0.41	0.53	-0.24	0.01	0.11	1.00

※問Ⅱ【8】は値が小さいほど改善。そのため、負の値=正の相関となる。

【訪問リハビリテーション】第1回目の値における 各指標間の相関係数

相関係数>0.5 の項目に斜線の網掛け、相関係数< - 0.5 の項目に格子の網掛け

	問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	問Ⅱ【4】①-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	問Ⅱ【4】①-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	問Ⅱ【7】意欲	問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	問Ⅱ【9】健康関連 QOL: PCS(身体的健康)	問Ⅱ【9】健康関連 QOL: MCS(精神的健康)	問Ⅱ【10】認知機能
問Ⅱ【2】Life-Space Assessment	1.00										
問Ⅱ【3】要支援者等の活動能力指標	0.50	1.00									
問Ⅱ【4】①-1. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(男性)	0.31	0.61	1.00								
問Ⅱ【4】①-2. 手段的日常生活動作能力検査: 得点合計(女性)	0.44	0.69	-	1.00							
問Ⅱ【5】基本的日常生活能力	0.46	0.50	0.64	0.57	1.00						
問Ⅱ【6】機能的自立度評価表	0.39	0.54	0.70	0.65	0.93	1.00					
問Ⅱ【7】意欲	0.30	0.48	0.47	0.47	0.68	0.75	1.00				
問Ⅱ【8】高齢者抑うつ尺度	-0.14	-0.41	-0.33	-0.32	-0.17	-0.20	-0.10	1.00			
問Ⅱ【9】健康関連 QOL: PCS(身体的健康)	0.09	0.12	0.24	0.12	0.20	0.16	0.08	-0.32	1.00		
問Ⅱ【9】健康関連 QOL: MCS(精神的健康)	0.05	0.24	0.05	0.18	0.05	0.06	0.06	-0.41	-0.06	1.00	
問Ⅱ【10】認知機能	0.11	0.34	0.40	0.50	0.34	0.47	0.52	-0.08	-0.14	0.07	1.00

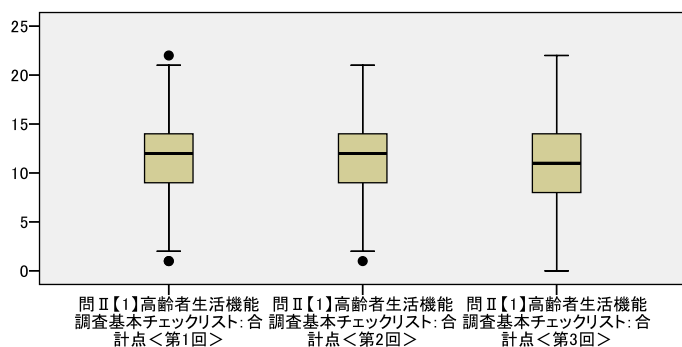
※問Ⅱ【8】は値が小さいほど改善。そのため、負の値=正の相関となる。

○各指標の変化

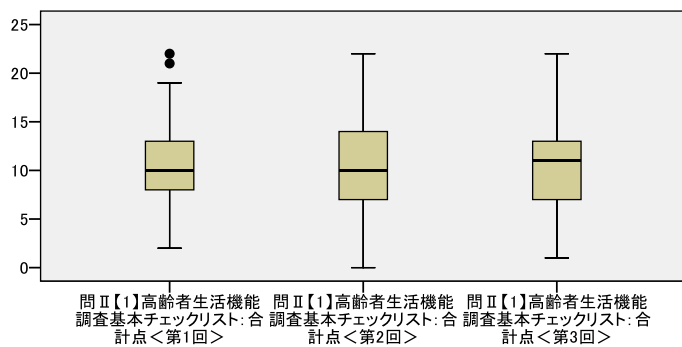
各指標の分布と変化は各サービスについて以下ようになった。なお、グラフは第1回～第3回の連結可能なデータにおける箱ひげ図¹である。【6】FIMにおいて分布のばらつきが小さく、【2】LSAにおいて分布のばらつきが多いことがわかる。しかしながら、各指標ともに、分布や平均値が安定的に推移している傾向が見られる。

(1) 高齢者の生活機能調査基本チェックリスト合計点

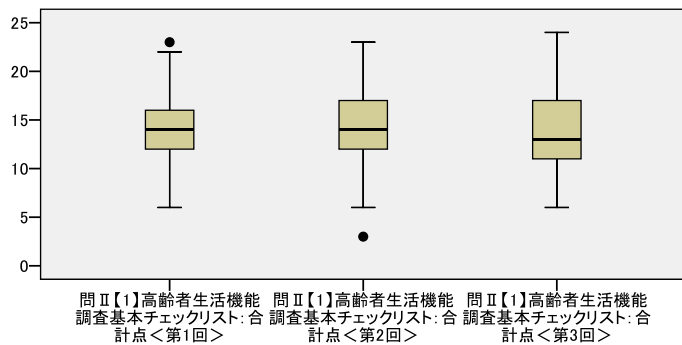
【通所リハビリテーション】



【通所介護】



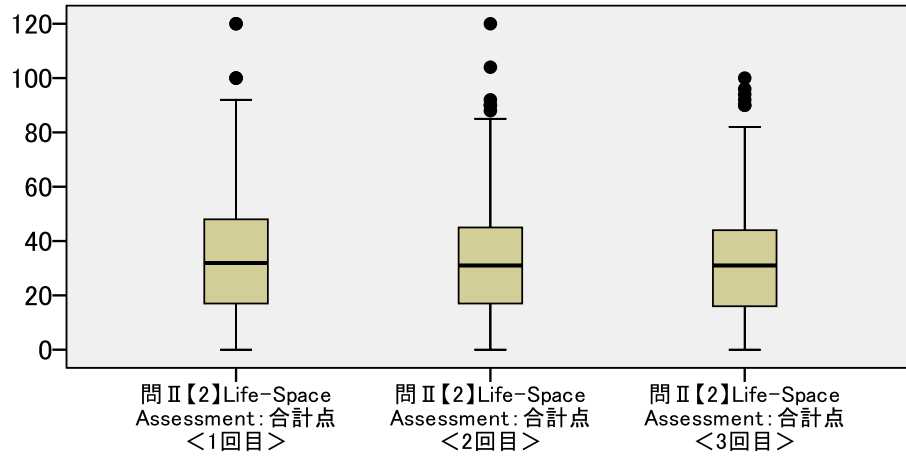
【訪問リハビリテーション】



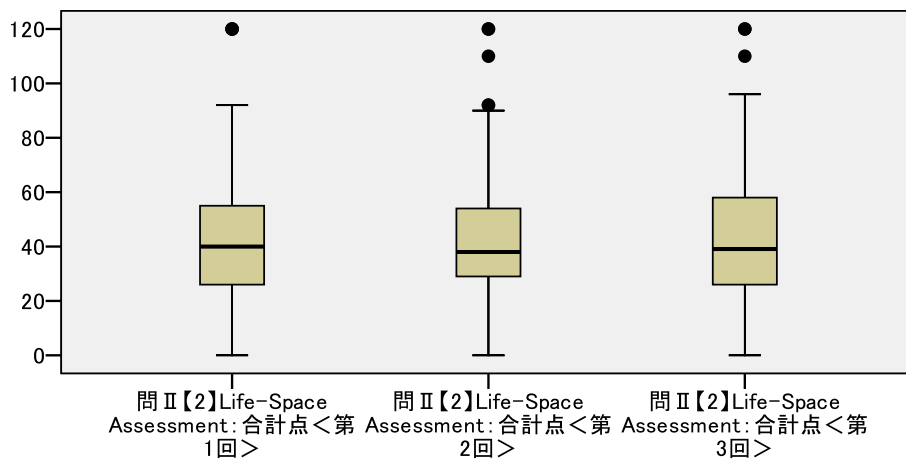
¹図中の箱の中央の線は中央値、箱の下端が第1四分位、上端が第3四分位、「ひげ」の長さは、箱の長さの1.5倍以内にある最大値、最小値までの距離。箱の長さの1.5倍を越えるデータがある場合、1.5倍以上3倍以下のものは●、3倍を超えるものは*で示す。

(2) Life-Space Assessment

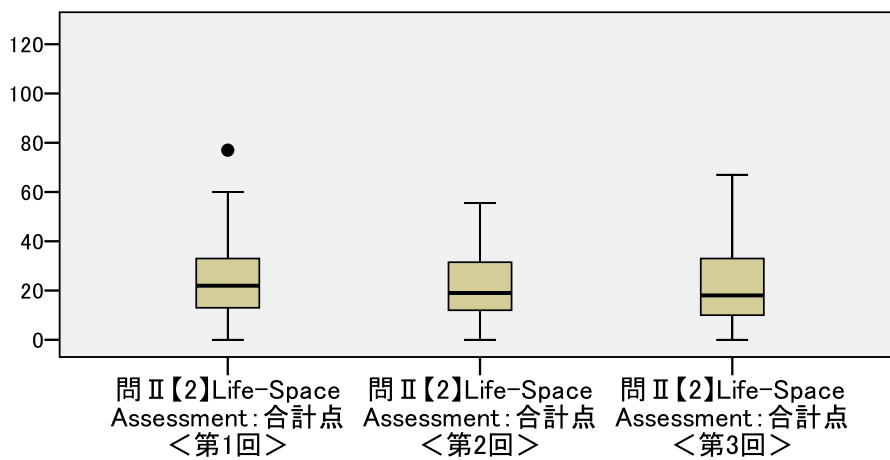
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

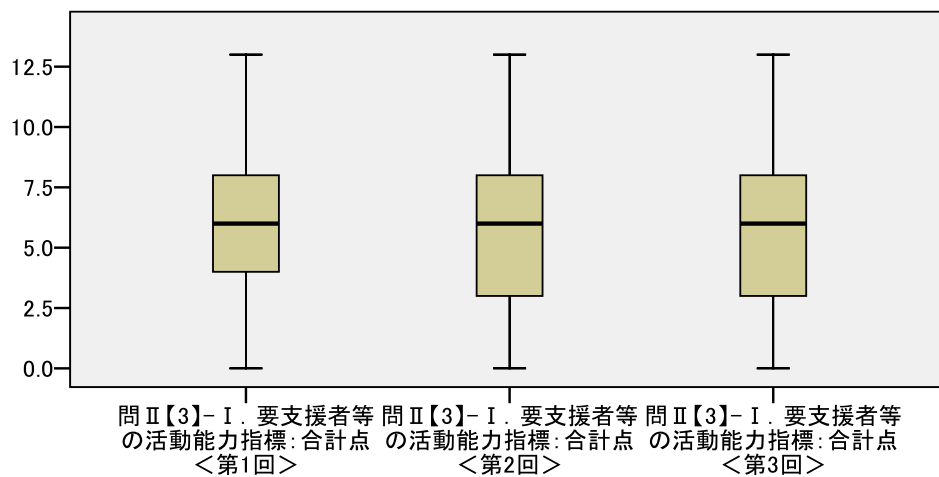


【訪問リハビリテーション】

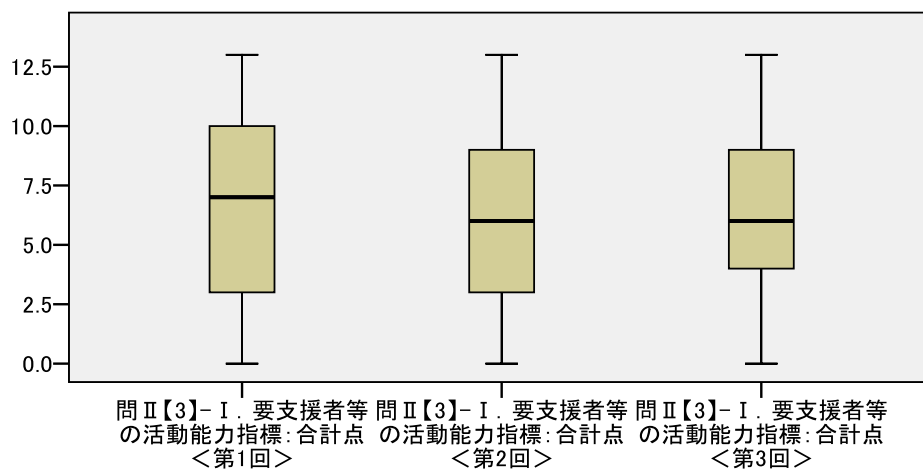


(3) 要支援者等の活動能力指標

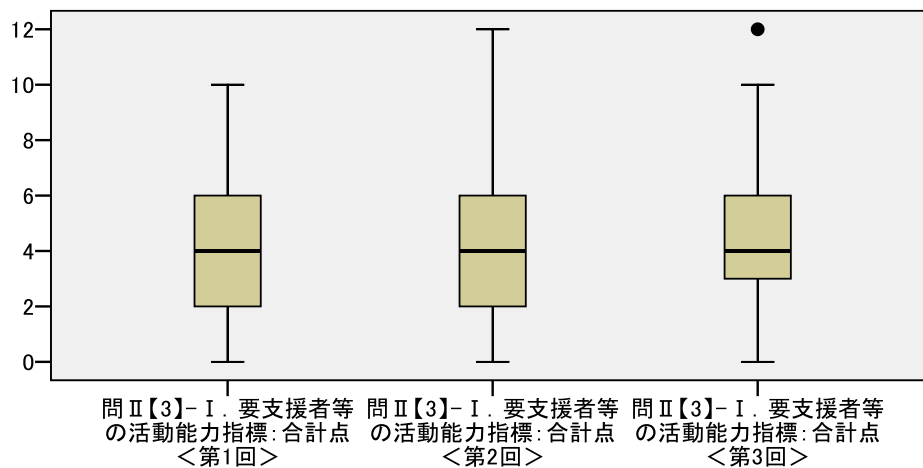
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

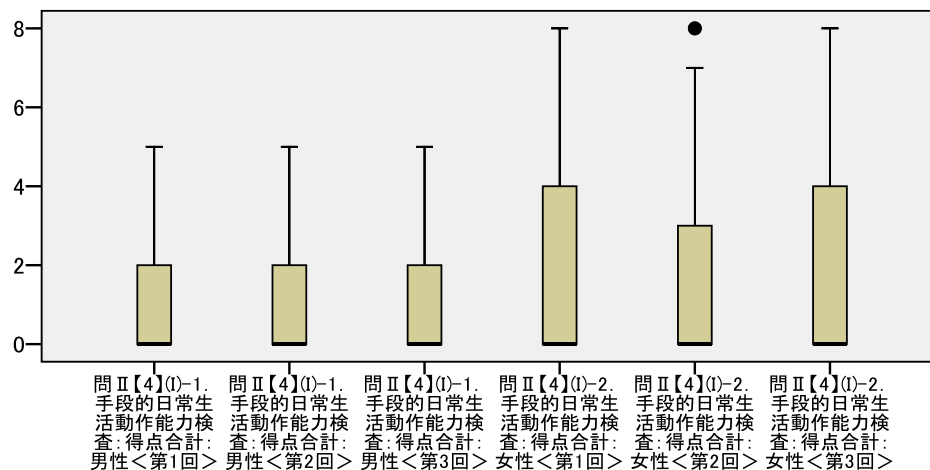


【訪問リハビリテーション】

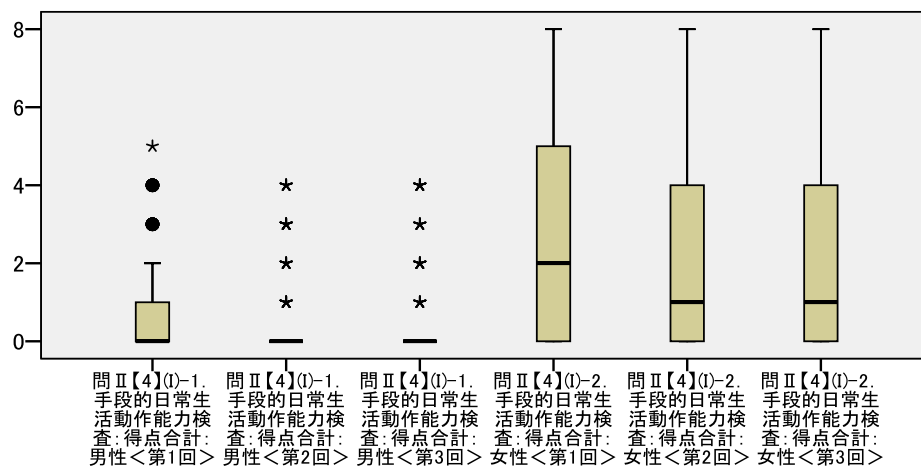


(4) 手段の日常生活動作能力検査

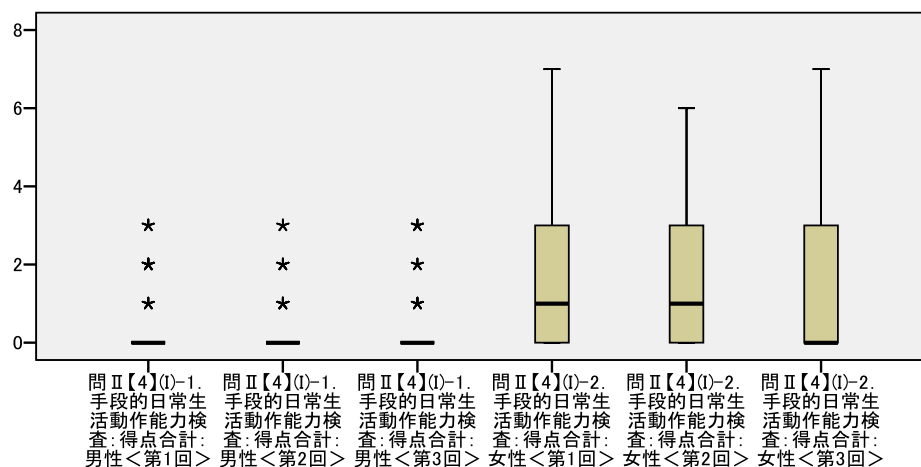
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

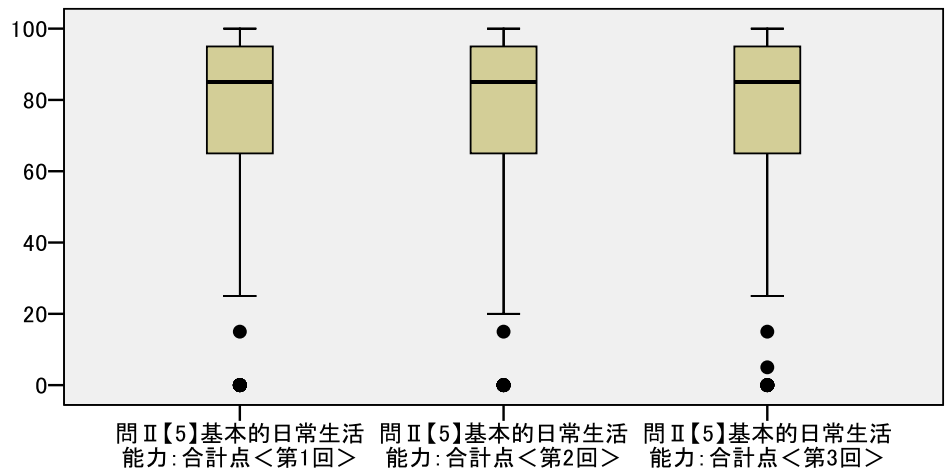


【訪問リハビリテーション】

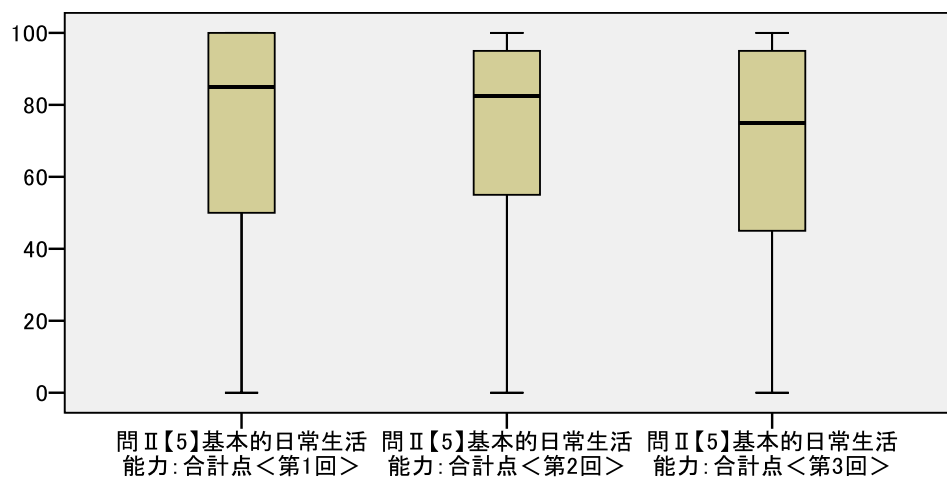


(5) 基本的日常生活能力

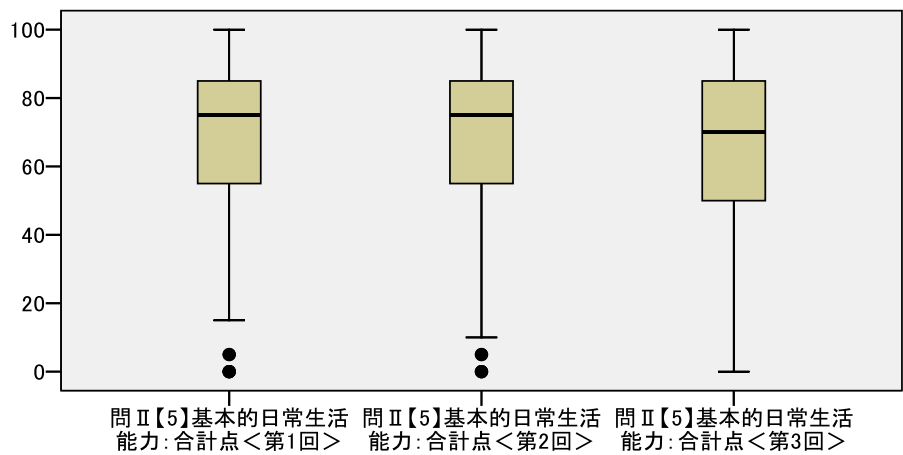
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

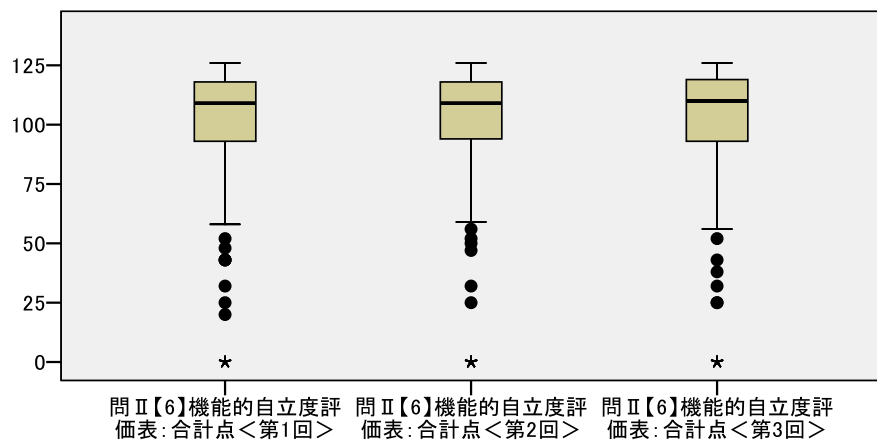


【訪問リハビリテーション】

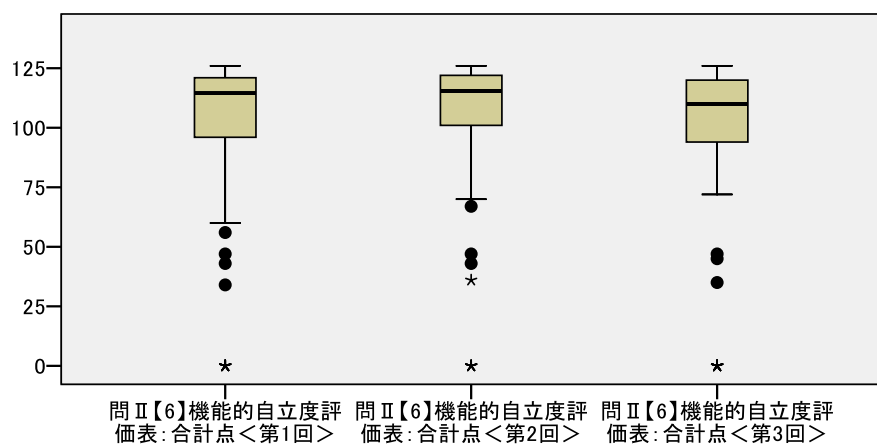


(6) 機能的自立度評価表

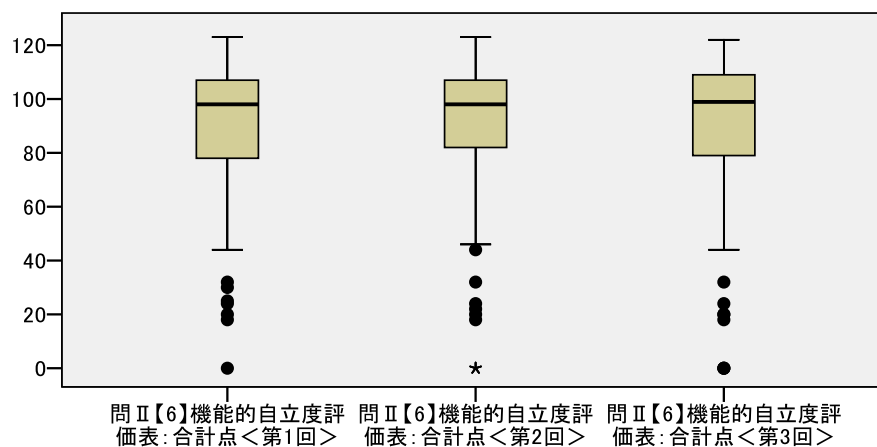
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

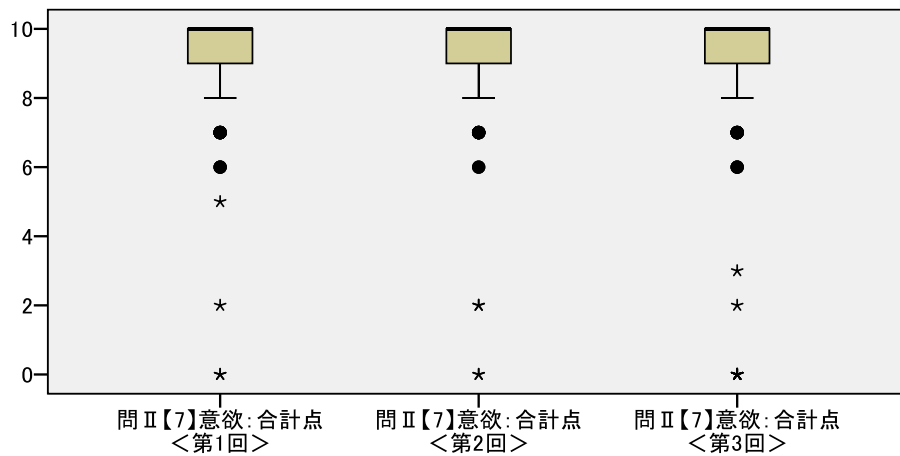


【訪問リハビリテーション】

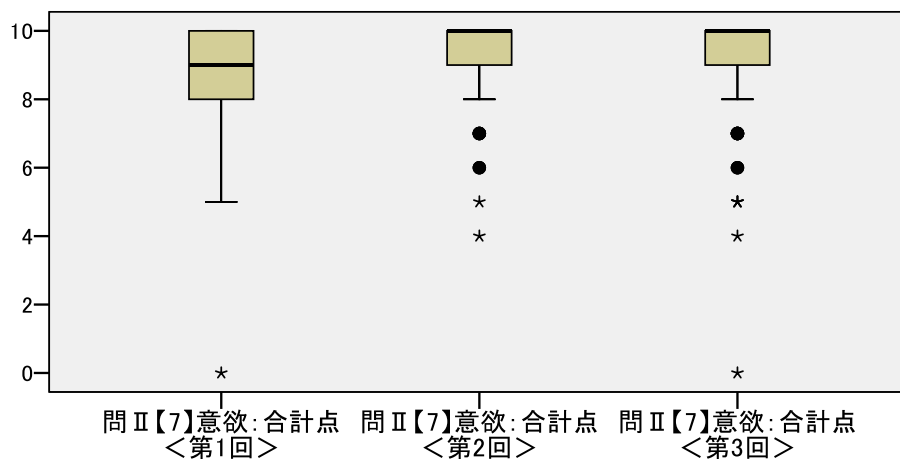


(7) 意欲

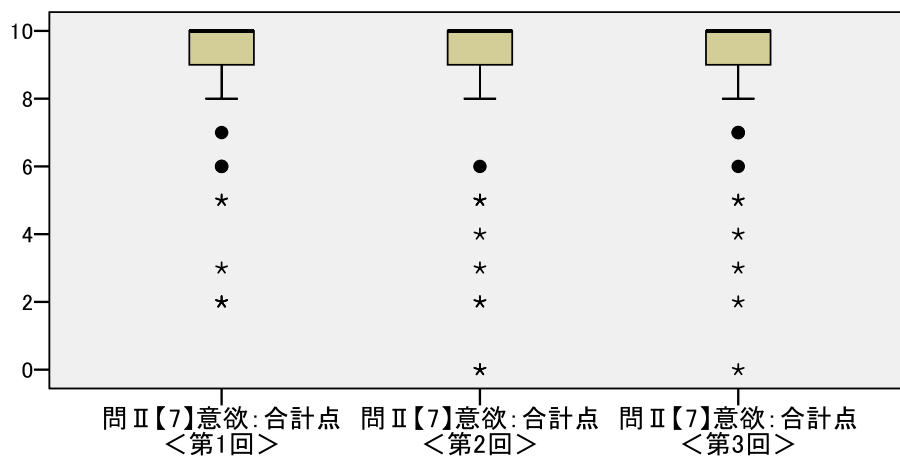
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

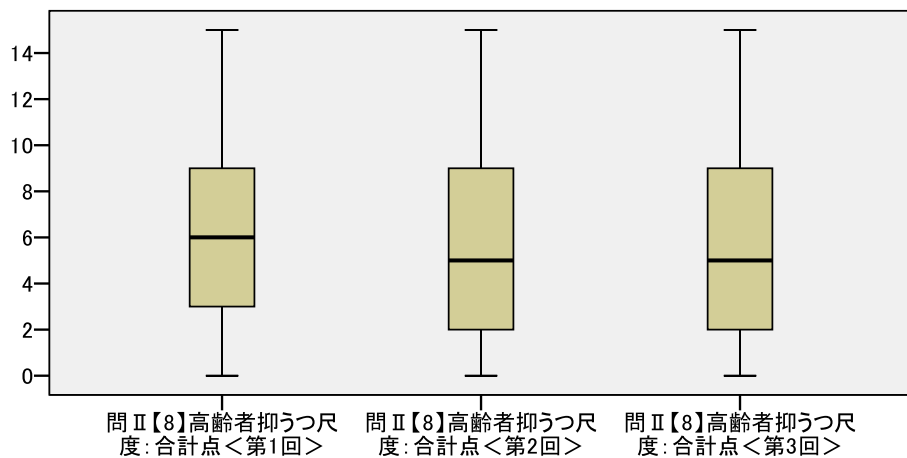


【訪問リハビリテーション】

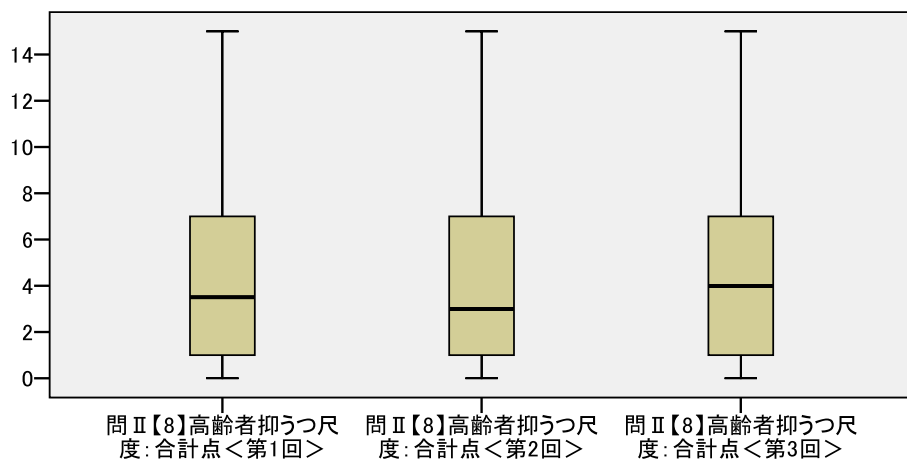


(8) 高齢者抑うつ尺度

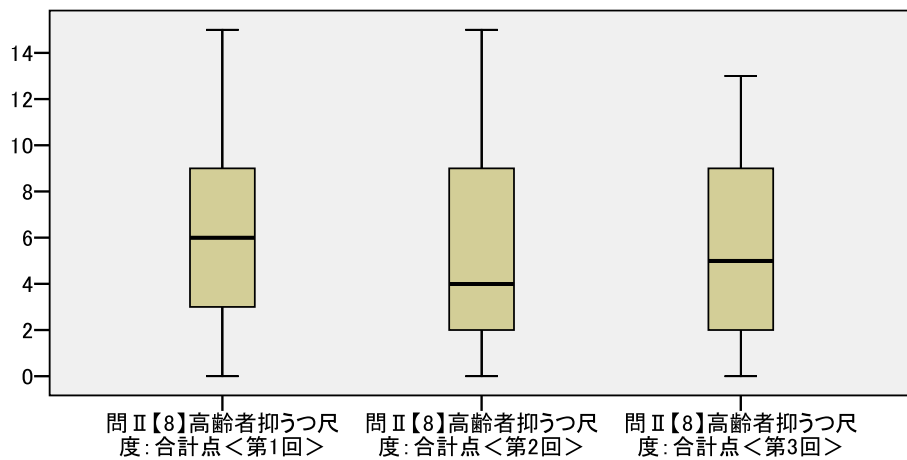
【通所リハビリテーション】



【通所介護】



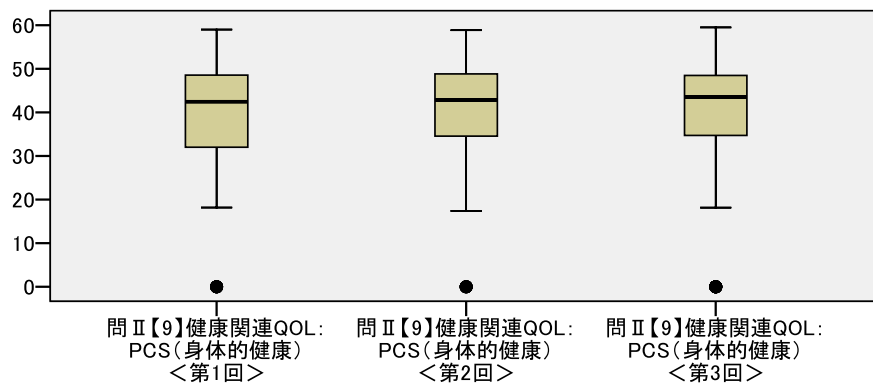
【訪問リハビリテーション】



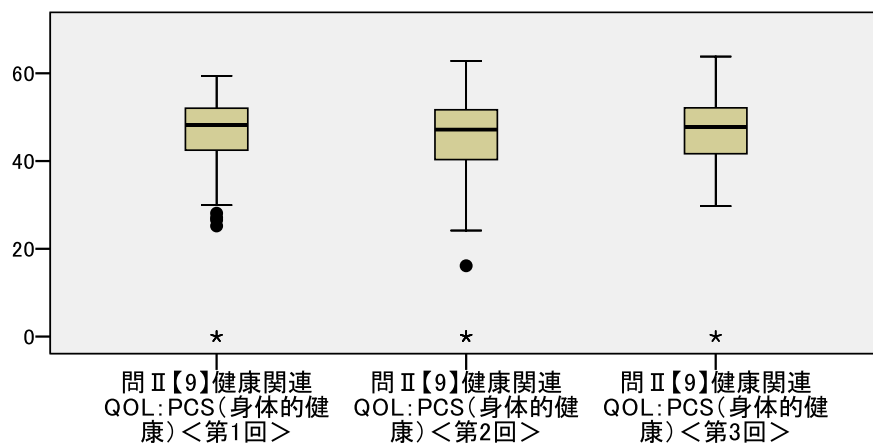
(9) 健康関連 QOL

① PCS (身体的健康)

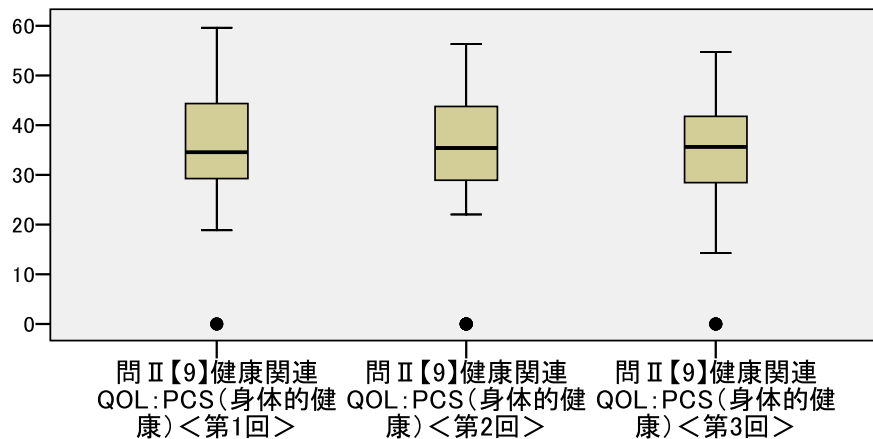
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

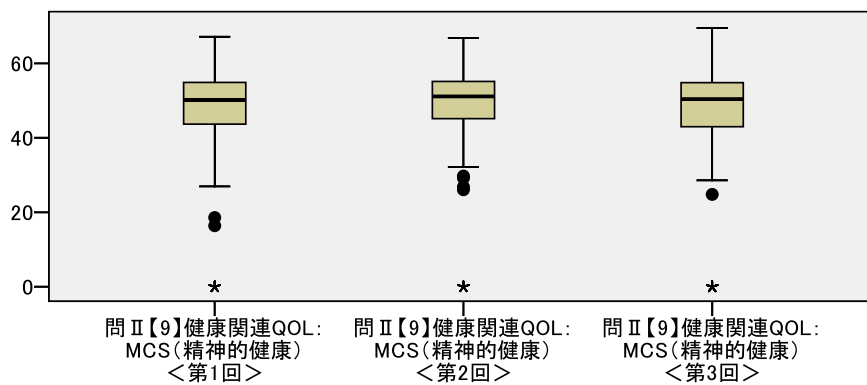


【訪問リハビリテーション】

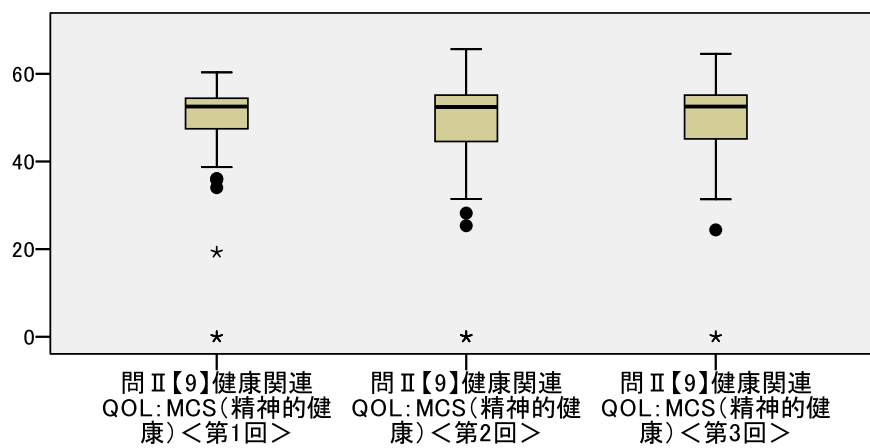


② MCS (精神的健康)

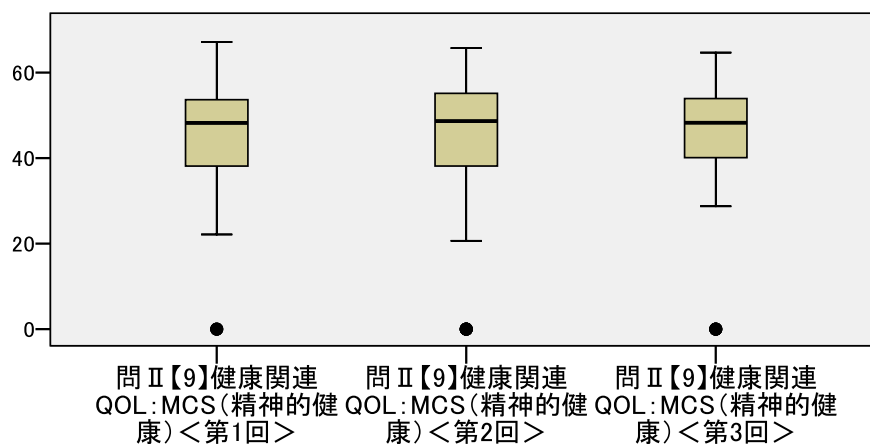
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

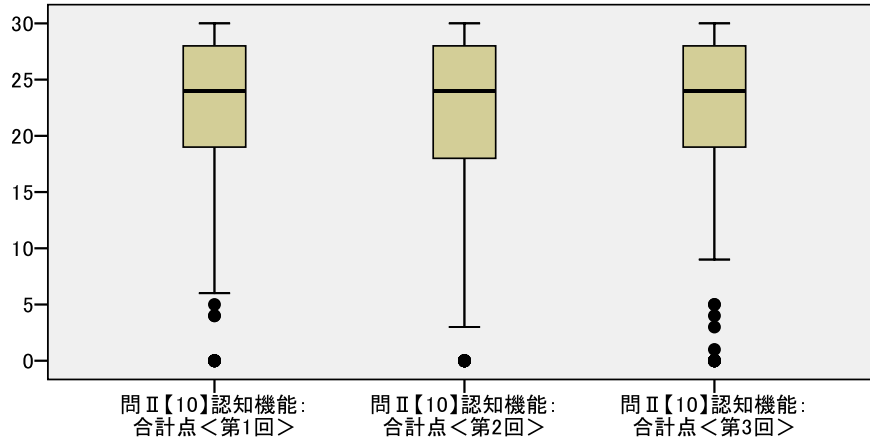


【訪問リハビリテーション】

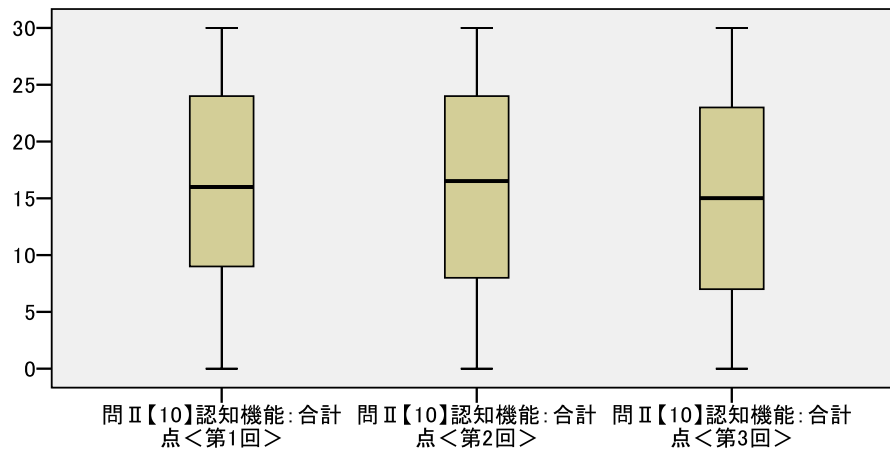


(10) 認知機能

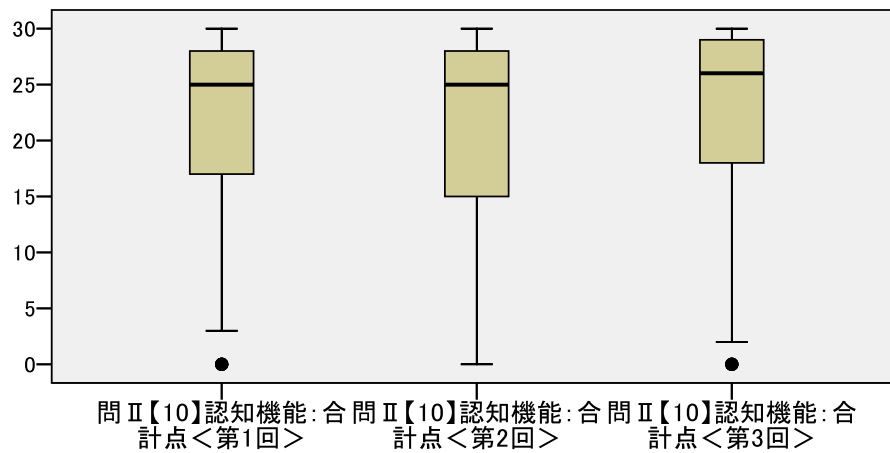
【通所リハビリテーション】



【通所介護】

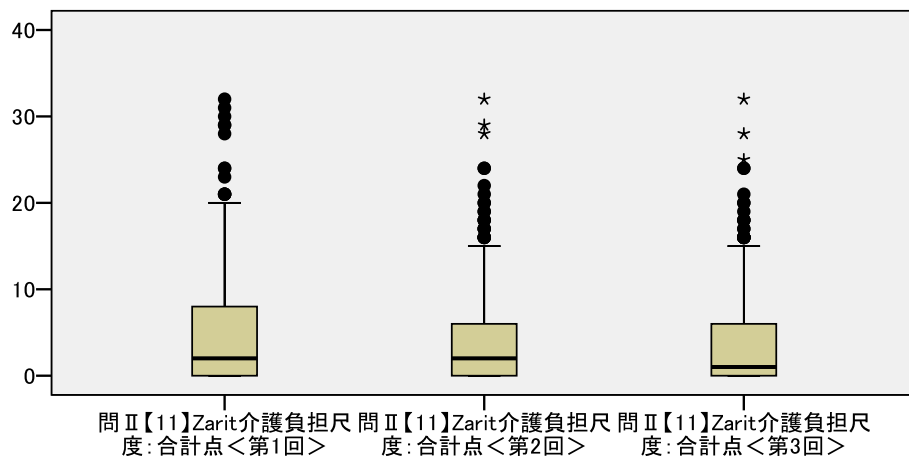


【訪問リハビリテーション】

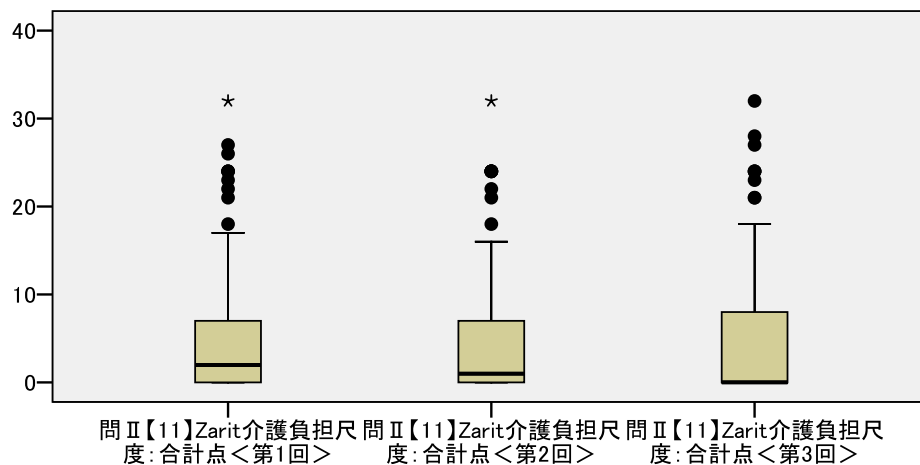


(1 1) Zarit 介護負担尺度

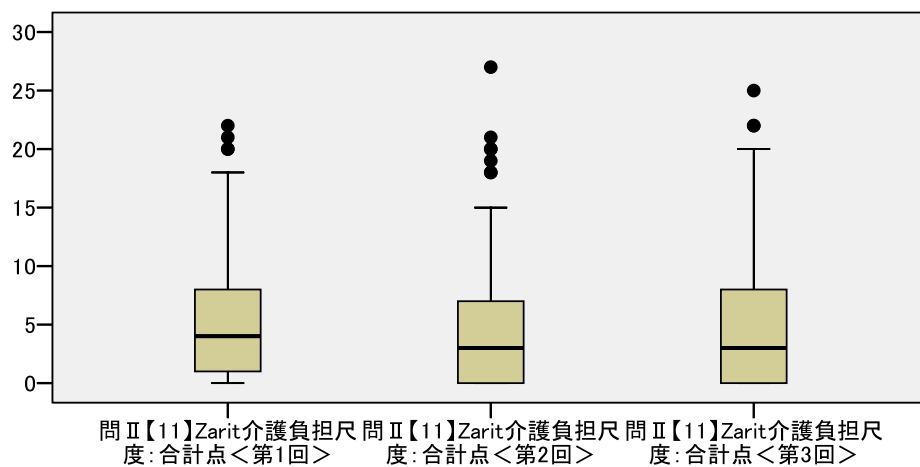
【通所リハビリテーション】



【通所介護】



【訪問リハビリテーション】



VI 生活期リハビリテーションの効果の評価方法に関するヒアリング調査

通所リハビリテーションおよび通所介護、訪問リハビリテーションの調査協力事業所の一部の事業所に対して、リハビリテーションの効果の評価方法についてヒアリング調査を実施した。ヒアリングは調査に協力頂いた通所リハビリテーション事業所、通所介護事業所、訪問リハビリテーション事業所の各 1 事業所ずつに対して行い、評価者より実際に評価をしたうえでの意見や感想等を収集した。具体的なヒアリング項目は次の通りであった。

1. ヒアリング項目

1.	事業所の概要 <ul style="list-style-type: none">・ 事業所属性・ 利用者属性・ 本調査の対象利用者の選定方法
2.	本調査対象となった利用者について <ul style="list-style-type: none">・ 状態変化が見られた利用者について・ 状態変化が見られなかった利用者について・ 今回の調査対象者に関して、評価者が感じる効果と評価結果との整合性について
3.	利用者の状態変化について（調査対象利用者に限らず利用者全般） <ul style="list-style-type: none">・ 状態変化の要因について （改善するケース／変化が見られないケース／悪化するケース）・ 状態変化の期間について （短期間で変化するケース／長期間で変化するケース）・ その他状態変化に及ぼす影響、要因、利用者属性など・ 利用者の状態変化に気付くポイント
4.	評価指標について <ul style="list-style-type: none">・ 各評価指標の感度について・ 各評価指標に現れないリハビリの効果
5.	その他 <ul style="list-style-type: none">・ リハビリテーション・個別機能訓練に従事する専門職の配置について・ 介護報酬改定への意見・要望 など

2. ヒアリング結果

(1) 評価者が感じる効果と評価結果との整合性について

- 各評価指標の数値と当人の実際の状態とは必ずしも一致しない。
- 本人や家族は、状態が維持できていることにも意義があると評価している。
- 指標の数字で利用者の状態を評価することに対しては疑問がある。生活機能の維持・改善という観点では、指標の値は参考にはなるが、値が低いからと言ってその人自身の評価に直結するものではないと考える。

(2) 利用者の状態変化について

(本調査対象に限らず、利用者様の一般的な状況や傾向について)

- リハビリや機能訓練の効果に関連する主な要因、効果が見られた典型的な事例
(改善するケース／変化が見られないケース／悪化するケース)
- サービスによって、身体機能だけではなく理解や意欲という精神的な部分で機能維持ができている人もいる。
- 利用者自身が自分の力で歩こうとする意思や意欲を持っている場合は、家でも積極的に動いている等、状態が維持されやすい傾向にある。

【通所リハビリテーション】

- 短時間の利用者の場合では、リハビリの効果はセラピストによる評価に依存することとなる。一方、6時間から8時間の利用では介護職員が利用者一人ひとりに関わる時間が長くなるが、長時間の利用によって様々な専門職の目が入っての評価が可能となる。
- 利用者自身に理解があるかどうかで、取り組みへの意欲や家族との関係性が大きく変わる。特に自分の疾病や、リハビリの必要性を理解できているかどうかで違いが出てくる。しかし、本人に認知症があるようなケースや、本人・家族の理解が不足している場合は、指導するのも難しく、サービスへ利用による効果が生まれにくい傾向がある。

【通所介護】

- 日々の中で内面的な変動はあっても、身体的な変化はほとんどない人が多い。
- 通所介護では、大半の利用者が継続の状態であり、急激な回復や悪化の人はほとんどいない。たとえ持病があっても身体状態に変化が見られるケースはあまりない。
- 状態が悪化してしまう主な原因は疾病や疾病による入院などである。入院が長期になると、元々歩いていた人が介助や車椅子を必要としてしまうというケースは多い。
- その他、ショートステイや他サービス利用した際に手厚い介護を受けた後には、戻ってきたときに状態が悪化してしまうことがある。

【事例 A：訪問リハビリテーション利用者】

○要介護度 3、70 代女性

○回復期リハ病棟からの退院後に訪問リハビリテーション利用開始

○サービス利用期間：3.5 ヶ月（第 1 回調査時点）

-
- ・ 回復期リハ病棟からの退院後、訪問リハを利用開始し、訪問リハビリテーションのスタッフが家庭環境の整備をサポートすることで、ある程度の改善が見られた。

<1 回目調査実施>

- ・ 調査実施時期は既に状況が安定してきた時期であり、その後の変化は出にくいと考えられる。
- ・ 生活期で状況が安定しているため、生活自体に顕著な変化は認められない。身体機能という観点では、筋力の向上やバランスの向上が認められるが、生活に反映されるような顕著な向上ではない。行動範囲が広がるような大きな効果は得られていない。

<2 回目調査実施>

- ・ 1 回目調査から 2 回目調査の間に SF8 で身体的にも精神的にも 10 ポイント以上の改善が見られている。これはノロウイルスに罹患して下痢を起こした等の体調不良のアクシデントがあったためと考えられる。

<3 回目調査実施>

- ・ 各指標とも特段の変化はなし

○ 状態変化に及ぼす影響、要因、利用者属性など

- ・ サービス利用開始前にリハビリが介入していなかったケースはリハビリを開始することによって改善しやすい傾向がある。
- ・ 退院後、自宅に戻ってしばらく経ってからサービス利用開始した人は廃用性症候群であるケースが多い。そのようなケースは、リハビリによる改善可能性が大きいとも考えられる。
- ・ 訪問リハビリテーションにおいては、サービス利用開始当初は家庭内環境が整備されていないケースが多い。まずはその点を改善すると急激に生活が変化することが多く、リハビリの効果も現れやすい。しかし、時間の経過によって変化は緩やかになってくる。
- ・ 家族への働きかけで本人の状況が改善することもある。家族が全て介助していたような

人に対して、本人が出来ることは本人に行ってもらうことで改善につながる。

○ 利用者の状態変化に気づくポイント

- 通所リハビリテーションでは、医師の目加わること、より医学的な観点からも評価ができる。また、多職種が関わるため、多角的な評価が容易である。
- 通所介護において、特に着目するポイントは、主に身体機能、IADL、コミュニケーション、生活の広がり、地域との関係等である。
- 訪問リハビリテーションにおいては、訪問時に自宅や家族の環境の変化、キーパーソンの変化なども含めた利用者の環境の変化を捉えることが出来る。
- 定期的なサービス担当者会議、相談者を通じた報告や連絡等の不定期な連絡、本人や家族からの聞き取り等の際に、詳細な状態を把握することが多い。
- 要介護度が軽度の利用者については細かな状況まで確認していないことも多い。一方、要介護度が重度の利用者の人は、本人の状況を細かく把握したうえでのサービス提供が必要となるため、些細な変化を捉えやすい可能性はある。

(3) 評価指標について

評価指標については、各指標単独では利用者の全体を把握することが困難であり、生活期リハビリテーションという観点でのサービス提供においては、個別の利用者に応じた、各自の心身の状況、生活環境、家族や介護者の状況など含めた生活全般の把握が不可欠である、という意見が多くあげられた。また、各指標について測定者の判断のブレや利用者の状態変動による測定の不確実性なども指摘され、単一の指標による測定・判断には懐疑的な意見が多数を占めた。

一方で、比較的感度が良く測定結果が表れる指標は、FIM,HDS-R という意見であった。

○ 各評価指標の感度について

- 既存の評価指標での評価は難しい。例えば、寝たきりの人が動けるようになると介護負担が増加するように、一つの側面だけを見て評価はできない。
- 個人の一側面を評価指標によってスコア化することよりも、当人の生活リズム全体が重要である。意識や内面の部分など数値では表しにくい。活動量が増加していても FIM だけ見ると変化がないケースも多い。総活動時間や活動量計、歩数等のスコアで既存の指標では捉えられなかった部分が見えてくることがある。
- 疾病やリハビリ開始時期を指標に組み込むと差が出てくるのではないか。生活期全般として捉えると差が見えにくい
- 通所介護においては、利用者本人自体の変化はほとんどないという実態である。そのため、数字の変化は評価者による判断の違いによるものが大きいと考えられる。
- 生活期では利用者本人のある側面だけを見て評価することに限界がある。本人を取り

巻く色々な要因があり、例えば、キーパーソンの認知機能が低下していればサービスの状況や本人への介護度は変わってくる。本人の現在の生活が成り立っている要素を把握することが必要であり、そうした時に一律の評価指標でスクリーニングをすると得られた数値の解釈や分析の仕方が重要になってくる。

- 本人の障害の受容のレベルやパーソナリティ、家族との関係性、キーパーソン、介護力、さらに評価指標には全く現れない経済力などの要因がサービスの状況に大きく影響する。例えば、家事は出来るけど家政婦がいるのでやらないというケースと障害があっても出来ないというケースでは、数値として家事をやらないというところで同じ結果が出てしまう。このような本人の状態に影響を与える様々な背景まで把握しないと評価指標の数値の解釈は難しい。特に生活期は総合的に評価することが必要である。しかし、現実的に総合的に一律に評価をすることは煩雑でもあり難しい。
- **Life-Space Assessment** の得点上では生活の質が把握できない。移動距離が同じでも同じ場所に行くことと様々な場所に行くことは異なる。場所、目的、目標が都度変化するはずであるが、得点で捉えることは困難である。
- 老研式活動能力指標の評価項目等は自立度のレベルがかなり高い人に対応するものである。要介護度の重度の人については、この指標で変化が現れる人はほとんどいないと考えられる。
- 利用者の主観的な返答に委ねるような評価指標は、利用者の認知機能や精神機能が保たれているケースでないと取得が困難である。認知機能などに問題がある場合、**Life-Space Assessment** 等は特に測定困難な指標である。
- 認知症により、自分の状態が元気だった頃の状態に記憶されている場合や、第三者が関わることで行動できているケースは、自分が出来ていないことが認識できていない。本人は全部自分でできているという意識があり、「できている」と回答する傾向がある。認知症の利用者自身への設問項目は、結果が過大評価になる傾向があると考えている。
- 家庭での行動に関する評価項目は、サービスの場での過ごし方を見ると懐疑的な回答もあったが、真偽が確かめられないものが多い。
- **FIM** による評価は通所介護では馴染みがない。そのため通所介護においては、評価者の慣れという点が **FIM** の数値に影響している可能性がある。また介護職は、利用者の様子を大枠で評価しており、PTのように細かな変化を捉えられていない可能性もある。
- **FIM** における身体的機能の評価項目であっても、認知症の影響が入るものがある。認知症による要因も考慮する必要がある。

- GDS-15 の抑うつ尺度は利用者に対して非常に聞きにくい質問であった。質問項目の意図は理解できるが、少し直接的すぎるように感じた。本当に鬱の人に聞いても大丈夫な質問なのかが疑問である。
 - GDS-15 の抑うつ尺度等は全ての利用者から取ることは現実的ではない。まずは対象者のスクリーニングを行い、その中で細かく把握すべき対象者について評価する方が適切であると思われる。
 - 健康関連 QOL では、設問の「非常に」「かなり」「少し」といった言葉の程度についての判定基準が評価する上で困難であり、利用者間での相対的な評価となるケースもあった。高齢者、特に認知症の人は○か×かの明確な設問の方が回答しやすい。
 - HDS-R については、会話の内容を後で忘れてしまっても、その場での会話が成り立っていればサービス上でも日常生活上でも支障がない。一方で、評価をしていく中で、日頃受け答えが出来ている利用者でも回答ができず、評価値が低いケースもあり、職員が気づかない利用者認知機能を知ることもできた。
 - Zarit 介護負担尺度は家庭に直接送付して家族に回答していただいたが、通所の送迎時のかかわりでは分からない介護負担感や家族のストレスが見えるようになった。ただし、家族の介護負担が大きい利用者が要介護度等が重いということはない。本人と介護者との人間関係などに拠る部分も大きい。
 - 自宅や家族の環境に関わる指標は、本人を見ただけでは回答できないものもある。このような指標は、訪問サービスの方が通所サービスと比較して利用者の家庭生活に関わる時間が長いため、回答しやすいと考えられる。
- 各評価指標に現れないリハビリの効果
- 要介護認定調査票の項目はより細かい部分での効果が把握可能である。
 - ただし、要介護認定結果としての要介護度は利用者の状態を把握するには粗すぎる。
 - 身体状態に変化が見られなくても、利用者の精神面や意識が少しでも社会参加に向かっているということはリハビリの効果として挙げられる。このような変化がケアマネージャーに伝わり、ケアプランの評価に繋がるのが重要である。そのためにはケアマネージャーとの密な情報のやり取りが必要である。
 - 今回の評価は、利用者の状態を正確に反映した評価ではない。数字で利用者を捉えることよりも、利用者自身の行動全体を見る方が重要である。
 - 生活期の中で指標の数値を上げるということは困難である。身体機能等の分かりやすい指標だけではなく、例えば意欲の向上、活動範囲の広がり、協力者を伴って社会参

加する場面の増加等、数値化できない部分が総合されたものが生活期の評価であると考える。

- 進行性の疾患を有する利用者については、本人の障害の受容度や家族の死の受け止め方、また現状の中で意欲をどう持たせるかというところは介入可能な部分であり、数値として評価できるものではない。

(4) その他

1) 効果的なリハビリテーション・個別機能訓練について

- 週 1、2 回程度の利用者は自宅での生活が中心となるため、居宅生活へのアドバイスや自分の状況についての理解に重点を置いて指導する必要がある。通所回数が多ければ個別に指導することはできるが、少なければ自己管理に委ねる部分が多い。週 1 回 1 時間の関わりだけでは効果を得ることは不可能である。通所しない残りの 6 日間をどう過ごすかという点でアドバイスする必要がある。
- 介入することで生存曲線の傾きが緩やかになることが生活期リハビリテーションの本質であると考えられる。あまり改善されるということではなく、状況が維持されていることは良いサービスを提供しているという評価になりうる。
- 訪問看護、ケアマネージャー、ヘルパー、通所リハビリテーション等の様々なサービスとの連携が適切に取れていることを質の高いサービスとして捉えることはできると思われる。利用者に課題が生じた際に、適切なサービスに迅速に移行してサポートすることが出来れば、本人の生活や気持ち、家族からの信頼度や受け止め方が大きく変わってくる。

2) リハビリテーション・個別機能訓練に従事する専門職の配置について

- アウトカムではなく、プロセスをモニタリングして評価するということに対して、専門職の目を入れた管理が必要である。

3) サービスのあり方について

- 回復期で獲得した機能を維持していくこともリハビリテーションやサービスの意義であると考えられる。身体状況の改善だけでなく、栄養士による栄養管理や、生活を維持するための支援などにもサービスの意義がある。
- 利用者側はサービスに依存する関係が作られてしまうこともある。サービスの場だけでなく、家庭での自己管理に重点を置くことも重要である。

3. その他有識者からの意見

- 改善だけでなく維持も含めて評価する必要がある。また、利用者がサービスを利用した結果、改善するか悪化するかはサービスの利用動機などの影響もあり、利用者の属性のみでは把握できない要因もある。
- 通所介護においては、提供するサービス内容も利用目的も多様化してきており、レスパイトの機能も求められている。また、日常生活上必要な機能や動作が衰えないようにすること、廃用性症候群に陥ることを遅らせること、活動性を高めること、等を目標としてサービス提供や機能訓練を行っているところが多い。特に通所介護は「維持」が大半であるため、むしろ「維持」という評価結果が出ているものが、評価指標として有用ともいえる。
- リハビリテーションの各指標による評価は専門職以外でも実施可能であるが、評価結果を適切に解釈し、その結果を最適なサービス計画や他職種との連携につなげていくことが重要であり、そこに専門職が関与することが重要である。
- 加齢とともに生活機能が落ちてきた高齢者の生活をどう支えるかという視点で、サービスのあり方を捉える必要がある。地域包括ケアシステムを実現するためには、リハビリテーションという概念をどのように設定し、それを地域の中でどう具現化していくかが検討課題である。

Ⅶ 生活期リハビリテーションの効果の評価方法に関する考察

1. 生活期リハビリテーションの効果の評価するための指標の計測について

(1) 指標の計測の妥当性について

生活期リハビリテーションの効果の評価するためには、適切な指標を用いることが必要であると同時に、評価者が適切に評価を実施できることが重要である。

本調査は、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションを対象として実施し、評価者も多職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職、介護職）に渡っているが、本調査で採用した評価指標はリハビリテーション専門職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）にとっては一般的であっても看護職、介護職にとってはなじみのない指標である。しかし、特に通所介護ではリハビリテーション専門職種の配置は少ない事業所が多く、事業所において実務的に生活期リハビリテーションの効果の評価するためには、看護職、介護職であっても適切に評価可能な指標である必要がある。

そのため、本研究においては、評価職種別に指標毎の評価結果に差が見られるかどうかについて、分析・考察を行った。その結果、特に高度な評価技術が求められる FIM であっても、評価職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職、介護職）別に評価結果やその変化に大きな差異は見られず、リハビリテーション専門職種に限らず、看護職、介護職であっても、評価手法をレクチャーすることで適切に評価が可能であることが明らかとなった。

(2) 指標の計測の負担について

ヒアリングの結果から、特に評価者の負担が大きい指標として GDS-15 等の精神面を問う項目が挙げられた。

特に、認知機能の低下した利用者への質問式の項目や、精神的に鬱傾向の利用者に精神面の質問を行うことは評価者・利用者本人双方において、負担が大きく困難であるという意見が寄せられた。一方で、OT などの専門職であれば測定は比較的問題なく行えるという意見もあり、一部の評価項目については適切な専門職が評価を行うことの必要性が示唆された。

2. 生活期リハビリテーションの効果を評価するために適切な指標について

(1) 生活期リハビリテーションの効果の評価が可能な指標について

1) 各評価指標における変化の妥当性について

専門家の助言を得ながら、被評価者の身体の状態から推測される予後の変化（リハビリテーションによって維持・改善するか、悪化せざるをえないか等）と各指標における評価結果の変化の方向について、分析・考察を行った。

その結果、FIM については、概ね妥当な評価結果を示すことが示唆された。

ただし、ヒアリングの結果からも生活期リハビリテーションの対象利用者については、殆どが維持の状態にある人であり、変化がないことを示す評価指標の方が妥当なのではないかとの意見もあった。その点でも、特に状態が安定している利用者の多い通所介護においても FIM は変動の少ない結果となっており、評価の妥当性が示唆された。

また、HDS-R も介護サービスを提供する職員にも気付きにくい認知機能を検査できるという点で一定の評価が得られた。

2) 各評価指標における変化の水準と生活期リハビリテーションの効果の関係性について

生活期リハビリテーションによる効果が各指標の評価結果によって適切に反映されているかどうかについては、ヒアリングによって、生活期リハビリテーションの「効果」そのものの定義が必要であるとの意見が多く挙げられた。また、専門家からは、加齢に伴って悪化する身体状況等を「維持」できることも十分な効果であるとの意見も挙げられた。

各指標によって把握される効果は、身体状況の変化等の定量的に評価可能な部分であり、生活期リハビリテーションの効果には、必ずしも各指標によって定量的に把握される身体状況、生活状況の改善によらない効果も含まれるとの指摘があった。

例えば、個別計画において位置づけているような「地域の中での社会活動に参加ができるようになる」「目標としていた場所に行くことが可能になる」といった目標の達成は、身体状況等の改善がなくてもできる場合がある。また、「本人・家族に自宅でも可能な機能訓練の方法や必要性を理解してもらうことでサービス利用時以外でも機能の維持に努力してもらう」などは、直接的に利用者の身体状況等に与える効果ではないが、広い意味では生活期リハビリテーションの効果の一部といえるが、それらを今回検討を行った指標のみで捉えることは困難であるといった指摘もある。

(2) 各指標間の関係性と評価指標の選定について

本調査で用いた評価指標間の関係性を分析・考察した結果、BI と FIM の指標は同等の傾向を示した。一方、健康関連QOLの指標と他の指標は比較的相関が小さく、独立の傾向が見られる。

専門家の意見やヒアリング結果から、本調査で用いた評価指標のうち、利用者への質問（自記式）による指標に関しては、利用者が認知度に障害を有する場合は、結果の信頼性が著しく低下するという問題が指摘された。ただし、認知度に問題がない場合は主観的な精神面での効果が測定可能であるという利点もあげられた。また、評価者による観察型の指標に関しては、身体機能の変化を客観的に把握可能という利点がある反面、利用者の疾病発症などによる影響も受け易いという傾向もあることが指摘された。身体状況等の定量的な評価に用いることが可能な指標については、これらを勘案した上で、引き続き検討を行う必要がある。

VIII 本研究の限界

本調査においては、生活期リハビリテーションの効果の一部について、サービス開始から間もない利用者や、急性期病院から退院してから間もない利用者等、利用者像を限定すれば、生活期リハビリテーションの効果を捉えることが示唆され、一定の知見を得ることができたが、以下の点については本調査では結論を得ることは困難であった。

まず、本調査は、経営者の意識、従業員のスキル等の水準の高い限定された事業所において実施された結果を基にしており、一般的な事業所においても実務的な負担等の観点から同様の結果となるかどうか結論を得るには至っていない。

さらに、本調査は、既存の代表的な評価指標を用いて、通所リハビリテーション、通所介護、訪問リハビリテーションの利用者について、約4ヶ月間の変化を捉えた調査である。しかしながら、得られた知見は極めて限定的なものであり、本調査で用いた既存の評価指標を使用して生活期リハビリテーションの効果を評価することは困難であると考えられた。

参考資料 1

生活期リハビリテーションの効果についての
評価方法に関する調査 事業所調査票

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査 【通所リハビリテーション事業所票】

■記入にあたってのご注意

- ・ この調査票は、**貴事業所の管理者的な立場にある事務職員の方が**必要に応じ管理者、医師、看護職員、PT、OT、ST等の方々と相談の上、ご記入下さい。
- ・ 特に指定の無い限り、**選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。**
- ・ () の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- ・ 数字を記入する欄が0（ゼロ）の場合、**空欄のままではなく、必ず「0」とご記入下さい。**
- ・ 記入の終わった調査票は、同封の返信用レターパックを使い、**平成24年11月23日（金）までにご返送**下さい。

I. 通所リハビリテーション事業所の基本情報

(1)登録者数 【平成24年11月1日時点】	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
	()人	()人	()人	()人	()人	
(2)利用者定員数 【平成24年11月1日時点】	1-2時間	2-3時間	3-4時間	4-6時間	6-8時間	8時間超
	()人	()人	()人	()人	()人	()人
(3)時間別開催日数 ^(※) 【平成24年10月中】	1-2時間	2-3時間	3-4時間	4-6時間	6-8時間	8時間超
	()日	()日	()日	()日	()日	()日
(4)時間別利用者数 【平成24年10月中】	1-2時間	2-3時間	3-4時間	4-6時間	6-8時間	8時間超
	実人数	()人	()人	()人	()人	()人
	延べ人数	()人	()人	()人	()人	()人
(5)理学療法士等体制強化加算【平成24年10月分】 (1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションを提供している事業所の場合)			1. 算定あり 2. 算定なし			

※時間数は通所リハビリテーションサービス提供の所要時間を表す。

II. 介護予防通所リハビリテーション事業所の基本情報				
(1) 介護予防通所リハビリテーション実施の有無 【平成 24 年 11 月 1 日時点】		1. 実施している 2. 実施していない		
(2) 登録者数【平成 24 年 11 月 1 日時点】	要支援1	() 人	要支援2	() 人
(3) 利用者数【平成 24 年 10 月中】				
	実人数	要支援1	() 人	要支援2 () 人
	延べ人数	要支援1	() 人	要支援2 () 人
(4) 事業所評価加算の算定の有無【平成 24 年 10 月分】		1. 算定あり 2. 算定なし		

III. 併設施設について【平成 24 年 11 月 1 日時点】	
(1) 他機関の併設有無 (複数回答)	1. 病院併設 2. 有床診療所併設 3. 無床診療所併設 4. 介護保険サービス事業所併設 (平成 24 年 11 月時点でサービス提供を行っている併設事業所) ① 介護老人保健施設 ② 訪問リハビリテーション事業所 ③ 居宅介護支援事業所 ④ 通所介護事業所 ⑤ 上記以外の介護保険サービス事業所() 5. その他() 6. 併設機関なし

IV. 通所リハビリテーションに従事する職員体制 (※1) 【平成 24 年 11 月 1 日時点】				
	通所リハビリテーションに従事する常勤職員		通所リハビリテーションに従事する非常勤職員	
	実人員	常勤換算(※2)	実人員	常勤換算(※2)
医師	()人	(.)人	()人	(.)人
看護職員	()人	(.)人	()人	(.)人
理学療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所リハに専従の者	()人		()人	
作業療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所リハに専従の者	()人		()人	
言語聴覚士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所リハに専従の者	()人		()人	
介護職員	()人	(.)人	()人	(.)人
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	()人	(.)人	()人	(.)人
その他の職員				
ソーシャル・ワーカー (社会福祉士等、相談業務に 主に従事する者)	()人		()人	
管理栄養士	()人		()人	
歯科衛生士	()人		()人	

(※1)平成 24 年 11 月 1 日現在に通所リハビリテーション事業所に在籍する職員のうち、通所リハビリテーションの業務に携わっている者を職種別に計上してください。「介護予防通所リハビリテーション」と「通所リハビリテーション」で別々に人員配置を行っている場合は、合算した職員数を記入してください。

(※2)常勤職員で他業務と兼務している場合は、常勤換算で記入してください。通所リハビリテーション事業所に併設している医療機関等の業務については含めないでください。

常勤換算数の計算方法: 小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と計上してください。

〔換算数〕 = 〔職員の1週間の勤務時間〕 ÷ 〔事業所が定めている1週間の勤務時間〕

V. 利用者の状況【平成24年11月1日時点】

(1) 利用者の医療的ケアの状況

登録者のうち、上記時点での医療的ケアが必要な方の人数を記入してください。

必要とする 医療的ケア (重複 計上可)	項目	人数	項目	人数
	1. 胃ろう・経鼻経管栄養 による栄養管理	() 人	11. 導尿	() 人
	2. 膀胱（留置）カテーテルの 管理	() 人	12. 浣腸	() 人
	3. 人工肛門（ストーマ） のケア	() 人	13. 摘便	() 人
	4. たんの吸引	() 人	14. 服薬管理	() 人
	5. ネブライザー	() 人	15. その他	() 人
	6. 酸素療法（酸素吸入）	() 人	処置名 ()	() 人
	7. 気管切開のケア	() 人	処置名 ()	() 人
	8. 人工呼吸器の管理	() 人	処置名 ()	() 人
	9. 褥瘡の処置	() 人	処置名 ()	() 人
	10. インスリン注射	() 人	処置名 ()	() 人

(2) その他のケアの状況

登録者のうち、上記時点での以下のケアが必要な方の人数を実人数で記入してください。

項目	人数
1. おむつをしている人数（リハビリパンツ含む）	() 人
2. 一連の入浴行為を1対1介助で入浴している人数	() 人
3. 機械浴で入浴している人数	() 人
4. 経口摂取の際に食事介助が必要な人数	() 人
5. 認知症などで常時見守りが必要な人数	() 人

VI. ご意見・ご感想

通所リハビリテーションサービスの提供にあたって、工夫している点や課題などがありましたらお書きください。また、職員に対するリハビリテーションの評価指標の研修実施または参加促進などを行っている場合は、それも併せてお書き下さい。

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査 【通所介護事業所票】

■記入にあたってのご注意

- ・ この調査票は、**貴事業所の管理者的な立場にある事務職員の方が**必要に応じ管理者、看護職員、機能訓練指導員（PT、OT、ST等）の方々とも相談の上、ご記入下さい。
- ・ 特に指定の無い限り、**選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。**
- ・ （ ）の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- ・ 数字を記入する欄が0（ゼロ）の場合、**空欄のままではなく、必ず「0」とご記入下さい。**
- ・ 記入の終わった調査票は、同封の返信用レターパックを使い、**平成24年11月23日（金）までにご返送**下さい。

I. 通所介護事業所の基本情報

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
(1)登録者数 【平成24年11月1日時点】	()人	()人	()人	()人	()人
(2)利用者定員数 【平成24年11月1日時点】	2-3時間	3-5時間	5-7時間	7-9時間	
	()人	()人	()人	()人	
(3)時間別開催日数 ^(※) 【平成24年10月中】	2-3時間	3-5時間	5-7時間	7-9時間	
	()日	()日	()日	()日	
(4)時間別利用者数 【平成24年10月中】	2-3時間	3-5時間	5-7時間	7-9時間	
	実人数	()人	()人	()人	()人
	延べ人数	()人	()人	()人	()人
(5)個別機能訓練加算(I)の算定の有無【平成24年10月分】	1. 算定あり		2. 算定なし		
(6)個別機能訓練加算(II)の算定の有無【平成24年10月分】	1. 算定あり		2. 算定なし		

※時間数は通所介護サービス提供の所要時間を表す。

II. 介護予防通所介護事業所の基本情報					
(1)介護予防通所介護の指定の有無 【平成 24 年 11 月 1 日時点】		1. 指定を受けている 2. 指定を受けていない			
(2)登録者数【平成 24 年 11 月 1 日時点】	要支援1	()人	要支援2	()人	
(3)利用者数【平成 24 年 10 月中】					
	実人数	要支援1	()人	要支援2	()人
	延べ人数	要支援1	()人	要支援2	()人
(4)事業所評価加算の算定の有無【平成 24 年 10 月分】		1. 算定あり 2. 算定なし			

III. 併設施設について【平成 24 年 11 月 1 日時点】	
(1)他機関の併設有無 (複数回答)	1. 病院併設 2. 有床診療所併設 3. 無床診療所併設 4. 介護保険サービス事業所併設 (平成 24 年 11 月時点でサービス提供を行っている併設事業所) ①介護老人保健施設 ②訪問リハビリテーション事業所 ③居宅介護支援事業所 ④通所リハビリテーション事業所 ⑤上記以外の介護保険サービス事業所() 5. その他() 6. 併設機関なし

V. 通所介護に従事する職員体制 (※1) 【平成 24 年 11 月 1 日時点】				
	通所介護に従事する常勤職員		通所介護に従事する非常勤職員	
	実人員	常勤換算(※2)	実人員	常勤換算(※2)
看護職員	()人	(.)人	()人	(.)人
介護職員	()人	(.)人	()人	(.)人
生活相談員	()人	(.)人	()人	(.)人
機能訓練指導員 (看護職員である場合は除く)	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、理学療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所介護に専従の者	()人		()人	
うち、作業療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所介護に専従の者	()人		()人	
うち、言語聴覚士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所介護に専従の者	()人		()人	
うち、柔道整復師・ あん摩マッサージ指圧師	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、通所介護に専従の者	()人		()人	
その他の職員				
ソーシャル・ワーカー (社会福祉士等、相談業務に主に 従事する者)	()人		()人	
健康運動指導士 ((財)健康・体づくり事業財団 から認定を受けた者)	()人		()人	
管理栄養士	()人		()人	
歯科衛生士	()人		()人	

(※1)平成 24 年 11 月 1 日現在に通所介護事業所に在籍する職員のうち、通所介護の業務に携わっている者を職種別に計上してください。「介護予防通所介護」と「通所介護」で別々に人員配置を行っている場合は、合算した職員数を記入してください。

(※2)常勤職員で他業務と兼務している場合は、常勤換算で記入してください。通所介護事業所に併設している医療機関等の業務については含めないでください。

常勤換算数の計算方法: 小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と計上してください。

〔換算数〕 = 〔職員の1週間の勤務時間〕 ÷ 〔事業所が定めている1週間の勤務時間〕

VI. 利用者の状況【平成24年11月1日時点】

(1) 利用者の医療的ケアの状況

登録者のうち、上記時点での医療的ケアが必要な方の人数を記入してください。

必要とする 医療的ケア	項目	人数	項目	人数
(重複 計上可)	1. 胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理	() 人	11. 導尿	() 人
	2. 膀胱(留置)カテーテルの管理	() 人	12. 浣腸	() 人
	3. 人工肛門(ストーマ)のケア	() 人	13. 摘便	() 人
	4. たんの吸引	() 人	14. 服薬管理	() 人
	5. ネブライザー	() 人	15. その他	() 人
	6. 酸素療法(酸素吸入)	() 人	処置名()	() 人
	7. 気管切開のケア	() 人	処置名()	() 人
	8. 人工呼吸器の管理	() 人	処置名()	() 人
	9. 褥瘡の処置	() 人	処置名()	() 人
	10. インスリン注射	() 人	処置名()	() 人

(2) その他のケアの状況

登録者のうち、上記時点での以下のケアが必要な方の人数を実人数で記入してください。

項目	人数
1. おむつをしている人数(リハビリパンツ含む)	() 人
2. 一連の入浴行為を1対1介助で入浴している人数	() 人
3. 機械浴で入浴している人数	() 人
4. 経口摂取の際に食事介助が必要な人数	() 人
5. 認知症などで常時見守りが必要な人数	() 人

VII. ご意見・ご感想

通所介護サービスの提供にあたって、工夫している点や課題などがありましたらお書きください。

また、職員に対するリハビリテーションの評価指標の研修実施または参加促進などを行っている場合は、それも併せてお書き下さい。

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査 【訪問リハビリテーション事業所票】

■記入にあたってのご注意

- ・ この調査票は、**貴事業所の管理者的な立場にある事務職員の方が**必要に応じ管理者、医師、看護職員、PT、OT、ST等の方々とも相談の上、ご記入下さい。
- ・ 特に指定の無い限り、**選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。**
- ・ () の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
- ・ 数字を記入する欄が0（ゼロ）の場合、**空欄のままではなく、必ず「0」とご記入下さい。**
- ・ 記入の終わった調査票は、同封の返信用レターパックを使い、**平成24年11月23日（金）までにご返送**下さい。

I. 訪問リハビリテーション事業所の基本情報

(1)登録者数 【平成24年11月1日時点】	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
	()人	()人	()人	()人	()人
(2)利用者数 【平成24年10月中】					
	実人数	()人			
	延べ人数	()人			
(3)訪問日数 【平成24年10月分】			()日		
(4)短期集中リハビリテーション実施加算の算定の有無 【平成24年10月分】			1. 算定あり 2. 算定なし		

II. 介護予防訪問リハビリテーション事業所の基本情報

(1)介護予防訪問リハビリテーション実施の有無 【平成24年11月1日時点】		1. 実施している 2. 実施していない			
(2)登録者数【平成24年11月1日時点】	要支援1	()人	要支援2	()人	
(3)利用者数【平成24年10月中】					
	実人数	要支援1	()人	要支援2	()人
	延べ人数	要支援1	()人	要支援2	()人
(4)短期集中リハビリテーション実施加算の算定の有無 【平成24年10月分】		1. 算定あり 2. 算定なし			

Ⅲ. 併設施設について【平成 24 年 11 月時点】

(1)他機関の併設有無 (複数回答)	1. 病院併設
	2. 有床診療所併設
	3. 無床診療所併設
	4. 介護保険サービス事業所併設 (平成 24 年 11 月時点でサービス提供を行っている併設事業所)
	①介護老人保健施設 ②通所リハビリテーション事業所 ③居宅介護支援事業所 ④通所介護事業所 ⑤上記以外の介護保険サービス事業所()
	5. その他()
6. 併設機関なし	

Ⅳ. 訪問リハビリテーションに従事する職員体制 (※1) 【平成 24 年 11 月 1 日時点】

	訪問リハビリテーションに従事する常勤職員		訪問リハビリテーションに従事する非常勤職員	
	実人員	常勤換算(※2)	実人員	常勤換算(※2)
理学療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、訪問リハに専従の者	()人	/	()人	/
作業療法士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、訪問リハに専従の者	()人	/	()人	/
言語聴覚士	()人	(.)人	()人	(.)人
うち、訪問リハに専従の者	()人	/	()人	/

(※1)平成 24 年 11 月 1 日現在に訪問リハビリテーション事業所に在籍する職員のうち、訪問リハビリテーションの業務に携わっている者を職種別に計上してください。「介護予防訪問リハビリテーション」と「訪問リハビリテーション」で別々に人員配置を行っている場合は、合算した職員数を記入してください。

(※2)常勤職員で他業務と兼務している場合は、常勤換算で記入してください。訪問リハビリテーション事業所に併設している医療機関等の業務については含めないでください。

常勤換算数の計算方法: 小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで計上してください。得られた結果が0.1に満たない場合は、「0.1」と計上してください。

〔換算数〕 = 〔職員の1週間の勤務時間〕 ÷ 〔事業所が定めている1週間の勤務時間〕

V. ご意見・ご感想

訪問リハビリテーションサービスの提供にあたって、工夫している点や課題などがありましたらお書きください。また、職員に対するリハビリテーションの評価指標の研修実施または参加促進などを行っている場合は、それも併せてお書き下さい。

参考資料 2

生活期リハビリテーションの効果についての
評価方法に関する調査 利用者調査票

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査
【利用者票】

<第1回>

利用者 ID

性別	男性 ・ 女性
年齢	歳
貴事業所の利用開始年月(西暦)	年 月 日

評価者の職種 (いずれか 1つに○)	理学療法士 ・ 作業療法士 ・ 言語聴覚士 ・ 看護職 ・ 介護職 ・ その他
--------------------------	---

調査票投函〆切：平成24年11月23日(金)

I. 利用者の基本情報

		例	第1回
調査日		2012年 11月1日	年 月 日
(1) 調査日時点の要介護度	1=要介護1 2=要介護2 3=要介護3 4=要介護4 5=要介護5	1・2・3・ 4・5	1・2・3・ 4・5
(2) 調査日時点の日常生活自立度	1=自立 2=J1 3=J2 4=A1 5=A2 6=B1 7=B2 8=C1 9=C2	1・2・3・4・5・ 6・7・8・9	1・2・3・4・5・ 6・7・8・9
(3) 調査日時点の認知症高齢者の日常生活自立度	1=自立 2=Ⅰ 3=Ⅱa 4=Ⅱb 5=Ⅲa 6=Ⅳ 7=Ⅴ	1・2・3・4・ 5・6・7	1・2・3・4・ 5・6・7
(4) 今月における利用回数（予定）		8回	回
(5) 調査日における個別リハビリテーション実施の有無	1=有（※） 2=無 ※「1=有」の場合は、個別リハの提供時間もご記入ください。	1・2	1・2
		個別リハ 30分	個別リハ 分
(6) 上記(5)で「1.有」の場合、個別リハを担当した職員の職種（複数回答可）	1=PT 2=OT 3=ST 4=PT・OT・ST 以外の職種	1・2 3・4	1・2 3・4
(7) 現在、有している傷病（複数回答可）	1=脳血管疾患 2=心疾患 3=糖尿病 4=がん 5=腎不全 6=慢性呼吸不全 7=骨折 8=認知症 9=パーキンソン病など神経難病 10=その他 11=なし	1・2・3 4・5・6 7・8・9 10・11	1・2・3 4・5・6 7・8・9 10・11
(8) 必要とする医療的ケア（複数回答可）	1=胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理 2=膀胱（留置）カテーテルの管理 3=人工肛門（ストマ）のケア 4=たんの吸引 5=ネブライザー 6=酸素療法（酸素吸入） 7=気管切開のケア 8=人工呼吸器の管理 9=褥瘡の処置 10=インスリン注射 11=導尿 12=浣腸 13=排便 14=服薬管理 15=その他	1 2 3 4・5 6・7 8・9 10・11・12 13・14・15	1 2 3 4・5 6・7 8・9 10・11・12 13・14・15
(9) 今月算定予定の加算（複数回答可）	1=リハビリテーションマネジメント加算 2=短期集中リハビリテーション実施加算 3=個別リハビリテーション実施加算 4=通所リハにおける訪問の加算 5=認知症短期集中リハビリテーション実施加算 6=重度療養管理加算 7=上記加算はいずれも算定なし	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
(10) 併用している居宅サービス（複数回答可）	1=通所介護 2=訪問介護 3=訪問リハビリテーション 4=訪問看護 5=その他の介護保険サービス 6=不明	1・2 3・4 5・6	1・2 3・4 5・6
(11) 過去2ヶ月間の間に発生した新たな障害（複数回答可）	1=新たな疾患への罹患 2=併存疾患の発症・外傷等 3=生活環境等の急激な変化（入院・転居等） 4=精神的に影響の大きい事象 5=その他 6=特になし	1 2 3 4 5・6	1 2 3 4 5・6
(12) サービス利用前の所在地	1=急性期病院 2=回復期リハ病棟 3=療養病床 4=介護老人保健施設 5=介護老人福祉施設 6=在宅 7=その他（ ）	1・2・3 4・5 6・7（ ）	1・2・3 4・5 6・7（ ）

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【2 Life-Space Assessment】

調査日

第1回

質問項目（過去4週間の活動範囲について）		回答（いずれかに○）
生活空間レベル 1	a この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 2	a この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 3	a この4週間、自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 4	a この4週間、近隣よりも離れた場所（ただし町内）に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 5	a この4週間、町外に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【3 要支援者等の活動能力指標】

調査日	第 1 回
-----	-------

Ⅰ. 老研式活動能力指標

※「老研式活動能力指標の記入の手引き」を参照ください。

毎日の生活についてうかがいます。以下の質問のそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかを選び ○ をつけてください。

質問項目（毎日の生活について）	回答（いずれかに○）
(1) バスや電車を使って一人で外出できますか。	1. はい 2. いいえ
(2) 日用品の買い物ができますか。	1. はい 2. いいえ
(3) 自分で食事の用意ができますか。	1. はい 2. いいえ
(4) 請求書の支払ができますか。	1. はい 2. いいえ
(5) 銀行預金、郵便貯金の出し入れが自分でできますか。	1. はい 2. いいえ
(6) 年金などの書類が書けますか。	1. はい 2. いいえ
(7) 新聞を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(8) 本や雑誌を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(9) 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい 2. いいえ
(10) 友達の家を訪ねることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(11) 家族や友達の相談にのることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(12) 病人を見舞うことができますか。	1. はい 2. いいえ
(13) 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい 2. いいえ

注：“(13)若い人”とは、評価対象者の主観的な感覚で答えてもらってください。（年代の範囲は限定しません。）

Ⅱ. 主観的健康観

あなたの健康状態はいかがですか。あてはまる番号を1つ選び ○ をつけてください。

1	2.	3	4	5
良くない	あまり良くない	ふつう	まあ良い	良い

--	--	--	--	--

Ⅲ. コミュニケーション・生活の広がり

(1) よく会う人はどんな人ですか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. よく会う人はいない※	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事の同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人	6. ボランティアなどの
7. その他 ()	活動での友人	

注1：“よく会う”とは、評価対象者の主観的な感覚で答えてもらってください。

注2：評価対象者にとって、同じ人が複数の属性に該当する場合は、すべてに○をつけてください。

(近所の人であり、幼なじみであり、趣味や関心が同じ友人である場合などは、1, 2, 5 に○)

(2) ふだん、どのようなことを行っていますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

1. 料理	2. 洗濯	3. 掃除
4. ごみ出し	5. 買物	6. 草取り・園芸・畑仕事
7. 散歩・ウォーキング	8. 体操	9. 軽スポーツなどの運動
10. ショッピングや外食 映画・観劇など	11. 会合などへの参加 友人宅の訪問など	12. その他 ()

(3) 病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて、頼れる人はいますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. 頼れる人はいない※	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 同居の家族	2. 別居の家族	3. 友人や同僚・元同僚
4. 近所の人	5. ボランティアの人	6. その他 ()

Ⅳ. 毎月開催される地域の住民等の集いや、趣味活動等の集まりに通っていますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. よく通っている	2. たまに通っている	3. 通っていない	4. 不明
------------	-------------	-----------	-------

注1：敬老会や祭りなどの年間行事は含まれません。

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【4 手段的日常生活動作能力検査】

調査日

第1回

項目	配点	点数	
		男	女
A 電話を使用する能力	1. 自分から電話をかける（電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど） 2. 2,3のよく知っている番号をかける 3. 電話に出るが、自分からかけることはない 4. 全く電話を使用しない	1 1 1 0	1 1 1 0
B 買い物	1. 全ての買い物は自分で行う 2. 少額の買い物は自分で行える 3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要 4. 全く買い物はできない	1 0 0 0	1 0 0 0
C 食事の準備	1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する 2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する 3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない 4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある	/	1 0 0 0
D 家事	1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する（例：重労働など） 2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる 3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない 4. 全ての家事に手助けを必要とする 5. 全ての家事にかかわらない	/	1 1 1 1 0
E 洗濯	1. 自分の洗濯は完全に行う 2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする 3. 全て他人にしてもらわなければならない	/	1 1 0
F 移送の形式	1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する 2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない 3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する 4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する 5. まったく旅行しない	1 1 1 0 0	1 1 1 0 0
G 自分の服薬管理	1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任がもてる 2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる 3. 自分の薬を管理できない	1 0 0	1 0 0
H 財産取り扱い能力	1. 経済的問題を自分で管理して一連の収入を得て、維持する（予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く） 2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする 3. 金銭の取り扱いができない	1 1 0	1 1 0
採点法は各項目ごとに該当する右端の数値を合計する。 (満点：男性5点、女性8点)			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【5 基本的日常生活能力】

調査日	第 1 回
-----	-------

項目	配点	点数
1 食事	10:自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 5:部分介助（たとえば、おかずを切って細かくしてもらう） 0:全介助	
2 車椅子から ベッドへの移動	15:自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む（非行自立も含む） 10:軽度の部分介助または監視を要する 5:座ることは可能であるがほぼ全解除 0:全介助または不可能	
3 整容	5:自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り） 0:部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10:自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 5:部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 0:全介助または不可能	
5 入浴	5:自立 0:部分介助または不可能	
6 歩行	15:45m 以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の有無は問わない 10:45m 以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 5:歩行不能の場合、車椅子にて 45M 以上の操作可能 0:上記以外	
7 階段昇降	10:自立、手すりなどの使用の有無は問わない 5:介助または監視を要する 0:不能	
8 着替え	10:自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 5:部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 0:上記以外	
9 排便 コントロール	10:失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
10 排尿 コントロール	10:失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
注) 代表的な ADL 評価法。100 点満点だからといって独居可能というわけではない。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【6 機能的自立度評価表】

調査日	第1回
-----	-----

		日付	／	評価内容
		評価項目	点	
運動項目	セルフケア	食事		咀嚼、嚥下を含めた食事動作
		整容		口腔ケア、整髪、手洗い、洗顔など
		清拭		風呂、シャワーなどで首から下（背中以外）を洗う
		更衣・上半身		腰より上の更衣および義肢装具の装着
		更衣・下半身		腰より下の更衣および義肢装具の装着
		トイレ動作		衣服の着脱、排泄後の清潔、生理用具の使用
	排泄コントロール	排尿管理		排尿の管理、器具や薬剤の使用を含む
		排便管理		排便の管理、器具や薬剤の使用を含む
	移乗	ベッド・椅子・車椅子		それぞれの間の移乗、起立動作を含む
		トイレ		便器へ（から）の移乗
		浴槽・シャワー		浴槽、シャワー室へ（から）の移乗
	移動	歩行		屋内での歩行
		車椅子		屋内での車椅子移動
		主な移動手段	<input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> 車椅子	
階段			12-14 段の階段昇降	
認知項目	コミュニケーション	理解		聴覚または視覚によるコミュニケーションの理解
		表出		言語的または非言語的表現
	社会的認知	社会的交流		他患、スタッフなどとの交流、社会的状況への順応
		問題解決		日常生活上での問題解決、適切な決断能力
		記憶		日常生活に必要な情報の記憶
		合計点		

FIM ver.3.0

配点
7：完全自立（時間、安全性含め）
6：修正自立（補助具使用）
5：監視
4：最小介助（患者自身で 75%以上）
3：中等度介助（患者自身で 50%以上）
2：最大介助（患者自身で 25%以上）
1：全介助（患者自身で 25%未満）

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【7 意欲】

調査日

第1回

項目	配点	点数
1. 起床	2: いつも定時に起床している 1: 起こさないと起床しないことがある 0: 自分から起床することがない	
2. 意思疎通	2: 自分から挨拶する、話しかける 1: 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔が見られる 0: 反応がない	
3. 食事	2: 自分で進んで食べようとする 1: 促されると食べようとする 0: 食事に関心がない、全く食べようとしない	
4. 排泄	2: いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 1: 時々尿意、便意を伝える 0: 排泄に全く関心がない	
5. リハビリ、活動	2: 自らリハビリに向かう、活動を求める 1: 促されて向かう 0: 拒否、無関心	
除外規定；意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱） 判定上の注意 1) 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2点 2) 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい 3) 器質的消化器疾患を除外。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2点（口まで運んでやった場合も積極的に食べようとするれば2点） 4) 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2点 5) リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもいい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【8 情緒・気分 高齢者抑うつ尺度】

調査日	第 1 回
-----	-------

項目	配点		点数
	1	0	
1 毎日の生活に満足していますか	いいえ	はい	
2 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか	はい	いいえ	
3 生活が空虚だと思いますか	はい	いいえ	
4 毎日が退屈だと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
5 大抵は機嫌良く過ごすことが多いですか	いいえ	はい	
6 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか	はい	いいえ	
7 多くの場合は自分が幸福だと思いますか	いいえ	はい	
8 自分が無力だなあと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
9 外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか	はい	いいえ	
10 なによりもまず、物忘れが気になりますか	はい	いいえ	
11 いま生きていることが素晴らしいと思いますか	いいえ	はい	
12 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか	はい	いいえ	
13 自分が活気にあふれていると思いますか	いいえ	はい	
14 希望がないと思ふことがありますか	はい	いいえ	
15 周りの人があなたより幸せそうに見えますか	はい	いいえ	
注) 5 点以上がうつ傾向、10 点以上が「うつ状態」とされている			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【9 健康関連 QOL】

調査日

第1回

項目	回答
1. 全体的にみて、過去1ヵ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか	1. 最高に良い 2. とても良い 3. 良い 4. あまり良くない 5. 良くない 6. 全然良くない
2. 過去1ヵ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった
3. 過去1ヵ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. いつもの仕事ができなかった
4. 過去1ヵ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。	1. ぜんぜんなかった 2. かすかな痛み 3. 軽い痛み 4. 中くらいの痛み 5. 強い痛み 6. 非常に激しい痛み
5. 過去1ヵ月間、どのくらい元気でしたか。	1. 非常に元気だった 2. かなり元気だった 3. 少し元気だった 4. わずかに元気だった 5. ぜんぜん元気でなかった
6. 過去1ヵ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. つきあいができなかった
7. 過去1ヵ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。	1. ぜんぜん悩まされなかった 2. わずかに悩まされた 3. 少し悩まされた 4. かなり悩まされた 5. 非常に悩まされた
8. 過去1ヵ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【10 認知機能】

調査日

第1回

項目	配点	点数
1 お歳はいくつですか？（2年までの誤差は正解）	0 1	
2 今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？ （年月日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ）	年 0 1	
	月 0 1	
	日 0 1	
	曜日 0 1	
3 私たちがいまいるところはどこですか？ （自発的にできれば2点、5秒おいて家ですか？病院ですか？ 施設ですか？のなかから正しい選択をすれば1点）	0 1 2	
4 これから言う3つの言葉を言ってみてください。 あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 （以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく） 1：a) 桜 b) 猫 c) 電車 2：a) 梅 b) 犬 c) 自動車	a) 0 1	
	b) 0 1	
	c) 0 1	
5 100 から7を順番に引いてください。 （100-7は？、それからまた7を引くと？と質問する。 最初の答えが不正解の場合、打ち切る）	(93) 0 1	
	(86) 0 1	
6 私がこれから言う数字を逆から言ってください。（6-8-2, 3-5-2-9を 逆に言ってもらう、3桁逆唱に失敗したら、打ち切る）	(2-8-6) 0 1	
	(9-2-5-3) 0 1	
7 先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみてください。 （自発的に回答があれば各2点、もし回答がない場合以下のヒントを 与え正解であれば1点） a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a) 0 1 2	
	b) 0 1 2	
	c) 0 1 2	
8 これから5つの品物を見せます。それを隠しますのでなにがあったか か言ってください。 （時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの）	0 1 2 3 4 5	
9 知っている野菜の名前をできるだけ多く言って ください。（答えた野菜の名前を右欄に記入する。 途中で詰まり、約10秒間待ってもでない場合には そこで打ち切る）	0~5=0点,	
	6 =1点,	
	7 =2点,	
	8 =3点,	
	9 =4点,	
10 =5点		
合計得点		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【11 Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版】

調査日	第 1 回
-----	-------

本項目の回答方法 (該当するものに✓をつけてください)	<input type="checkbox"/> 介護者・家族自身が回答 <input type="checkbox"/> 評価者が、介護者・家族に聞き取って回答 <input type="checkbox"/> 評価者の判断で回答 <input type="checkbox"/> 介護者・家族が不在のため回答できない (この場合下記項目には無回答で構いません)
--------------------------------	--

質問項目	回答 (いずれかに○)
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
8 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う

Ⅲ. 利用者に関する特記事項など

調査日

第 1 回

リハビリテーションの実施上、影響を及ぼす特記事項（傷病、特別な医療、がんのターミナル、その他特記すべき心身の状態等）があればご記入ください

本調査を実施するにあたっての問題点、測定困難な評価指標及び評価指標の下位項目などがあればご記入ください。

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査
【利用者票】

<第1回>

利用者 ID	
---------------	--

性別	男性 ・ 女性
年齢	歳
貴事業所の利用開始年月(西暦)	年 月 日

評価者の職種 (いずれか1つに○)	理学療法士 ・ 作業療法士 ・ 言語聴覚士 ・ 看護職 ・ 介護職 ・ その他
----------------------	---

調査票投函〆切：平成24年11月23日（金）

I. 利用者の基本情報

		例	第1回
調査日		2012年 11月1日	年 月 日
(1) 調査日時点の要介護度	1=要介護1 2=要介護2 3=要介護3 4=要介護4 5=要介護5	1・2・ 3 ・ 4・5	1・2・3・ 4・5
(2) 調査日時点の日常生活自立度	1=自立 2=J1 3=J2 4=A1 5=A2 6=B1 7=B2 8=C1 9=C2	1・2・3・4・5・ 6・ 7 ・8・9	1・2・3・4・5・ 6・7・8・9
(3) 調査日時点の認知症高齢者の日常生活自立度	1=自立 2=Ⅰ 3=Ⅱa 4=Ⅱb 5=Ⅲa 6=Ⅳ 7=Ⅴ	1・2・ 3 ・4・ 5・6・7	1・2・3・4・ 5・6・7
(4) 今月における利用回数(予定)		8回	回
(5) 調査日における個別機能訓練実施の有無	1=有(※) 2=無 ※「1=有」の場合は、個別機能訓練の提供時間もご記入ください。	1・2 個別機能訓練 30分	1・2 個別機能訓練 分
(6) 上記(5)で「1.有」の場合、個別機能訓練を担当した職員の職種(複数回答可)	1=PT 2=OT 3=ST 4=PT・OT・ST以外の職種	1 ・2・ 3・4	1・2・ 3・4
(7) 現在、有している傷病(複数回答可)	1=脳血管疾患 2=心疾患 3=糖尿病 4=がん 5=腎不全 6=慢性呼吸不全 7=骨折 8=認知症 9=パーキンソン病など神経難病 10=その他 11=なし	1 ・2・ 3 ・ 4・5・ 6・7・8・ 9・10・ 11	1・2・3・ 4・5・ 6・7・8・ 9・10・ 11
(8) 必要とする医療的ケア(複数回答可)	1=胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理 2=膀胱(留置)カテーテルの管理 3=人工肛門(ストマ)のケア 4=たんの吸引 5=ネブライザー 6=酸素療法(酸素吸入) 7=気管切開のケア 8=人工呼吸器の管理 9=褥瘡の処置 10=インスリン注射 11=導尿 12=浣腸 13=摘便 14=服薬管理 15=その他	1・ 2・ 3・ 4・5・ 6・7・ 8・9・ 10 ・11・ 12・13・ 14 ・15	1・ 2・ 3・ 4・5・ 6・7・ 8・9・ 10・11・ 12・13・ 14・15
(9) 今月算定予定の加算(複数回答可)	1=個別機能訓練加算(Ⅰ) 2=個別機能訓練加算(Ⅱ)	1 2	1 2
(10) 併用している居宅サービス(複数回答可)	1=通所リハビリテーション 2=訪問介護 3=訪問リハビリテーション 4=訪問看護 5=その他の介護保険サービス 6=不明	1・2 3 ・4 5・6	1・2 3・4 5・6
(11) 過去2ヶ月間の間に発生した新たな障害(複数回答可)	1=新たな疾患への罹患 2=併存疾患の発症・外傷等 3=生活環境等の急激な変化(入院・転居等) 4=精神的に影響の大きい事象 5=その他 6=特になし	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
(12) サービス利用前の所在地	1=急性期病院 2=回復期リハビリ病棟 3=療養病床 4=介護老人保健施設 5=介護老人福祉施設 6=在宅 7=その他()	1 ・2・3 4・5 6・7()	1・2・3 4・5 6・7()

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【2 Life-Space Assessment】

調査日

第1回

質問項目（過去4週間の活動範囲について）		回答（いずれかに○）
生活空間レベル1	a この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル2	a この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル3	a この4週間、自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル4	a この4週間、近隣よりも離れた場所（ただし町内）に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル5	a この4週間、町外に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ

Ⅲ. コミュニケーション・生活の広がり

(1) よく会う人はどんな人ですか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. よく会う人はいない※	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事の同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人	6. ボランティアなどの
7. その他 ()	活動での友人	

注1：“よく会う”とは、評価対象者の主観的な感覚で答えてもらってください。

注2：評価対象者にとって、同じ人が複数の属性に該当する場合は、すべてに○をつけてください。

(近所の人であり、幼なじみであり、趣味や関心が同じ友人である場合などは、1, 2, 5に○)

(2) ふだん、どのようなことを行っていますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

1. 料理	2. 洗濯	3. 掃除
4. ごみ出し	5. 買物	6. 草取り・園芸・畑仕事
7. 散歩・ウォーキング	8. 体操	9. 軽スポーツなどの運動
10. ショッピングや外食 映画・観劇など	11. 会合などへの参加 友人宅の訪問など	12. その他 ()

(3) 病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて、頼れる人はいますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. 頼れる人はいない※	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 同居の家族	2. 別居の家族	3. 友人や同僚・元同僚
4. 近所の人	5. ボランティアの人	6. その他 ()

Ⅳ. 毎月開催される地域の住民等の集いや、趣味活動等の集まりに通っていますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. よく通っている	2. たまに通っている	3. 通っていない	4. 不明
------------	-------------	-----------	-------

注1：敬老会や祭りなどの年間行事は含まれません。

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【4 手段的日常生活動作能力検査】

調査日	第 1 回
-----	-------

項目	配点	点数	
		男	女
A 電話を使用する能力	5. 自分から電話をかける（電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど） 6. 2,3のよく知っている番号をかける 7. 電話に出るが、自分からかけることはない 8. 全く電話を使用しない	1 1 1 0	1 1 1 0
B 買い物	5. 全ての買い物は自分で行う 6. 少額の買い物は自分で行える 7. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要 8. 全く買い物はできない	1 0 0 0	1 0 0 0
C 食事の準備	5. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する 6. 材料が供与されれば適切な食事を準備する 7. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない 8. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある	/	1 0 0 0
D 家事	6. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する（例：重労働など） 7. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる 8. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない 9. 全ての家事に手助けを必要とする 10. 全ての家事にかかわらない	/	1 1 1 1 0
E 洗濯	4. 自分の洗濯は完全に行う 5. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする 6. 全て他人にしてもらわなければならない	/	1 1 0
F 移送の形式	6. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する 7. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない 8. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する 9. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する 10. まったく旅行しない	1 1 1 0 0	1 1 1 0 0
G 自分の服薬管理	4. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任がもてる 5. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる 6. 自分の薬を管理できない	1 0 0	1 0 0
H 財産取り扱い能力	4. 経済的問題を自分で管理して一連の収入を得て、維持する（予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く） 5. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする 6. 金銭の取り扱いができない	1 1 0	1 1 0
採点法は各項目ごとに該当する右端の数値を合計する。 (満点：男性5点、女性8点)			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【5 基本的日常生活能力】

調査日

第1回

項目	配点	点数
1 食事	10:自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 5:部分介助（たとえば、おかずを切って細かくしてもらう） 0:全介助	
2 車椅子から ベッドへの移動	15:自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む（非行自立も含む） 10:軽度の部分介助または監視を要する 5:座ることは可能であるがほぼ全解除 0:全介助または不可能	
3 整容	5:自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り） 0:部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10:自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを 使用している場合はその洗浄も含む 5:部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 0:全介助または不可能	
5 入浴	5:自立 0:部分介助または不可能	
6 歩行	15:45m以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の 有無は問わない 10:45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 5:歩行不能の場合、車椅子にて45M以上の操作可能 0:上記以外	
7 階段昇降	10:自立、手すりなどの使用の有無は問わない 5:介助または監視を要する 0:不能	
8 着替え	10:自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 5:部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 0:上記以外	
9 排便 コントロール	10:失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
10 排尿 コントロール	10:失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
注) 代表的な ADL 評価法。100 点満点だからといって独居可能というわけではない。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【6 機能的自立度評価表】

調査日	第1回
-----	-----

		日付	／ 点	評価内容
		評価項目		
運動項目	セルフケア	食事		咀嚼、嚥下を含めた食事動作
		整容		口腔ケア、整髪、手洗い、洗顔など
		清拭		風呂、シャワーなどで首から下（背中以外）を洗う
		更衣・上半身		腰より上の更衣および義肢装具の装着
		更衣・下半身		腰より下の更衣および義肢装具の装着
		トイレ動作		衣服の着脱、排泄後の清潔、生理用具の使用
	排泄コントロール	排尿管理		排尿の管理、器具や薬剤の使用を含む
		排便管理		排便の管理、器具や薬剤の使用を含む
	移乗	ベッド・椅子・車椅子		それぞれの間の移乗、起立動作を含む
		トイレ		便器へ（から）の移乗
		浴槽・シャワー		浴槽、シャワー室へ（から）の移乗
	移動	歩行		屋内での歩行
		車椅子		屋内での車椅子移動
		主な移動手段	<input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> 車椅子	
階段			12-14 段の階段昇降	
認知項目	コミュニケーション	理解		聴覚または視覚によるコミュニケーションの理解
		表出		言語的または非言語的表現
	社会的認知	社会的交流		他患、スタッフなどとの交流、社会的状況への順応
		問題解決		日常生活上での問題解決、適切な決断能力
		記憶		日常生活に必要な情報の記憶
		合計点		

FIM ver.3.0

配点
7：完全自立（時間、安全性含め）
6：修正自立（補助具使用）
5：監視
4：最小介助（患者自身で75%以上）
3：中等度介助（患者自身で50%以上）
2：最大介助（患者自身で25%以上）
1：全介助（患者自身で25%未満）

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【7 意欲】

調査日	第1回
-----	-----

項目	配点	点数
1. 起床	2: いつも定時に起床している 1: 起こさないと起床しないことがある 0: 自分から起床することがない	
2. 意思疎通	2: 自分から挨拶する、話しかける 1: 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔が見られる 0: 反応がない	
3. 食事	2: 自分で進んで食べようとする 1: 促されると食べようとする 0: 食事に関心がない、全く食べようとししない	
4. 排泄	2: いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 1: 時々尿意、便意を伝える 0: 排泄に全く関心がない	
5. リハビリ、活動	2: 自らリハビリに向かう、活動を求める 1: 促されて向かう 0: 拒否、無関心	
除外規定；意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱） 判定上の注意		
6) 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2点 7) 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい 8) 器質的消化器疾患を除外。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2点（口まで運んでやった場合も積極的に食べようとするれば2点） 9) 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2点 10) リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもいい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【8 情緒・気分 高齢者抑うつ尺度】

調査日	第1回
-----	-----

項目	配点		点数
	1	0	
1 毎日の生活に満足していますか	いいえ	はい	
2 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか	はい	いいえ	
3 生活が空虚だと思いませんか	はい	いいえ	
4 毎日が退屈だと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
5 大抵は機嫌良く過ごすことが多いですか	いいえ	はい	
6 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか	はい	いいえ	
7 多くの場合は自分が幸福だと思いませんか	いいえ	はい	
8 自分が無力だなあと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
9 外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いませんか	はい	いいえ	
10 なによりもまず、物忘れが気になりますか	はい	いいえ	
11 いま生きていることが素晴らしいと思いませんか	いいえ	はい	
12 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか	はい	いいえ	
13 自分が活気にあふれていると思いませんか	いいえ	はい	
14 希望がないと思ふことがありますか	はい	いいえ	
15 周りの人があなたより幸せそうに見えますか	はい	いいえ	
注) 5点以上がうつ傾向、10点以上が「うつ状態」とされている			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【9 健康関連 QOL】

調査日

第1回

項目	回答
1. 全体的にみて、過去1ヵ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか	1. 最高に良い 2. とても良い 3. 良い 4. あまり良くない 5. 良くない 6. 全然良くない
2. 過去1ヵ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった
3. 過去1ヵ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. いつもの仕事ができなかった
4. 過去1ヵ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。	1. ぜんぜんなかった 2. かすかな痛み 3. 軽い痛み 4. 中くらいの痛み 5. 強い痛み 6. 非常に激しい痛み
5. 過去1ヵ月間、どのくらい元気でしたか。	1. 非常に元気だった 2. かなり元気だった 3. 少し元気だった 4. わずかに元気だった 5. ぜんぜん元気でなかった
6. 過去1ヵ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. つきあいができなかった
7. 過去1ヵ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。	1. ぜんぜん悩まされなかった 2. わずかに悩まされた 3. 少し悩まされた 4. かなり悩まされた 5. 非常に悩まされた
8. 過去1ヵ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【10 認知機能】

調査日	第1回
-----	-----

項目	配点	点数
1 お歳はいくつですか？（2年までの誤差は正解）	0 1	
2 今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？ （年月日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ）	年	0 1
	月	0 1
	日	0 1
	曜日	0 1
3 私たちがいまいるところはどこですか？ （自発的にできれば2点、5秒おいて家ですか？病院ですか？施設ですか？のなかから正しい選択をすれば1点）	0 1 2	
4 これから言う3つの言葉を言ってみてください。 あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 （以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく） 1：a) 桜 b) 猫 c) 電車 2：a) 梅 b) 犬 c) 自動車	a)	0 1
	b)	0 1
	c)	0 1
5 100から7を順番に引いてください。 （100-7は？、それからまた7を引くと？と質問する。 最初の答えが不正解の場合、打ち切る）	(93)	0 1
	(86)	0 1
6 私がこれから言う数字を逆から言ってください。（6-8-2, 3-5-2-9を逆にしてもらう、3桁逆唱に失敗したら、打ち切る）	(2-8-6)	0 1
	(9-2-5-3)	0 1
7 先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってください。 （自発的に回答があれば各2点、もし回答がない場合以下のヒントを与え正解であれば1点） a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a)	0 1 2
	b)	0 1 2
	c)	0 1 2
8 これから5つの品物を見せます。それを隠しますのでなにがあったか言ってください。 （時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの）	0 1 2 3 4 5	
9 知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください。（答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待ってもでない場合にはそこで打ち切る）		0~5=0点,
		6 =1点,
		7 =2点,
		8 =3点,
		9 =4点,
	10 =5点	
合計得点		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【11 Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版】

調査日	第 1 回
-----	-------

本項目の回答方法 (該当するものに✓をつけてください)	<input type="checkbox"/> 介護者・家族自身が回答 <input type="checkbox"/> 評価者が、介護者・家族に聞き取って回答 <input type="checkbox"/> 評価者の判断で回答 <input type="checkbox"/> 介護者・家族が不在のため回答できない (この場合下記項目には無回答で構いません)
--------------------------------	--

質問項目	回答 (いずれかに○)
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
7 介護をだれかに任せたいと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
8 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う

Ⅲ. 利用者に関する特記事項など

調査日

第1回

機能訓練の実施上、影響を及ぼす特記事項（傷病、特別な医療、がんのターミナル、その他特記すべき心身の状態等）があればご記入ください

本調査を実施するにあたっての問題点、測定困難な評価指標及び評価指標の下位項目などがあればご記入ください。

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に関する調査
【利用者票】

<第1回>

利用者 ID

性別	男性 ・ 女性
年齢	歳
貴事業所の利用開始年月(西暦)	年 月 日

評価者の職種 (いずれか 1つに○)	理学療法士 ・ 作業療法士 ・ 言語聴覚士 ・ 看護職 ・ 介護職 ・ その他
--------------------------	---

調査票投函〆切：平成24年11月23日(金)

I. 利用者の基本情報

		例	第1回
調査日		2012年 11月1日	年 月 日
(1) 調査日時点の要介護度	1=要介護1 2=要介護2 3=要介護3 4=要介護4 5=要介護5	1・2・(3)・ 4・5	1・2・3・ 4・5
(2) 調査日時点の日常生活自立度	1=自立 2=J1 3=J2 4=A1 5=A2 6=B1 7=B2 8=C1 9=C2	1・2・3・4・5・ 6・(7)・8・9	1・2・3・4・5・ 6・7・8・9
(3) 調査日時点の認知症高齢者の日常生活自立度	1=自立 2=Ⅰ 3=Ⅱa 4=Ⅱb 5=Ⅲa 6=Ⅳ 7=Ⅴ	1・2・(3)・4・ 5・6・7	1・2・3・4・ 5・6・7
(4) 今月における利用回数(予定)		8回	回
(5) 調査日に担当した職員の職種(複数回答可)	1=PT 2=OT 3=ST	1・(2)・ 3	1・2・ 3
(6) 現在、有している傷病(複数回答可)	1=脳血管疾患 2=心疾患 3=糖尿病 4=がん 5=腎不全 6=慢性呼吸不全 7=骨折 8=認知症 9=パーキンソン病など神経難病 10=その他 11=なし	(1)・2・(3)・ 4・5・ 6・7・8・ 9・10・ 11	1・2・3・ 4・5・ 6・7・8・ 9・10・ 11
(7) 必要とする医療的ケア(複数回答可)	1=胃ろう・経鼻経管栄養による栄養管理 2=膀胱(留置)カテーテルの管理 3=人工肛門(ストマ)のケア 4=たんの吸引 5=ネブライザー 6=酸素療法(酸素吸入) 7=気管切開のケア 8=人工呼吸器の管理 9=褥瘡の処置 10=インスリン注射 11=導尿 12=浣腸 13=排便 14=服薬管理 15=その他	1・ 2・ 3・ 4・5・ 6・7・ 8・9・ (10)・11・ 12・13・ (14)・15	1・ 2・ 3・ 4・5・ 6・7・ 8・9・ 10・11・ 12・13・ 14・15
(8) 今月算定予定の加算	1=短期集中リハビリテーション実施加算	(1)	1
(9) 併用している居宅サービス(複数回答可)	1=通所リハビリテーション 2=通所介護 3=訪問介護 4=訪問看護 5=その他の介護保険サービス 6=不明	1 (2) 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6
(10) 過去2ヶ月間の間に発生した新たな障害(複数回答可)	1=新たな疾患への罹患 2=併存疾患の発症・外傷等 3=生活環境等の急激な変化(入院・転居等) 4=精神的に影響の大きい事象 5=その他 6=特になし	1 (2) 3 4 5・6	1 2 3 4 5・6
(11) サービス利用前の所在地	1=急性期病院 2=回復期リハビリ病棟 3=療養病床 4=介護老人保健施設 5=介護老人福祉施設 6=在宅 7=その他()	(1)・2・3 4・5 6・7()	1・2・3 4・5 6・7()

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【1 高齢者生活機能調査基本チェックリスト】

調査日	第1回
-----	-----

質問項目	回答 (いずれかに○)
1 バスや電車で一人で外出していますか	1 はい 2 いいえ
2 日用品の買い物をしていますか	1 はい 2 いいえ
3 預貯金の出し入れをしていますか	1 はい 2 いいえ
4 友人の家を訪ねていますか	1 はい 2 いいえ
5 家族や友人の相談にのっていますか	1 はい 2 いいえ
6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1 はい 2 いいえ
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1 はい 2 いいえ
8 15分位続けて歩いていますか	1 はい 2 いいえ
9 この1年間に転んだことがありますか	1 はい 2 いいえ
10 転倒に対する不安は大きいですか	1 はい 2 いいえ
11 6か月で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1 はい 2 いいえ
12 身長 cm 体重 kg (BMI =) (注)	
13 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1 はい 2 いいえ
14 お茶や汁物等でむせることがありますか	1 はい 2 いいえ
15 口の渇きが気になりますか	1 はい 2 いいえ
16 週に1回以上は外出していますか	1 はい 2 いいえ
17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1 はい 2 いいえ
18 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか	1 はい 2 いいえ
19 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	1 はい 2 いいえ
20 今日が何月何日か分からない時がありますか	1 はい 2 いいえ
21 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1 はい 2 いいえ
22 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1 はい 2 いいえ
23 (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1 はい 2 いいえ
24 (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1 はい 2 いいえ
25 (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1 はい 2 いいえ

(注) BMI = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【2 Life-Space Assessment】

調査日

第1回

質問項目（過去4週間の活動範囲について）		回答（いずれかに○）
生活空間レベル 1	a この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 2	a この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、（マンションの）廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 3	a この4週間、自宅の庭またはマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 4	a この4週間、近隣よりも離れた場所（ただし町内）に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ
生活空間レベル 5	a この4週間、町外に外出しましたか。	①はい ②いいえ
	b この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	①週1回未満 ②週1～3回 ③週4～6回 ④毎日
	c 上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	①はい ②いいえ
	d 上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	①はい ②いいえ

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【3 要支援者等の活動能力指標】

調査日	第 1 回
-----	-------

Ⅰ. 老研式活動能力指標

※「老研式活動能力指標の記入の手引き」を参照ください。

毎日の生活についてうかがいます。以下の質問のそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかを選び ○ をつけてください。

質問項目（毎日の生活について）	回答（いずれかに○）
(1) バスや電車を使って一人で外出できますか。	1. はい 2. いいえ
(2) 日用品の買い物ができますか。	1. はい 2. いいえ
(3) 自分で食事の用意ができますか。	1. はい 2. いいえ
(4) 請求書の支払ができますか。	1. はい 2. いいえ
(5) 銀行預金、郵便貯金の出し入れが自分でできますか。	1. はい 2. いいえ
(6) 年金などの書類が書けますか。	1. はい 2. いいえ
(7) 新聞を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(8) 本や雑誌を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(9) 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい 2. いいえ
(10) 友達の家を訪ねることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(11) 家族や友達の相談にのることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(12) 病人を見舞うことができますか。	1. はい 2. いいえ
(13) 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい 2. いいえ

注：“(13)若い人”とは、評価対象者の主観的な感覚で答えてもらってください。（年代の範囲は限定しません。）

Ⅱ. 主観的健康観

あなたの健康状態はいかがですか。あてはまる番号を1つ選び ○ をつけてください。

1 2 3 4 5
 良くない あまり良くない ふつう まあ良い 良い

--	--	--	--	--

Ⅲ. コミュニケーション・生活の広がり

(1) よく会う人はどんな人ですか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. よく会う人はいない*	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 近所・同じ地域の人	2. 幼なじみ	3. 学生時代の友人
4. 仕事の同僚・元同僚	5. 趣味や関心が同じ友人	6. ボランティアなどの
7. その他 ()	活動での友人	

注1：“よく会う”とは、評価対象者の主観的な感覚で答えてもらってください。

注2：評価対象者にとって、同じ人が複数の属性に該当する場合は、すべてに○をつけてください。

(近所の人であり、幼なじみであり、趣味や関心が同じ友人である場合などは、1, 2, 5 に○)

(2) ふだん、どのようなことを行っていますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

1. 料理	2. 洗濯	3. 掃除
4. ごみ出し	5. 買物	6. 草取り・園芸・畑仕事
7. 散歩・ウォーキング	8. 体操	9. 軽スポーツなどの運動
10. ショッピングや外食 映画・観劇など	11. 会合などへの参加 友人宅の訪問など	12. その他 ()

(3) 病気のときや、一人ではできない家の周りの仕事の手伝いなどについて、頼れる人はいますか。

あてはまる全ての番号を選び ○ をつけてください。

0. 頼れる人はいない*	※この選択肢を選んだ場合は、他の選択肢を選ぶことはできません。	
1. 同居の家族	2. 別居の家族	3. 友人や同僚・元同僚
4. 近所の人	5. ボランティアの人	6. その他 ()

Ⅳ. 毎月開催される地域の住民等の集いや、趣味活動等の集まりに通っていますか。

あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. よく通っている	2. たまに通っている	3. 通っていない	4. 不明
------------	-------------	-----------	-------

注1：敬老会や祭りなどの年間行事は含まれません。

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【4 手段的日常生活動作能力検査】

調査日

第1回

項目	配点	点数	
		男	女
A 電話を使用する能力	9. 自分から電話をかける（電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど） 10. 2,3のよく知っている番号をかける 11. 電話に出るが、自分からかけることはない 12. 全く電話を使用しない	1 1 1 0	1 1 1 0
B 買い物	9. 全ての買い物は自分で行う 10. 少額の買い物は自分で行える 11. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要 12. 全く買い物はできない	1 0 0 0	1 0 0 0
C 食事の準備	9. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する 10. 材料が供与されれば適切な食事を準備する 11. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない 12. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある	/	1 0 0 0
D 家事	11. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する（例：重労働など） 12. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる 13. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない 14. 全ての家事に手助けを必要とする 15. 全ての家事にかかわらない	/	1 1 1 1 0
E 洗濯	7. 自分の洗濯は完全に行う 8. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする 9. 全て他人にしてもらわなければならない	/	1 1 0
F 移送の形式	11. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する 12. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない 13. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する 14. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する 15. まったく旅行しない	1 1 1 0 0	1 1 1 0 0
G 自分の服薬管理	7. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任がもてる 8. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる 9. 自分の薬を管理できない	1 0 0	1 0 0
H 財産取り扱い能力	7. 経済的問題を自分で管理して一連の収入を得て、維持する（予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く） 8. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする 9. 金銭の取り扱いができない	1 1 0	1 1 0
採点法は各項目ごとに該当する右端の数値を合計する。 (満点：男性5点、女性8点)			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【5 基本的日常生活能力】

調査日

第1回

項目	配点	点数
1 食事	10:自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 5:部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 0:全介助	
2 車椅子から ベッドへの移動	15:自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 10:軽度の部分介助または監視を要する 5:座ることは可能であるがほぼ全解除 0:全介助または不可能	
3 整容	5:自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 0:部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10:自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを 使用している場合はその洗浄も含む 5:部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 0:全介助または不可能	
5 入浴	5:自立 0:部分介助または不可能	
6 歩行	15:45m以上の歩行、補装具(車椅子、歩行器は除く)の使用の 有無は問わない 10:45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 5:歩行不能の場合、車椅子にて45M以上の操作可能 0:上記以外	
7 階段昇降	10:自立、手すりなどの使用の有無は問わない 5:介助または監視を要する 0:不能	
8 着替え	10:自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 5:部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 0:上記以外	
9 排便 コントロール	10:失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
10 排尿 コントロール	10:失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 5:ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 0:上記以外	
注) 代表的な ADL 評価法。100 点満点だからといって独居可能というわけではない。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【6 機能的自立度評価表】

調査日	第1回
-----	-----

		日付	／	評価内容
		評価項目	点	
運動項目	セルフケア	食事		咀嚼、嚥下を含めた食事動作
		整容		口腔ケア、整髪、手洗い、洗顔など
		清拭		風呂、シャワーなどで首から下（背中以外）を洗う
		更衣・上半身		腰より上の更衣および義肢装具の装着
		更衣・下半身		腰より下の更衣および義肢装具の装着
		トイレ動作		衣服の着脱、排泄後の清潔、生理用具の使用
	排泄コントロール	排尿管理		排尿の管理、器具や薬剤の使用を含む
		排便管理		排便の管理、器具や薬剤の使用を含む
	移乗	ベッド・椅子・車椅子		それぞれの間の移乗、起立動作を含む
		トイレ		便器へ（から）の移乗
		浴槽・シャワー		浴槽、シャワー室へ（から）の移乗
	移動	歩行		屋内での歩行
		車椅子		屋内での車椅子移動
		主な移動手段	<input type="checkbox"/> 歩行 <input type="checkbox"/> 車椅子	
階段			12-14段の階段昇降	
認知項目	コミュニケーション	理解		聴覚または視覚によるコミュニケーションの理解
		表出		言語的または非言語的表現
	社会的認知	社会的交流		他患、スタッフなどとの交流、社会的状況への順応
		問題解決		日常生活上での問題解決、適切な決断能力
		記憶		日常生活に必要な情報の記憶
		合計点		

FIM ver.3.0

配点
7：完全自立（時間、安全性含め）
6：修正自立（補助具使用）
5：監視
4：最小介助（患者自身で75%以上）
3：中等度介助（患者自身で50%以上）
2：最大介助（患者自身で25%以上）
1：全介助（患者自身で25%未満）

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【7 意欲】

調査日

第 1 回

項目	配点	点数
1. 起床	2: いつも定時に起床している 1: 起こさないと起床しないことがある 0: 自分から起床することがない	
2. 意思疎通	2: 自分から挨拶する、話しかける 1: 挨拶、呼びかけに対し返答や笑顔が見られる 0: 反応がない	
3. 食事	2: 自分で進んで食べようとする 1: 促されると食べようとする 0: 食事に関心がない、全く食べようとしない	
4. 排泄	2: いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排便、排尿を行う 1: 時々尿意、便意を伝える 0: 排泄に全く関心がない	
5. リハビリ、活動	2: 自らリハビリに向かう、活動を求める 1: 促されて向かう 0: 拒否、無関心	
除外規定；意識障害、高度の臓器障害、急性疾患（肺炎など発熱） 判定上の注意		
11) 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば 2 点		
12) 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい		
13) 器質的消化器疾患を除外。麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば 2 点（口まで運んでやった場合も積極的に食べようとすれば 2 点）		
14) 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば 2 点		
15) リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもいい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【8 情緒・気分 高齢者抑うつ尺度】

調査日

第1回

項目	配点		点数
	1	0	
1 毎日の生活に満足していますか	いいえ	はい	
2 毎日の活動力や周囲に対する興味が低下したと思いますか	はい	いいえ	
3 生活が空虚だと思いますか	はい	いいえ	
4 毎日が退屈だと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
5 大抵は機嫌良く過ごすことが多いですか	いいえ	はい	
6 将来の漠然とした不安に駆られることが多いですか	はい	いいえ	
7 多くの場合は自分が幸福だと思いますか	いいえ	はい	
8 自分が無力だなあと思ふことが多いですか	はい	いいえ	
9 外出したり何か新しいことをするよりも家にいたいと思いますか	はい	いいえ	
10 なによりもまず、物忘れが気になりますか	はい	いいえ	
11 いま生きていることが素晴らしいと思いますか	いいえ	はい	
12 生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか	はい	いいえ	
13 自分が活気にあふれていると思いますか	いいえ	はい	
14 希望がないと思ふことがありますか	はい	いいえ	
15 周りの人があなたより幸せそうに見えますか	はい	いいえ	
注) 5点以上がうつ傾向、10点以上が「うつ状態」とされている			

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【9 健康関連 QOL】

調査日

第1回

項目	回答
1. 全体的にみて、過去1ヵ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか	1. 最高に良い 2. とても良い 3. 良い 4. あまり良くない 5. 良くない 6. 全然良くない
2. 過去1ヵ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった
3. 過去1ヵ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. いつもの仕事ができなかった
4. 過去1ヵ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。	1. ぜんぜんなかった 2. かすかな痛み 3. 軽い痛み 4. 中くらいの痛み 5. 強い痛み 6. 非常に激しい痛み
5. 過去1ヵ月間、どのくらい元気でしたか。	1. 非常に元気だった 2. かなり元気だった 3. 少し元気だった 4. わずかに元気だった 5. ぜんぜん元気でなかった
6. 過去1ヵ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. つきあいができなかった
7. 過去1ヵ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。	1. ぜんぜん悩まされなかった 2. わずかに悩まされた 3. 少し悩まされた 4. かなり悩まされた 5. 非常に悩まされた
8. 過去1ヵ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。	1. ぜんぜん妨げられなかった 2. わずかに妨げられた 3. 少し妨げられた 4. かなり妨げられた 5. 体を使う日常生活が出来なかった

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【10 認知機能】

調査日

第1回

項目	配点	点数
1 お歳はいくつですか？（2年までの誤差は正解）	0 1	
2 今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？ （年月日、曜日が正解でそれぞれ1点ずつ）	年 0 1	
	月 0 1	
	日 0 1	
	曜日 0 1	
3 私たちがいまいるところはどこですか？ （自発的にできれば2点、5秒おいて家ですか？病院ですか？ 施設ですか？のなかから正しい選択をすれば1点）	0 1 2	
4 これから言う3つの言葉を言ってみてください。 あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 （以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく） 1：a) 桜 b) 猫 c) 電車 2：a) 梅 b) 犬 c) 自動車	a) 0 1	
	b) 0 1	
	c) 0 1	
5 100 から7を順番に引いてください。 （100-7は？、それからまた7を引くと？と質問する。 最初の答えが不正解の場合、打ち切る）	(93) 0 1	
	(86) 0 1	
6 私がこれから言う数字を逆から言ってください。（6-8-2, 3-5-2-9を 逆に言ってもらい、3桁逆唱に失敗したら、打ち切る）	(2-8-6) 0 1	
	(9-2-5-3) 0 1	
7 先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってください。 （自発的に回答があれば各2点、もし回答がない場合以下のヒントを 与え正解であれば1点） a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a) 0 1 2	
	b) 0 1 2	
	c) 0 1 2	
8 これから5つの品物を見せます。それを隠しますのでなにがあったか か言ってください。 （時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの）	0 1 2 3 4 5	
9 知っている野菜の名前をできるだけ多く言って ください。（答えた野菜の名前を右欄に記入する。 途中で詰まり、約10秒間待ってもでない場合には そこで打ち切る）	0~5=0点,	
	6 =1点,	
	7 =2点,	
	8 =3点,	
	9 =4点,	
10 =5点		
合計得点		

Ⅱ. 利用者のアウトカム評価指標【11 Zarit 介護負担尺度日本語版 短縮版】

調査日	第 1 回
-----	-------

本項目の回答方法 (該当するものに✓をつけてください)	<input type="checkbox"/> 介護者・家族自身が回答 <input type="checkbox"/> 評価者が、介護者・家族に聞き取って回答 <input type="checkbox"/> 評価者の判断で回答 <input type="checkbox"/> 介護者・家族が不在のため回答できない (この場合下記項目には無回答で構いません)
--------------------------------	--

質問項目	回答 (いずれかに○)
1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思いますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
6 介護を受けている方が家にいるので、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う
8 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	1 思わない 2 たまに思う 3 時々思う 4 よく思う 5 いつも思う

Ⅲ. 利用者に関する特記事項など

調査日

第 1 回

リハビリテーションの実施上、影響を及ぼす特記事項（傷病、特別な医療、がんのターミナル、その他特記すべき心身の状態等）があればご記入ください

本調査を実施するにあたっての問題点、測定困難な評価指標及び評価指標の下位項目などがあればご記入ください。

平成 24 年度 老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

生活期リハビリテーションの効果についての評価方法に
関する調査研究事業 報告書

平成 25（2013）年 3 月発行

発行 株式会社 三菱総合研究所 人間・生活研究本部

〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3

TEL 03（6705）6024 FAX 03（5157）2143

不許複製